

Monthly Report

希望を胸に新たな一歩踏み出す/令和3年度入学式



入学生代表宣誓・三上大翔さん（体育学科1年）

「令和3年度仙台大学第55回体育学部並びに第24回大学院入学式」は4月3日（土）、学内の第5体育館で行われ、新入生664名（体育学科386名、健康福祉学科76名、運動栄養学科76名、スポーツ情報マスメディア学科37名、現代武道学科42名、子ども運動教育学科29名、転編入生3名、大学院スポーツ科学研究科15名）が、希望を胸に新たな一歩を踏み出しました。

式は新型コロナウイルス感染予防対策から時間を短縮し、会場の換気も十分気遣いながら、学生と関係教職員のみの出席で執り行いました。

式典の様子は仙台大学公式YouTubeチャンネルでLIVE配信しました。（約1週間の配信）

<学長式辞・高橋仁>

ただいま、体育学部と大学院スポーツ科学研究科、合わせて664名の皆さんの入学を許可いたしました。私たちとともに、この仙台大学で、体育、スポーツ、健康科学を研究する仲間となった皆さんを、心から歓迎いたします。

本学は、東北地区唯一の体育スポーツ系大学として、「実学と創意工夫」の建学の精神のもと、「スポーツ・フォア・オール」をモットーに、自らの実践を通して学び、研究しています。本日入学した皆さんには、授業や部活動をはじめ学生生活全般において「知・徳・体」を磨き、人間力を高め、それぞれの目標を達成するよう願っています。

本学では、研究活動とともにスポーツによる地域貢献やボランティア活動にも力を入れています。10年前の東日本大震災が発生した際にも、避難所での健康運動など、さまざまなボランティアとして多くの先輩方が活動しました。これまでの復興途上の不自由な環境のもとでも、スポーツはいろいろな形で人々を元気づけ、前に進む「勇気」を与えてきました。

<目次>

・希望を胸に新たな一歩踏み出す/令和3年度入学式	1
・令和2年度仙台大学履修証明プログラム「乳幼児運動あそび指導者育成プログラム」修了式を開催	2
・仙台大学紀要第52巻第2号を発刊 ・高橋学長、明成高校新入生を激励 ・健康づくり運動サポーター認定証書授与式を開催	3
・2021年度スポーツマネジメントコース春季研修会実施報告	4
・芝草通信 NO. 24	5
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 36 ・本学から4名がクリケット女子日本代表強化選手に選出されました	6
・令和3年度 新任者紹介	7 ～ 9

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

現在、新型コロナウイルスによって、スポーツは、再び強い逆風にさらされています。しかし、コロナ禍の中で開催された昨年末のバスケットボールウインターカップでは、仙台大学附属明成高校が逆転優勝を果たし、諦めないことの大切さを教えてくれました。また、春の選抜高校野球大会でも多くの感動がありました。そして、本学では、先輩アスリートたちが1年延期となった東京オリンピック、パラリンピック大会を目指して努力を続けています。

皆さんには、コロナ禍の中で不自由な生活を強いられる面がありますが、これをネガティブに考えるだけでなく、コロナ禍におけるスポーツの価値を考え体育・スポーツ・健康を科学する貴重な機会として、前向きに捉えてほしいと思います。

「ニューノーマル」の時代におけるスポーツの在り方を研究・実践し、充実した学生生活を送ることができるよう、教職員一同、全力でサポートしてまいります。全国各地で活躍している、本学の同窓生の方々も応援しています。

皆さんの一番の応援団はご家族だと思います。今回、ご家族の皆様には動画で入学式をご覧いただくこととなりましたが、ご協力いただき感謝申し上げます。新入生が安心して学生生活を送ることができるよう、大学として万全を期して参りますので、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

仙台大学生として、皆さんが今後大いに活躍されることを期待し、式辞といたします。

<入学生代表宣誓・三上大翔さん、体育学科1年>

本日、私たちは、伝統を誇る仙台大学への入学を許可され、誠に感激に堪えません。

私たちは、体育・スポーツ・健康に関わる諸科学を探究し、これからの時代の担い手となるよう、身体を鍛え、教養を深め、心を磨き、豊かな学生生活を送るよう、努力してまいります。

入学いたしましたうちは、学則はもとより、大学の方針を固く守り、学生としての本分を全うし、心身ともに健康で、良識ある学生となることを、ここに誓います。

令和2年度仙台大学履修証明プログラム「乳幼児運動あそび指導者育成プログラム」修了式を開催

令和2年度仙台大学履修証明プログラム「乳幼児運動あそび指導者育成プログラム」修了式が3月27日（土）に本学で行われました。

このプログラムは、運動指導の実践力を高めたい保育者（幼稚園教諭・保育士）や幼児体育指導者等を対象として「乳幼児の運動あそび」に必要な知識・技術及び技能の向上に資するための実践的・専門的な教育課程です。

全60時間を修了した7名に履修証明書が授与されました。

修了者の中には、兵庫県からの受講生もあり、遠隔授業により学修をすすめ修了式に参加した2名のほか、福井県からの受講生1名はリモートで参加しました。

式では、学長代理として子ども運動教育学科の久能和夫学科長が

「生涯学習を継続していくためには三つの意（誠意、熱意、創意）が重要である」と挨拶しました。また、プログラムコーディネーターの原田健次教授は「このプログラムで学んだ運動あそびをそれぞれの職場で実践して貰うとともに、今後はそれぞれの園で指導する立場となっていくことを期待します」と修了生を激励しました。

修了生からは「このプログラムを受講した他の園の方々とディスカッションなどを通して刺激を受けることができた。今後も継続的に情報交換をしていきたい」「このプログラムに参加して『あそび』と『運動あそび』の違いを知ることができた。学んだことを職場で実践したい」などの抱負が述べられました。

<仙台大学BP準備室>



仙台大学紀要第52巻第2号を発刊

本学では教職員等の教育研究の成果をまとめた「仙台大学紀要」を年2回（9月・3月）発行しています。このたび「仙台大学紀要第52巻第2号」を3月末に発刊しましたのでお知らせします。刊行された紀要は、本学リポジトリから閲覧できます。



高橋学長、明成高校新入生を激励

高橋仁学長は4月8日（木）、高大接続で7年間教育を実践している仙台大学附属明成高校の入学式に臨み、新入生320人の前途を励ました。

＜高橋学長のあいさつ要旨＞

素晴らしい校舎を活用して、充実した高校生活を送られることを願っています。仙台大学も入学した皆さんの学びを支えるために応援しています。また、明成高校の特徴は自らの進路について高校3年間だけでなく大学を含めた7年間の長いスパンでも考え、挑戦することができるということです。仙台大学にはアスリートとしてトップを目指す人、教員や公務員、警察官などを目指して頑張っている人、スポーツ栄養や福祉を学ぶ人、スポーツ情報や報道を学ぶ人、そして子供たちの運動について学ぶ人など多くの進路を目指す人がいて、学生が希望を達成できるように体制を整備しています。そして明成高校でも出前授業などいろいろな学びを支える整備をしています。本日入学した皆さんもこれからの生活の中で自分の将来について考え、挑戦することが続くと思いますが、大学での学びも参考にしながら、悔いのない毎日を送ってほしいです。

本学は随時、教員9人を明成高校に派遣。体育や調理の授業を担当するとともに、クラブ活動を指導しています。



健康づくり運動サポーター認定証書授与式を開催

本学が取り組む健康づくり運動サポーター事業は令和2年度にオンライン健康教室を企画運営し、資格認定評価会で認定された上級1名に対して4月22日（水）に認定証書が授与されました。

健康づくり運動サポーター資格は、本学が取り組む健康づくり運動サポーター事業で対象者の運動をサポートする「初級」、現場で運動指導をおこなう「中級」、運動指導と健康教室の企画運営をおこなう「上級」に分かれています。

今回、上級を取得した長谷川麗央さん（健康福祉4年）は「上級を取得したことで自信がついた。特別支援学校の教員になるためにこの経験を活かしていきたい」と抱負を述べました。

これまで延べ614名が本資格を取得しています。

＜健康づくり支援班＞



2021年度スポーツマネジメントコース春季研修会実施報告

報告者：スポーツマネジメントコース教員 井上望

晴天の下、毎年恒例の春季研修会を宮城県立蔵王自然の家にて4月24日（土）、25日（日）の2日間で実施しました。昨年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、対面授業が全面的に注視されている時期であった事もあり、中止となりましたが、本年度は一部対面授業が許可されている事と感染リスクについて科学的に解明されており、適切な予防策ができるということから実施するに至りました。この春季研修会はスポーツマネジメントコースの2年生が対象で「コースの特徴を理解し、実践の力を高める」という教育方針に則り実施しており、参加学生の様子や事後のレポートから十分に教育的効果は得られたと考えています。特に現在の2年生は入学式もなく、対面授業も少ない中で大学生活を送っており、「人との関わり」が他の学年に比べて極端に少ないと言えます。そのような学生たちに「人との関わり」を持てる場を提供できた事は学生にとっても教員にとっても有意義であったと感じています。

ここまでは、良かった事を報告していますが、その裏には解決することが難しい問題もありました。それは、新型コロナウイルス感染症に対する不安感です。実はこの春季研修会の欠席者は15名（全体数65名）であり、欠席の理由については、「体調不良」がほとんどですが、数名は「新型コロナウイルス感染症に対する不安」によるものでした。この事から、実施に際しては十分な説明と感染対策を行ったが、理解が得られない場合もある事を知り、コロナ禍における集合での行事や授業の難しさを痛感しました。

あと数ヶ月もすれば、学生に対してもワクチン接種が始まり、新型コロナウイルス感染症は徐々に終息に向かっていくとは思いますが、時の流れは待ってくれません。コロナ禍以前の教育の質から落とさないようにするためにも教員が「出来る事、すべき事は何か」を多くの人たちで考える必要があります。この春季研修会を事例となり、「今できる事」を考えるきっかけになってくれればと思います。



みんなで集合写真。一瞬、息を止めてマスクを外しました



補助スタッフはコースの3年生、4年生、大学院生から募りました

芝草通信 NO. 24

担当 : 体育施設管理コンサルタント 小島文雄

5月の芝生管理について

噴水周りの高麗芝生(暖地型日本芝生)は気温の上昇とともに冬季休眠から目覚め緑色に成長してきます。

第二グラウンド寒地型洋芝は昨年秋に播種した芝草の生育が旺盛になり緑色が濃くなってきます。本来寒地型芝生は低い気温でも成育するといわれていますが、宮城県の気温は低すぎる事が多く、様々な保護対策をしなければ年間常に緑色を保つことは不可能です。主要競技場はアンダーヒーティングシステム、温風による暖房システム、LED電球を利用した光合成の促進システム、養生シートの長期使用など様々な対応をして成長を促しています。それに加えて長期間の利用制限を行うことで、エバーグリーンを保っています。

大学などの練習場では冬季でも利用希望が多くその希望を叶えると冬季期間に擦り切れやスパイクなどによる掘り起しがあり、裸地になる面積が増加します。第二グラウンドでは裸地化の激しい東側センター部分約1,000㎡だけに追い播き播種をして、その他の7,000㎡は昨年秋に播種した寒地型洋芝を成長させることで春先の寒地型洋芝の全面播種の経費を節約しました。

【参照】月間維持管理については、Monthly Report Vol.164/2019.DEC から毎月掲載済み

陸上部部活によるメンテナンスの実習

毎年春先に陸上競技場のインフィールドのクレイグラウンドのメンテナンスと天然芝生の維持管理及び噴水周りの芝生の維持管理をCER (Creative Education & Research Plan in SU) 教育事業の一環として実施しています。

その一部を紹介します。



写真1 大型鉄製レイキをトラックターでけん引している不陸整正状況、遠景
＜インフィールドクレイグラウンド＞



写真2 大型鉄製レイキ 近景
＜インフィールドクレイグラウンド＞



写真3. 芝生の凹地部分に目砂を補充して木製レイキにて不陸を調整する
＜陸上＞も＜噴水回り＞も同様に作業する



写真4. 手引き式リールモア草刈り機を使用して芝草の成長の凹凸を揃える
＜噴水回りの暖地型日本芝生＞



写真5. 角スコープを使用して目砂が均一に散布される手法の指導
角スコープから投げ出された目砂が空中の赤○の中に均一に分散された様子が確認出来る

(4月26日記)

川平キャンパスAT・S&CLレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol. 36

担当：白坂 広子 助手

FES実施しています！

FES (Freshman Entrance Screening) とは、4月に新入生対象で行うフィジカルチェックのことです。これは川平ATRが年間活動の主軸とするもので、FESから各チームや生徒個人の身体的傾向をつかみ、弱点になる部分や怪我のリスクとなりうる身体的特徴を3年間継続して改善と向上をしていく、というスポーツ傷害予防への試みです。今月は女子バスケットボール部と女子サッカー部のFESを実施しました。新入生たちは最初は緊張していたようですが、測定の前に行うウォームアップが終わるころには体も温まり慣れてきたのか、リラックスして測定を受けていた様子でした。当日は仙台大学AT部の学生が実習にきました。大学生は測定を通して学んだことを質問したり確認したり、良い実習時間となった様子でした。私達が行うFESは測定した結果を評価し「本人や顧問にフィードバックをする」ことが最大のポイントです。他大学や一般機関で行われるフィジカルチェックはデータ収集のためのイベントであることが多く、結果通知は本人へ渡すものの、川平ATRのように測定結果を評価し本人へ個人的にフィードバックすることはほとんどありません。私たちは、測定結果は私たちの研究データではなく、本人たちの大切な目標になると考えています。①自分の体を知り、②弱点を見直し、③継続的に改善に取り組んでいく、この3つを生徒がしっかりと取り組めるような活動をしています。春は高校総体本番に向けて練習量や対外試合も増え、身体的にも精神的にもチャレンジすることが多い時期です。この時期を生徒たちがしっかりと乗り越えられるように、私達が生徒たちひとりひとりとしっかりと向き合いたいと考えています。



本学から4名がクリケット女子日本代表強化選手に選出されました

この度、本学から4名がクリケット女子日本代表選考会に参加し、全員がクリケット女子日本代表強化選手に選出されました。

昨年に引き続き選出された、鹿野あかり（大学院2年）に加え、3名が初選出となります。

今後は2021年9月にサモアで開催されるワールドカップ予選に向けて4月下旬から活動が行われ、8月頃に日本代表チームが選出されます。

〇プロフィール

 <p>カノ アカリ 鹿野 あかり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 出身地、高校 宮城県、開志学園高等学校 ◆ 身長 153.8cm ◆ ポジション ウィケットキーパー ◆ 学科 マネジメント学科 ◆ 学年 大学院2年 ◆ 強化選手に選ばれた感想 昨年に引き続き、女子日本代表に選出されることで大変うれしく思います。今年は、国際大会が行われるので、まずは遠征メンバーに入れるよう練習に取り組んでいます。 	 <p>コジマ アヤカ 小島 彩花</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 出身地、高校 福島県、福島北高校 ◆ 身長 156cm ◆ ポジション バッスマン ◆ 仙台大学臨時職員 ◆ 強化選手に選ばれた感想 日本代表の通知が来たときは、まさか、自分が!?と言うのが正直な気持ちでした。（信じられなくて何回もその通知を確認しました笑）。ですが、日本代表に選ばれたからには、皆さんの足を引っ張らないように精一杯頑張りたいと思います。
 <p>コマツ サナ 小松 沙菜</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 出身地、高校 岩手県、久慈高校 ◆ 身長 154cm ◆ ポジション バッスマン ◆ 学科 体育学科 ◆ 学年 3年生 ◆ 強化選手に選ばれた感想 選んでいたからには、今まで以上に気を引き締めてクリケットに励んでいきたいです。次は日本代表として世界で戦うことを目標に日々トレーニングを重ね練習を頑張ります。 	 <p>イワサキ ハルナ 岩崎 桜奈</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 出身地、高校 宮城県、札幌新陽高校 ◆ 身長 165cm ◆ ポジション バッスマン ◆ 学科 体育学科 ◆ 学年 2年生 ◆ 強化選手に選ばれた感想 自分にはまだまだ足りないことが沢山あるので、いろいろなものを吸収して自分の武器をしっかりと磨いていきたいです。チームに必要とされる選手になりたいです。


令和3年度 新任者紹介

教員11名 事務職員4名 新助手5名 臨時職員7名 計27名の皆さんが着任いたしました。

教員

<p>まつもと ふみひろ 松本 文弘 副学長 (数学・教職・教育行政)</p> 	<p>高校に18年、県教育委員会に20年勤務し、その間スポーツ部門にも7年間携わりました。学生の若い力が地域や世界とつながるスポーツ・フォア・オールの実践により、皆さんの成長と持続的な社会の構築に貢献できるよう努力します</p>	<p>こにし しづお 小西 志津夫 准教授 (特別支援教育)</p> 	<p>38年間、学校教育の現場におりました。特別支援学校の勤務が長く、小学校・中学校・高等学校にも勤務しました。学生と共に学びあう中で、これまでの教員としての経験を伝えられればと思います。</p>
<p>たかまさ 賞雅 さや子 教授 (保育・幼児教育)</p> 	<p>〈遊びをせんとや 生まれけむ〉 〈あそんでぼくらは 人間になる〉 子どもにとっての遊びをよく理解し、子どもたちとよく遊ぶ保育者の養成に努めたいと思います。</p>	<p>かわだ たかひろ 川田 尚弘 准教授 (体育学、身体教育学、スポーツ科学)</p> 	<p>これまでの国内外での社会活動やスポーツ活動等で得た経験を、仙台大学という素晴らしい教育の場で様々な形で還元していきたいと思っています。何卒宜しくお願い致します。</p>
<p>なかざと ゆたか 中里 寛 教授 (教職教養・国語科教育)</p> 	<p>地元柴田町在住です。 昨年度まで中学校現場に勤務していました。専門は学校運営管理、教員養成、教員人事管理、教育心理、教育カウンセリング、国語科教育です。若い皆さんと共に学ぶのを楽しみにしています。</p>	<p>つかもと たくや 塚本 拓也 准教授 (スポーツマネジメント)</p> 	<p>国際的なスポーツマネジメント大学院プログラムでの運営経験を活かし、本学でも国際性や外部連携の強化に貢献していきたいと思っています。 どうぞ宜しくお願い申し上げます。</p>
<p>じゅうす よしみ 重巢 吉美 教授 (養護概説、養護実習)</p> 	<p>健康教育を中心として、子どもたちに関わる様々なことに取り組んできました。新たな気持ちでさらに学んでいきます。よろしく願いいたします。</p>	<p>まき あきら 真木 瑛 講師 (スポーツ栄養)</p> 	<p>以前は新助手としてお世話になっておりました。もう一度母校で勤務できることをうれしく思います。 他大学の管理栄養士・栄養士構成校での勤務経験を活かして大学の発展に貢献できるよう努めてまいります。</p>
<p>いわぶち こうじ 岩渕 孝二 准教授 (地域警察行政・警察政策)</p> 	<p>38年間、警察官として勤務し、縁あって仙台大学で勤務することになりました。 全くの畑違いながら、新たに畑を耕すことになりました。 若芽が大きく開くための一助となるように頑張りたいと思います。</p>	<p>のぐち しょう 野口 翔 助教 (植物生態学・スポーツターフ)</p> 	<p>昨年度まで、新助手として授業補助や芝生管理業務を行っておりました。 本年度からは教員として仙台大学の発展に貢献していきたいと思っています。どうぞ皆様よろしくお願い致します。</p>






助手

<p>こんぞう ひろよし 金蔵 弘佳 助手 (AT)</p> 	<p>今年度より仙台大学でアスレティックトレーナーとしてお世話になることになりました。</p> <p>学生アスリートの皆さんが安心してスポーツに打ち込めるようにサポートしていきたいと思っています。</p>
---	--

職員

<p>そぶ みちこ 蘇武 迪子 職員 (学生相談室)</p> 	<p>昨年度まで4年間、臨時職員として勤務しておりましたが、今年度より職員として勤めさせていただくこととなりました。</p> <p>学生の皆さんが、安心して充実した学生生活を送られるよう、お手伝いできればと思っています。</p>
<p>くさか あき 日下 亜希 職員 (総務課)</p> 	<p>昨年8月から派遣職員として広報室で勤務し、今年度より職員としてお世話になります。少しでも大学に貢献できるよう、何事にも誠心誠意努力して参りますので、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。</p>
<p>かんの まゆ 菅野 真由 職員 (会計事務課)</p> 	<p>本年度より会計事務課で働かせていただきます。</p> <p>先月、仙台大学附属明成高等学校を卒業しました。高校で学んだパソコンの知識を、仕事に活かせるよう頑張ります。ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。</p>
<p>もんや ようぞう 紋谷 洋三 職員 (仙台大明成高サテライトキャンパス)</p> 	<p>今年度よりOB参与として仙台大学附属明成高校内のサテライトキャンパスで高大連携の日程調整や議案整理を行います。</p> <p>本学16回卒業生で、大学時代が一番の思い出は、レクリエーション研究同好会を立ち上げて本多弘子教授の御指導と様々な活動やレク研仲間を通して人として成長できたことです。</p>

新助手

<p>おいで たつや 生出 達也 新助手 (大学GT・運動栄養)</p> 	<p>この度、運動栄養学科の新助手として勤務させていただくことになりました。学生や職員の皆様と一日でも早く信頼関係を築き、仙台大学に貢献できるよう、努めて参ります。よろしくお願い致します。</p>
<p>さんべい かずな 三瓶 和奈 新助手 (大学GT・運動栄養)</p> 	<p>今年度より運動栄養学科新助手として勤務させていただきます。1日でも早く大学職員として仙台大学の発展に貢献できるよう努めてまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。</p>
<p>さとう あやか 佐藤 彩香 新助手 (子ども運動教育学科)</p> 	<p>昨年まで子ども運動教育学科の学生として本学に在籍していました。今年度から社会人として子ども運動教育学科のサポートをさせていただきます大変光栄です。学生のサポートや学科の向上の為に日々精進してまいります。よろしくお願い致します。</p>
<p>しみず しょうた 清水 翔太 新助手 (大学GT・バスケットボール)</p> 	<p>私の母校である仙台大学附属明成高校に大学GTとして勤務させていただけることを光栄に思っています。新社会人としての自覚と責任を持って精進して参りますので、ご指導よろしくお願い致します。</p>
<p>さかもと こころ 坂本 想 新助手 (大学LR・ダンス)</p> 	<p>母校である仙台大学に、このような形で戻ってくることができて大変嬉しく思います。基本的には明成高校での勤務になりますが、保健体育の授業を通して高大接続を図っていきたく思いますので、宜しくお願い致します。</p>

臨時職員

<p>いがらし こうき 五十嵐 浩起 臨時職員 (硬式野球部)</p> 	<p>主に硬式野球部の指導、入試就職部の業務を担当させていただきます。</p> <p>本学の4年間で学んだことを生かし、少しでも貢献できるように精一杯勤めさせていただきますので、よろしくお願いします。</p>	<p>こじま あやか 小島 彩花 臨時職員 (機構)</p> 	<p>今年度より、スポーツ健康科学研究実践機構に勤務させていただきます。</p> <p>1日でも早く仕事を覚え、皆さんの戦力となれるよう頑張ります。至らない点多々あるかと思いますがご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。</p>
<p>すえもと しょうや 末本 翔也 臨時職員 (硬式野球部)</p> 	<p>今年度より臨時職員として働かせて頂くことになりました。</p> <p>学生がよりよく学校生活を送れるように、全力でサポートしていきたいと思います。仙台大学の発展に貢献できるよう精一杯頑張ります。</p>	<p>おくだ ひろき 奥田 大喜 臨時職員 (学生支援課)</p> 	<p>今年度より、学生支援課で臨時職員として働かせていただくことになりました。</p> <p>中国瀋陽師範大学の大学院入学までの間、国際交流を含め様々な面で貢献できるよう精進して参りますのでご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。</p>
<p>おりはら ゆめ 折原 悠芽 臨時職員 (女子ハンドボール部)</p> 	<p>今年度より、臨時職員として勤務させていただくことになりました。女子ハンドボール部の指導をさせていただきます。仙台大学の発展、また女子ハンドボール部の競技力向上に貢献できるように精一杯取り組みます。よろしくお願いします。</p>	<p>くろさわ りくと 黒澤 陸 臨時職員 (男子バレーボール部)</p> 	<p>今年度から臨時職員として勤務させていただきます。主に男子バレーボール部のコーチとして活動します。学生の皆さんとバレーボールを通して、共に学び成長していきたいと考えています。よろしくお願い致します。</p>
<p>いとう ゆうた 伊藤 悠汰 臨時職員 (学生支援室)</p> 	<p>今年度から学生支援室で勤務させていただきます。伊藤悠汰と申します。</p> <p>学生が楽しい学生生活を送れるように全力でサポートしていきます。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p>		

Monthly Report

 SENDAI UNIV.

PUBLIC RELATIONS

Vol.181 / 2021 .MAY

(月1回発行)

世界への切符つかむ/ 第18回日本デフ陸上競技選手権大会



世界一を目指し、更なる飛躍を誓う佐々木選手

本学の佐々木琢磨職員（新助手）が第18回日本デフ陸上競技選手権大会の男子100mに出場し10秒92（向かい風1.8M）で優勝しました。

男子200mにも出場し準優勝でした。

今大会は日本の聴覚障がい者陸上で最高峰の競技会となっており、5月15・16日（日）に愛知県知多市にある知多運動公園 物産フードサイエンス1969知多スタジアムで開催されました。

この結果により、8月22日（日）～8月28日（土）にポーランドで開催される第4回世界デフ陸上競技選手権大会100m、200mの出場権を獲得しました。

○佐々木選手の話

100mは強い風の中でしたが何とか優勝できました。200mは2位でしたが、4年ぶりに自己ベスト更新することができました。

無事に両種目とも世界ろう大会の派遣記録標準を突破し、内定をいただきました。

再び、世界大会でトップ選手と走れるのは本当に待ち遠しく、楽しみでいっぱいです。世界一を目指し、金メダルを持って帰れるようにこれから練習を頑張ります！

応援ありがとうございます。



＜ 目 次 ＞

・世界への切符つかむ/ 第18回日本デフ陸上競技選手権大会	1
・スポーツ、教育、大震災と私	2
・新しい6学科紹介動画を公開中です ・柔道部男女ダブルV/東北学生優勝大会	3
・芝草通信 NO. 25	4
・「高校スポーツの安全を守る」 Vol. 37	5

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

スポーツ、教育、大震災と私

仙台大学 副学長 松本 文弘

1 スポーツと私

(1) 選手として

中学校、高等学校、大学と卓球部で活動しました。中学校の時は仲間に恵まれ、仙台市で団体優勝。高等学校の時は恩師に恵まれ、今でも定期的に会ってご指導を受けていますが、戦績は県大会1・2回戦でした。大学では、奮起して練習しましたが、全日本学生は出場のみ、東北学連の大会で入賞3回という地方の二流選手でした。

(2) 指導者として

仙台の高校を卒業して地元の大学に進んだので、大学の4年間は選手として活動する傍ら、母校のコーチを4年間務めました。結果は、4年目に団体戦で県大会優勝、インターハイ出場という最高の結果となりました。大学卒業後は、宮城県の教員となり、選手強化に取り組みましたが、そこでライバル校の監督の高橋仁という人（現在は仙台大学で学長をしています）と出会いました。

(3) 運営者として

大学の3、4年生の時は東北学連の技術委員として大会運営等に携わりました。教員になってからは高体連の強化委員、運営役員をし、30歳の時から事務局長として大会運営等の番頭をしていました。自分は選手、指導者よりも運営者の方が合っていると感じ始めていました。



2 学校教育と私

数学の教員として3つの高校に12年間勤務した34歳の時に、県教育委員会に異動することとなり、卓球の指導者、運営者としての立場を失うことになりました。当時、7年後に迫っていた地元開催の国体の選手強化業務を4年間行いました。その後、高校改革、人事管理、教育指導、生徒指導など様々な部署で過ごすことになりました。結果として38年の教員生活のうち、学校が18年、教育委員会が20年という変則的な教員人生を送ることになりました。

3 東日本大震災と私

2011年3月11日、私は女川高校の教頭として勤務していました。学校は高台にあるとはいえ、既に多くの避難者が校庭に集まっており、そこから、全員でより高い場所に移動することは困難で、自分は津波にのまれる可能性もあると考えていました。幸い、50分後に到達した津波は校舎・校庭には及ばず、私たちは一命を取り留めましたが、女川の町は跡形もなくなりました。それからは、電気も電波もない中での避難所運営、生徒の安否確認、学校再開に向けた準備等を行いました。

直後の4月中旬には県教委に戻され、教育指導の班長をしながら、避難所となっている学校からの情報収集、校舎が使用不能となった学校の間借り、仮設、再建等の段取り、県独自の学校安全基本指針の策定や防災系学科の新規立ち上げの原案検討に携わりました。その後、スポーツ健康課長として防災教育の展開、教材開発、各種研修会の運営等を行いました。

4 再び、スポーツと私

また、スポーツ健康課の課長になったことで、スポーツとの関係も多くありました。県のスポーツ推進計画の進行管理、ジュニアトップアスリート育成事業、県スポーツ協会の運営などの場面では仙台大学の先生方にお力をお借りする機会も多く、大変お世話になりました。

これからも、仙台大学の事業展開や学生諸君を指導する中で、こうした経験を伝えたり、活かしたりすることができるよう努力してまいります。

今後とも、よろしくお願いいたします。

新しい6学科紹介動画を公開中です

スポーツを「したい」「みたい」「ささえたい」高校生の皆さん必見です！

最新バージョンの本学6学科（体育、健康福祉、運動栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道、子ども運動教育）の紹介動画ができました。

各学科の特徴や専任教員が紹介され、在学生の声も盛り込まれています。

一緒にスポーツをいろんな視点から探究しませんか？

ぜひ、本学公式YouTubeチャンネルをご覧ください。



柔道部男女ダブルV/東北学生優勝大会

柔道部が河北新報旗争奪東北学生優勝大会で男女団体の両部門を制しました。

男子は2大会連続、女子は14大会連続の優勝です。

大会は5月22、23の両日、仙台市の武道館で開催され、男子は7人制トーナメント、女子は5人制のリーグ戦形式で行われました。

この結果により男女ともに6月26、27日（日）に東京・講道館、青山学院大学で開催される全日本学生優勝大会に出場します。

結果は次の通り

○男子

準決勝 対東北福祉大学 (5-0) ○

決勝 対東日本国際大学 (3-1) ○

○女子 (2勝)

対 東北福祉大学 (5-0) ○

対 富士大学 (3-0) ○

○優秀賞

男子 田森暁士 (現武4年)、田嶋伸一 (現武4年)

女子 対馬みなみ (現武3年)、新名彩乃 (現武1年)



芝草通信 NO. 25

担当 : 体育施設管理コンサルタント 小島文雄

6月の芝生管理について

噴水周りの高麗芝生(暖地型日本芝生)は成長して全面緑色になりました。一部寒地型洋芝が混植している場所は成長の違いで凹凸が目立つところもあります。そろそろ芝刈りの時期です。

第二グラウンド寒地型洋芝は昨年秋に播種した芝草の生育が旺盛になり緑色が濃くなりました。本来は春先に寒地型洋芝を全面播種して冬季期間に衰退した芝生の密度を高めます。昨年に続いて裸地化の激しい東側センター部分約1,000㎡だけに追い播き播種をして、その他の約7,000㎡は昨年秋に播種した寒地型洋芝を成長させることで春先の寒地型洋芝の播種の経費を節約することに変更しました。5月中旬には冬越しした暖地型洋バミューダグラスが期待以上に多く生き残りましたので、6月予定の播種をせずにその経費を肥料代金の増額に振り替えることにしました。

【参照】月間維持管理については、Monthly Report Vol.164/2019. DEC から毎月掲載済みです。

高麗芝生の種子が実った状況：高麗芝生の繁殖は根茎と一緒に切り取り出荷した後に残った根茎に肥料と目土を施して再生する方法(栄養繁殖)で行っています。芝生は通常使用する草丈以上に成長すると種子を実らせませんが、日本では種子を育てるよりも栄養繁殖で生産します。

京都府立桂高校では工夫を施した特殊な小型温室を使用して種子を実らせ色々な実験をしていますが、生産性は低く営業ベースでは実施されていません。仙台大学の高麗芝生も背丈を伸ばしすぎたことにより種子が実りましたが、しかしこの種子は収穫しても繁殖するための種子として利用することはできません。その状況を紹介します。



写真1 遠景
暖地型日本芝高麗芝生が成長して全面が緑色になった。
しかし手前の小高い丘は水分が少なくやや薄い。奥のこげ茶色の部分が種子発芽の多い部分
＜噴水回り芝生4体前＞



写真2 近景
小高い丘の部分は緑色が薄く成長が遅い
＜噴水回り芝生4体前＞



写真3. 近景
赤いペンの周りは成長が早く多数の
種子を発芽している
＜噴水回り芝生4体前＞



写真4. 接写
こげ茶色が発芽した種子
一つ一つの種子は小型で痩せている
＜噴水回り芝生4体前＞

（ 5月27日記 ）

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」 Vol. 37

担当：浅野 勝成 助手

スポーツ創志科1・2年生を対象とした授業が今年度も始まりました。授業名は「スポーツ概論」、高校の体育の先生方と大学助手（AT、S&C、栄養士）で行う複合型の授業となります。

5月11日（火）に、2年生女子を対象とした第1回目の授業を担当しました。授業テーマは「競技力向上に必要な基礎知識を知ろう①」です。競技力を構成する諸要素とは、行動体力・防衛体力とは、スキルとは、という内容で講義を行いました。基本的には教科書の内容に沿って授業を進めていきましたが、学術論文の引用も行いました。例えば、睡眠の重要性を理解してもらうには、「睡眠が重要」とだけ言っても響くことはないと考えます。睡眠不足とケガの関係性に関するものや睡眠と競技パフォーマンスに関する論文を用いることで説得力が出るかと思えます。また、ブレイクストーミングの時間を複数回設けて考えることへの慣れ、教科書の音読を行わせて発表への慣れ、プリントに自分の考えを書かせることで考えをまとめることへの慣れ、などのように知識を付けるだけでなく、思考力・判断力・表現力等も養成できるよう、高校の先生方と試行錯誤しながら授業を展開することを心がけています。今年度は、AT・S&C・栄養のスタッフが担当する内容は30科目あるため、今後も高校の先生方と連携を図りながら、より良い授業を作っていければと思います。

Monthly Report

朴沢学園×マイナビフットボールクラブ、 アカデミックパートナーシップ協定を締結



左から朴澤理事長、栗井代表取締役社長

本学を設置する学校法人朴沢学園は6月17日（木）、仙台大学LC棟で、サッカー女子のマイナビ仙台レディーズを運営する株式会社マイナビフットボールクラブと「アカデミックパートナーシップ協定」を結びました。

協定締結により双方はがっちり連携。本学はクラブ側に有望選手を送り込むほか管理栄養士を派遣してスポーツ栄養面で支援します。一方、クラブ側からは学生のインターシップ受け入れで協力をいただく予定です。

株式会社マイナビフットボールクラブ 栗井俊介代表取締役社長のコメント

当社は、今年9月12日に開幕する日本初の女子プロサッカーリーグ「WEリーグ」へ参加を予定しています。サッカーを通じて女性がいきいきと輝く社会づくりに貢献するとともに、未来を担う少女たちにとって「プロサッカー選手」という職業選択肢が定着できるよう、取組みを進めています。体育系教育機関として国内で屈指の実績を誇る学校法人朴沢学園様との連携が、当社の事業を持続的に発展させていく基礎を作るうえで、非常に力強い後押しになることを確信しています。これを機に、スポーツを通じた「地域づくり」「人づくり」に貢献できるよう、より一層努めてまいります。

朴澤泰治理事長のコメント

人口減少、高齢者社会と言われている世の中で、地方大学として地方創生という観点で特に人材育成は重要です。スポーツ科学を専攻する高等教育機関として、そのベースにいろんな人材育成を図るという中で、スポーツにおける最高のパフォーマンスを発揮しているプロスポーツという場面に学生が関わり、次の時代を担う人材育成ができる環境を提供頂けることは大変嬉しく思います。

本学は在仙のプロスポーツ球団・クラブとの連携強化を図っており、これまで仙台89ERS、楽天野球団、ベガルタ仙台との間で協定書を取り交わしています。

目次

・朴沢学園×マイナビフットボールクラブ、アカデミックパートナーシップ協定を締結	1
・クレパス画遊びのすすめ	2
・朴沢学園発祥の地 ～記念碑建立から33年・蒼高き学園の歴史～	3
・入試懇談会を開催しました ・面倒見のいい大学へ／3年生対象個別面談を実施 ・学生45人、聖火リレーでボランティア	4
・元気いっぱい しばたいそう	5
・南一輝、体操部史上最高の3連覇／全日本種目別選手権 ・全国大会へ、決勝で逆転勝利／軟式野球部 ・価値ある栄冠！ 真の東北チャンピオンに／軟式野球部	6
・2021年度オープンキャンパス開催中	7
・2020年度第15回『仙台大学体育施設管理士』認定証授与式を開催	8
・亀山選手、初の五輪へ／本学OB通算4人目 ・リーグ全勝締め／男子バレーボール部(春季)	9
・芝草通信 NO. 26	10
・仙台みそ大学 ～農場から道場へ～ ふるさとの食に学ぶ／高大食文化交流 ・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 38	11

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

クレパス画遊びのすすめ

仙台大学 教授 賞雅 さや子

「保育所保育指針」には保育の基本原則として「乳幼児期にふさわしい体験が得られるように、生活や遊びを通して総合的に保育すること」とあり、「幼稚園教育要領」でも「幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として」行うことが教育の基本とされています。したがって、保育者は遊びの専門家であることが求められます。

保育者養成課程の授業で私の担当は子どもや家庭の支援に関する科目が多いのですが、遊びをたくさん知ってほしくて、ときどき遊びを体験したり紹介したりすることがあります。その内の一つ、私の大好きな遊び「クレパス画遊び」をご紹介します。これはもちろん子どもが遊んで楽しいのですが、大人がやってもおもしろく、夢中になる遊びです。体験した学生の多くが「おもしろかった」「もっとやりたい」と言ってくれます。

クレパス画遊びでは、クレパスで何かを描くのではなく、好きな色を好きなように塗ったり、重ねたり、ひっかいたりして遊びます。絵画の苦手さから開放され、気持ちを表せたときのスッパリ感や、自分の中から表れてくる表現を受け入れることの心地よさを味わいます。大人でも日常から少し離れて「心の開放」を体験することができます。

遊びは、まず、クレパスの巻紙をむいてしまうところから始まります。多くの人は最初ためらいますが、ビリビリと紙を破くのがだんだん楽しくなってきます。クレパスという素材は、唯一日本で生まれた画材です。クレヨンが顔料2割+ろう8割なのに対して、クレパスは顔料が8割です。そのために画用紙の上で自在に混色が可能なのが特徴です。巻紙をむいて描くということは、顔料をそのまま手で持って描くということになり、それは描く人の感情をそのまま表現しやすくなるということにもつながります。

裸になったクレパスをポキンと持ちやすい大きさに折り、四辺を新聞紙の上にマスキングテープで留めた画用紙に描いていきます。絵画には「形」と「色」の要素がありますが、一般的な絵画指導の場合、形の中に色をはみ出さないように塗ることを要求します。しかしクレパス画遊びでは、ただ好きな色を好きなだけ塗る、それだけをひたすら納得するまでやっていきます。「色」は情感を表すと言われますが、このクレパス画の手法は、「情感を解き放ち、その心地よさを実感する」ための手法だといえます。

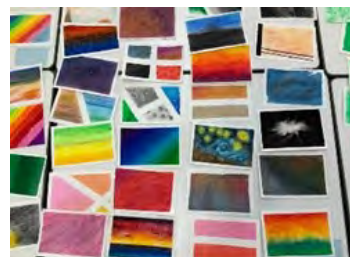
顔料を直接手に持ち、ゴシゴシと塗り付ける心地よさを感じながら、さらにその塗ったところを指や手のひらで伸ばしていきます。最後にマスキングテープをはがしてみると、選んだ色、重ねた顔料の厚みなど、そこに「自分」が表れてくるのに驚きます。要領がつかめたら、後は好きな色を何色でも使い、画用紙の大きさも自由に変えながら、何枚でも描いていきます。色を塗って伸ばすだけでなく、何色も重ねた色を削る、ひっかくなどさまざまな技法を試しながら表現します。保育者（指導者）は、頭の中にイメージしたものを画用紙の上に再現しようとするのではなく、その瞬間の色や技法の選択とそれを行っている自分の感覚をじっくり楽しみ、味わうことを促します。そうしていると思いがけない色が表れてきたり、はみだしたり、ひっかいた傷ができてしまったりといろいろなことが起こりますが、そのどれもが失敗ではなく、大切な表現の要素となっていることに気がきます。ここでは何をしてもいいのです。

授業で体験するときは、最後にタイトルをつけた皆の作品を並べて鑑賞し合います。並べてみると出来上がった作品は一つとして同じものではなく、その多様さに感動します。自分から表れてくる表現に驚いたり、表現に没頭することの心地よさを実感したり、何より、そこに表れてくるものは自分の中から浮かび上がってきたものに他ならず、その個性の違いをそれぞれに感じて、会話が弾みます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の流行により、勤務していた大学でも対面での授業ができない期間が続きました。秋になりようやく対面での授業ができることになったときに、1年生の授業でクレパス画遊びをやってみたところ、「こんな授業を待っていたー」という声が聞かれました。その時抱えていた不安や焦りなどの気持ちを少し吐き出すことができたようでした。

学生自身が「楽しかった」「夢中になれた」という思いをしっかりと体験しながら、子どもたちにそんな遊びをたくさん提供できる遊びの専門家になってほしいと願います。

【引用・参考文献】「子どもの心を開放する絵画療法講座」『保育者養成校大学教員と園のリーダーのための保育特別講座テキスト』（子どもと保育研究所ぷろほ）



朴沢学園発祥の地 ～記念碑建立から33年・誉高き学園の歴史～



現在の記念碑（表）



記念碑（裏）

朴沢学園発祥の地は、現在の仙台市青葉区一番町2丁目です。初代朴澤三代治校長が、その地に松操私塾を始めたのは明治12年、廃刀令が公布されてから間もない頃でした。初代は日本の近代化と女性の社会進出の必要性という時勢に鑑み、自らの器用さを生かして革新的な裁縫の一斉教授法を創始、九州から北海道に至る全国20の道府県から子弟を集めて教育に当たり、本学園の基をつくりました。

本学園は昭和20年の仙台大空襲戦災では、一夜にして校舎すべてを失いましたが、関係諸官庁および同窓生を中心とする方々のご厚意に支えられ、戦後の復興を成し遂げ、昭和42年には船岡に仙台大学を開学、また、教育環境の再編成計画に基づく朴沢女子高等学校の移転が昭和49年に完了しました。

今から33年前の昭和63年6月20日（火）、学園の跡地に立地した仙台東急ホテルにおいて「朴沢学園発祥の地」の記念碑建立除幕式並びに祝賀会・松操会総会が開催されました。

記念碑の建立は、朴沢女子高の五代校長だった朴澤綾子学園長の遺志でもあったことから、昭和62年4月、同学園長の逝去を機に、是非建立をという声が急速に盛り上がり、松操会（同窓会）が8月に実行委員会を組織し、長年本学園の理事として学園運営にご助言を学頂いた元東北大学総長の故加藤陸奥雄先生のご尽力を得て、青葉通りの学校跡地所有者（日本生命保険相互会社・仙台東急ホテル）との間に調整が進み、一隅を無償借用して碑を建立することとなったのです。募金活動は順調に進み、寄付金賛助者は653名、募金総額は350万を超えるなど、同窓生の母校を思う熱い気持ちに包まれながら、朴澤綾子学園長の一周忌を記念して記念碑建立序幕式がおこなわれました。

仙台東急ホテルはその後土地所有者が変更となり取り壊され、現在は集合住宅となっておりますが、朴沢学園発祥の地である石碑は今も、日本の婦女教育のパイオニアとしての誇りと伝統をあらわす象徴として静かに佇んでいます。

仙台市在住で昭和6年生まれ（現在90歳）、学創改革があった昭和26年に学園の朴沢専攻科を修了され、一番町の地で学ばれた佐々木順子さん（ささきよりこさん・旧姓：片倉）は、「朴沢学園にはお裁縫はもちろん、心理学といった教養を身に着けることができるたくさんの授業があり、とても楽しい毎日でした。

東北大学から4名の教授が心理学、西洋史、生物学、育児学などを講義、特に仙台大学の初代学長となった元東北大学医学部小児科教授・佐野保先生が、子宮のなかに赤ちゃんがいる図を示しながら解説くださった人間の神秘には目を見張りました。調理実習でも当時、珍しかった高価なオープンで美味しいお菓子を作ったり、生徒みんなで本格的な演劇に取り組むなど、女子教育に大変熱心で、これからは女性であってもしなやかに社会で貢献できる人材育成を目指していらした学園の方針は素晴らしいものでした。ご指導いただいた先生方は、加藤陸奥雄先生をはじめ生涯の恩師であり、朴沢学園で学んだ日々から感謝しております。

男女共学となった今も、昨冬・男子バスケットウインターカップでの見事な日本一、世界で大活躍するプロバスケット八村塁選手の華麗なシュートを楽しみにしながら、仙台大学附属明成高等学校と名前を改め、大変立派な校舎が完成した母校を、コロナが終息したら訪れたいと考えております」とおっしゃっています。

朴沢学園創立以来今年で142年を経過、仙台大学附属明成高等学校と仙台大学は7年を通して学ぶ高大連携をなお一層強化し、これからも世界で羽ばたく人材の輩出および、スポーツを科学するアカデミックな歩みを加速いたします。



明成のパンフレットを持つ佐々木順子さん（令和2年10月撮影）



一番町にあった頃の校舎



仙台東急ホテルでの記念碑建立除幕式・祝賀会の様子（昭和63年6月20日）



入試懇談会を開催しました

6月15日に高校の進路指導教員を対象とした入試懇談会を開催しました。当日は青森県や栃木県など県外も含め61名が本学会場に来場され、また、リモートでの参加も可能とし35名が参加されました。

昨年は新型コロナウイルス感染の影響でリモートのみでの開催となりましたが、本年は感染対策を万全にして来場・リモートでのハイブリッド開催となりました。

懇談会は3部制とし、1部は学内見学、2部は学科・入試説明会、3部は個別相談会を実施し、学内見学では本学の魅力でもある各施設を約1時間に亘り案内し、学科・入試説明会では各学科長から熱く学科の魅力を伝えるとともに入試の改正点を中心に説明を行い、また、個別相談会では、対面で忌憚のない意見や要望など貴重な話を聴くことができました。

参加した先生からは、「進路指導にとっても参考になった」、「高校に帰ったら仙台大学希望の生徒に魅力を伝えたい」等の意見が寄せられました。



懇談会の様子

面倒見のいい大学へ／3年生対象個別面談を実施

本学では毎年3年生全員を対象に進路に関する個別面談を実施しております。

例年、夏休み前には全ての日程が消化できるように計画を立てており、今年度は6月1日よりスタートし、現在体育学科の学生247名の個別面談を終えることができました。これから残り5学科の学生および体育学科の一部の学生に対する面談が予定されており、7月中旬には全日程の終了を予定しております。

この個別面談の目的は、3年生の現状把握やインターンシップの参加促進、卒業後のキャリアを考える際の選択肢を増やすことなどを目的としており、この面接を機に行動に移す学生も少なくありません。

また本学では正課の授業とは別に、年間を通じて課外講座を実施し、就職支援を行っています。夏休み明けからは、いよいよ実践的な内容にうつり、エントリーシートの書き方や面接対策の講座を繰り返し行っていく予定です。

〈報告：創職チーム〉



面談中の様子

学生45人、聖火リレーでボランティア

6月21日(月)名取市閑上で行われた東京2020オリンピック聖火リレーのボランティアに本学の学生45人が参加しました。

ゆりあげ港朝市から閑上小中学校までのコース約2.4キロの沿道整理を行いました。

今回、参加した名古屋元気さん(現代武道3年)は「将来、警察官を目指しており、このような警備を経験できたこと、また日本で開催される五輪に少しでも関わることができてとても嬉しいです」と話してくれました。



沿道整理を行った名古屋元気さん(現代武道3年)



ボランティアとして活動した学生たち

元気いっぱい しばたいそう

仙台大学 教授 郡山孝幸

昨年、柴田町教育委員会からの依頼を受け、柴田町の子どもたちの体力向上と、運動に対する興味関心・意欲の向上を目的に「しばたいそう」の制作が始まりました。

本学の、主に子ども運動教育学科の教員が中心となり、町内の先生方との協議を重ね誕生したのが「元気いっぱい しばたいそう」です。

「しばたいそう」は、花の町柴田を象徴する『さくら』、郷土のシンボル『白石川の流れ』、遠く仰ぎ見る『蔵王の山々』の表現に併せて、町内六つの小学校の先生方が考案した「動き」を加え編成されております。

お披露目は、今年春開催の各小学校で行われる運動会。それに向け、仙台大学の学生が小学校に出向いて指導したり、子どもたちの前にたって示範したりしながら、子どもたちに愛着をもってもらうよう務めてきました。

子どもたちの前に立つにあたっては練習が欠かせません。子どもたちの前に立つためにはしっかりと覚え堂々と動くことに加え、「鏡の動き」を身に付けなければなりません。呼びかけに応じたのべ20名の学生が、毎週、山梨雅枝准教授の指導のもと練習に勤しみました。

約2ヶ月積み重ねた練習の成果発表は、5月15日の西住小学校の運動会を皮切りにスタートしました。当日は8名の学生が早朝から集まり、見事に素晴らしい体操を披露してくれました。しかしながら、5月21日・22日に予定された5校の運動会は残念ながら雨天中止となってしまいましたが、25日の予備日に柴田小学校で、また6月22日には船岡小学校で、代替措置として「しばたいそう」をする機会が設けられました。それぞれの小学校においても積み重ねた練習の成果を発揮し、堂々と美しく披露することができました。子どもたちも目を輝かせながら、生き生きと動き、表現していました。

この「しばたいそう」が町内の各学校に根付き、今後改良を加えながら体育学習の準備運動として、また学校行事の中で継続した取り組みとなることを期待しております。



柴田小学校で指導をする様子



西住小学校で指導をする様子

南一輝、体操部史上最高の3連覇/全日本種目別選手権

体操の第75回全日本種目別選手権は6月5、6の両日、群馬県高崎市の高崎アリーナで行われ、本学の南一輝（体育4年）が床運動を制し同種目3連覇を成し遂げました。体操部史上、最高の快挙です。

南は予選トップの成績で決勝に進出。演技はいつもなら「後方かかえ込み2回宙返り3回ひねり」のリ・ジョンソンで入るところですが、今回は脚の痛みから回避しました。それでも随所に力強さとスピードと華やかさが交じり合って観客を魅了。着地も乱れることはなく、出場8選手中ベストのスコア15.300（D6.500、E8.800）をマークしました。



メダルを手に表情が和らぐ南

南はこれまで東京五輪に床運動による個人枠での出場を目指してきました。しかし、NHK杯（5月16日）の直前練習で脚の肉離れというアクシデントに見舞われて欠場。ポイント獲得の上積みがかないませんでした。それでももう一つの夢が広がりつつあります。世界選手権（10月18～24日、北九州市）への出場です。オリンピックでの日本選手の成績次第にもよりますが、南は有力候補に名乗りを上げたといえます。

<体操競技部>

全国大会へ、決勝で逆転勝利／軟式野球部

軟式野球部は6月2日（水）、全日本大学選抜大会東北地区予選の決勝（仙台市民球場）に臨み、東北学院大学を4－2で下して優勝。8月に長野県内で行われる全日本大会への出場権を得ました。

試合はシーソーゲームでした。本学は先制するもひっくり返されという苦しい展開でしたが、監督兼任の岩渕颯太主将（スポーツ情報マスメディア学科3年）を中心とするナインが一つとなり逆転劇を演じました。

岩渕主将は「昨年秋の第1回ゼット杯東北王座決定戦東北地区予選の決勝で学院大に敗れただけに、何とか借りを返したかった」と振り返り、来る全日本へ向けて「さらに練習を重ねています。全国でも上位を目指して頑張ります」と意気込みを示しています。

<軟式野球部>



価値ある栄冠！ 真の東北チャンピオンに／軟式野球部

軟式野球の第2回大学東北王座決定戦は6月19日（土）、仙台市宮城野区の仙台市民球場で決勝を行い、本学が2－1で東北学院大学を下して優勝しました。先に制した全日本大学軟式野球大会東北地区予選は南東北3県がエリアでしたが、今大会は北東北3県の代表校も含む大会だけに価値ある頂点です。真の東北チャンピオンになりました。

試合は僅差の勝負でした。三、六回に本学が得点しリードするものの八回に失点。しかし、先発のエース成田晃辰（健康福祉3年）が粘り強い投球で反撃を抑え、そのまま逃げ切りました。

本学は8月、長野県内で行われる全日本大学軟式野球大会に出場することが決まっています。

<軟式野球部>



2021年度オープンキャンパス開催中

2021年度オープンキャンパスを開催中です。7月には学科体験会を開催し、9月まで土、日曜日に計13回構内を開放しています。

本年度は新型コロナウイルス感染予防対策から大規模人数での開催を避けて、安心して参加できるように人数を制限し、回数を増やして企画しました。5月にも計画しましたが、全国の感染状況を踏まえて予防対策の徹底と強化のため実施を2回見送り、6月13日（日）に最初のオープンキャンパスとなりました。

初回のキャンパスツアー型には30名（内保護者11名）が参加。4グループに分かれて体育学部6学科などの施設を回り、担当教員から学びの魅力について説明を受けました。

参加した高校生からは「希望している学科以外の説明もスポーツや運動に関わる話が聞けてとても興味深かった」、「初めて仙台大学に来た。こんなに設備や施設が充実していて驚きました」、「少数の班に分かれて施設を回れたので、ゆっくり安心して話を聞くことができました」など多くの声が寄せられました。



体育学科（第3体育館1階・トレーニングセンター）



健康福祉学科（C棟2階）



運動栄養学科（D棟2階）



スポーツ情報マスメディア学科
（第3体育館4階・映像スタジオ）



現代武道学科（第3体育館・柔道場）



子ども運動教育学科（LC棟・保育ルーム）

2020年度第15回 『仙台大学体育施設管理士』 認定証授与式を開催



2020年度「体育施設管理士」に認定された学生たちと記念写真

<18名が資格取得>

6月8日(火)A棟2階大会議室において2020年度第15回『仙台大学体育施設管理士』認定証授与式が行われました。高橋仁学長から2020年度に合格した18名のうち授与式に出席した13名の学生に認定証を一人一人に手渡されました。例年4月に開催していたがコロナ禍のために2度の延期を経て今回やっと実現でき、大勢の学生が参加しました。

<本学の授業で修得できる資格>

公認体育施設管理士（2021年度から公認スポーツ施設管理士と称号変更）は体育施設の維持管理・運営に必要な知識・技能を認定する資格です。この資格に必要な科目は本学において修得することができ、科目修得後、公益財団法人 日本体育施設協会（2021年度から公益財団法人日本スポーツ施設協会と称号変更）が学内で実施する資格認定試験に合格した者に『公認体育施設管理士』の資格が付与されます。日本体育施設協会は今まで66回の養成講習会（50余年間）を通してこの資格者を約11,900名認定してきました。本学は同協会の体育施設管理士認定校になって2021年度で16年目となります。累計601名の有資格者を養成し、授業を通して資格認定者の養成を継続しています。

<高橋仁学長の講評>

『この認定証は皆さんが学校などの体育施設の維持管理について、総合的な知識を持ちスポーツ施設を安全に維持管理することが出来る、そういう人であることを示すものです。それぞれの認定証には番号が有って何時それを取得したかが記録されています。そういった価値のある認定証になっていることをもう一度確認してほしいと考えます。特に学校においては子供達の安全ということが最も重要な最優先事項になっています。』

この間も白石の小学校で防球ネットの木製の柱が腐って倒れてしまって子供さんが犠牲になるという本当に痛ましい事故が起きました。皆さんのような資格を持った人が学校にいればあの事故も防げたのではないかと思います。体育施設・スポーツ施設の安全管理ということは、楽しく体育・スポーツをする上で極めて重要なことになっています。「安全」という視点、学校だけでなく種々な体育施設を維持管理する上で極めて重要なことであります。

この認定証を取られた皆さんはこの点も含めてしっかりとした知識とスキルを持っているということになりますので、できるだけ多くの人がまず学校現場で教員となって、この資格をフルに活かして授業や部活動だけではなく施設の安全管理という点でも大いに活躍してほしいと思っています。そして学校以外の種々な企業や公的な機関などに就職をしてこの資格を生かして活躍していただく皆さんは、使い易いと言う事だけでは無く「安全」にも重点を置いて信頼に応えるような活躍と努力を期待しております。仙台大学の卒業生が種々な所でこの施設管理士という資格を生かしてこれからも活躍していくことを心から期待して挨拶といたします。これから皆さん頑張ってください。』と述べられました。

<報告：体育施設管理コンサルタント 小島文雄>



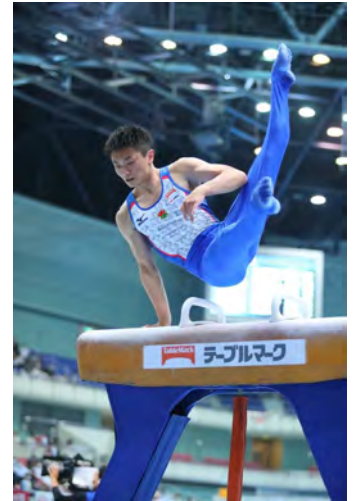
授与式の様子

亀山選手、初の五輪へ／本学OB通算4人目

本学卒業生で体操の亀山耕平選手（徳洲会、2011年卒）が男子あん馬で五輪切符を獲得しました。

国際体操連盟は6月28日（現地時間）、種目別ワールドカップ（W杯）シリーズ（計8戦）の成績を基に東京五輪出場を決めた選手を発表。亀山選手は2013年世界選手権に出場し男子あん馬で金メダルを獲得した成績を持ちますが、五輪の舞台に挑むのは初めてとなります。

本学関係者で夏の五輪代表になったのはこれまで、シドニー大会トライアスロンの小原工さん（1989年卒）、アテネ大会陸上1600メートルリレー・400メートルの佐藤光浩さん（2002年卒）、リオデジャネイロ大会ボート軽量級ダブルスカルの大元英照さん（2007年卒）がいます。



※写真は徳洲会提供

リーグ全勝締め／男子バレーボール部(春季)



第57回東北バレーボール大学男女リーグの男子1部5週目は6月26、27日（日）に本学第2体育館で行われました。

26日は東北公益文科大学、27日（日）は山形大学と対戦。両日ともに勝利を収め、本学男子バレーボール部の全日程を9戦全勝（暫定首位）で終えました。

結果は以下の通り

26日 仙台大学 3 (25-22, 25-16, 25-19) 0 東北公益文科大学

27日 仙台大学 3 (25-17, 26-24, 22-25, 25-20) 1 山形大学

今回のリーグ戦は無観客試合で行われ、学生運営のもとYoutubeを活用し試合のライブ配信を行ってまいりました。

この配信を通して、ご家族様や多くのバレーボールファンの方に、選手の活躍や会場の緊張感をご覧いただければ幸いです。

不都合が生じたことなど今回の課題を整理し、次回に繋げていきたいと思っております。

今後、国体予選や天皇杯予選などの大会が続きます。どの大会も好成績を残せるように更に練習を積み上げて参ります。引き続き本学男子バレーボール部の応援をよろしくお願いします。

なお、今リーグは他大学の試合が7月以降に行われ、順位の確定は全試合終了後となります。

<男子バレーボール部>

芝草通信 NO. 26

担当 : 体育施設管理コンサルタント 小島文雄

雑草(スズメノカタビラ)防除について

芝生でよく見られる雑草は約70種類といわれています。小さなかわいい花をつけて微笑ましいものや大きな葉をつけて芝草に覆いかぶさり日光を遮るなどいろいろな悪さをして芝草を駆逐するものなどがあります。よく出現する雑草の特徴を把握して防除しなければなりません。スズメノカタビラは芝草と同じイネ科に属しますのでなかなか良い除草剤が少なく、手で抜根することが多いです。

ゴルフ場のグリーンなどは高価な薬剤を使用しても営業的に良いとされ使用されることがありますが、低廉で使いやすい薬剤が少ないです。この雑草は冬雑草の1年草で、主に秋に発生し、2月から6月頃に出穂し花を咲かせます。湿り気のある場所に多く、刈込にも負けずにはびこります。刈込高さを下げると次の出穂位置をそれより下げてきます。刈込をしてもまた出穂し何度も繰り返します。夏の乾燥と温度に弱く夏季になると枯れてしまいますが無数に落ちた種子が次のシーズンには異常繁殖します。秋に土壌処理剤【発芽抑制剤】を散布して防除しますが、寒地型洋芝の播種時期と間隔を1か月ほど開けないと芝草も生えてきません。

2021年度の春先の寒地型洋芝の播種を見合わせて昨年秋に播種した寒地型洋芝を育成しています。30g/m²の種子を播種したのでその根茎が残っていました。写真の赤線より左側に播種し、右側は播種せずに、様子を見ました。芝草は多年草なのでその前の根茎でも育成できています。

今回スズメノカタビラに効果のある茎葉処理剤 シバゲンと土壌処理剤 グラトップを青線の右側に散布して観察中です。



(6月24日記)

仙台みそ大学～農場から道場へ～ ふるさとの食に学ぶ／高大食文化交流



6月5日（土）に、高大接続事業の一環として、本学附属の明成高等学校食文化創志科が取り組む「仙台みそ」を活用した食の学び講座が仙台大学女子柔道部の学生20名を対象とて行われました。

はじめに、高校食文化創志科の高橋信壮学科長から、「仙台みそ」について食文化の講話をいただきました。参加した学生のほとんどが県外出身。ふるさとで食べられているみそに触れつつ、日本では、米・麦・豆の主に3種類のみそが食べられていますが、「仙台みそ」は米みその部類であることを学びました。

講話の後、みそ仕込み体験を柔道場内で行い、普段は真剣な眼差しで柔道に取り組む場内が、和やかな雰囲気で見られました。

今回仕込んだみそは、約半年間の熟成後、柔道部の学生とシェアしながら、アスリートを食で応援する高大交流行事や高大連携の社会貢献事業などで使用される予定です。

※柔道の創始者である嘉納治五郎先生は、東京高等師範学校の校長を勤めるなど教育者としても知られていました。また、嘉納後楽農園と呼ばれる農園を作り、作物の栽培にも尽力されていたそうです。

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol. 38

担当：今野 桜 助手

6月上旬に宮城県高校総体が行われました。昨年度の高校総体は中止になったので、今年は1年生だけでなく2年生にとっても初めての高校総体でした。私は仙台大学附属明成高校女子サッカー部に試合帯同させていただきました。大会前の期間は部活動の制限もあり、なかなか思うように練習できない日々が続いて、うまくチームでの調整ができないフラストレーションが溜まっていたと思います。他の学校に比べたら練習時間は短かったかもしれませんが、生徒たちはそのことを理由にせず正々堂々と戦ってくれました。生徒たちの中には試合前にとっても緊張してしまう子や、1年生で初めての公式試合出場にもかかわらず活躍した子がいて、普段の練習では見られない一面を見ることができました。結果は第2位で東北大会出場は逃しましたが、次の大会に向けてチームはすでに進み始めています。私も今回の大会を通して、もっとこうしていれば選手たちがもっといいパフォーマンスができていたかもしれない、と思うことがいくつかあったので、大事な試合の時にケガで悩む選手が少しでも減るように今後の活動に活かしていきたいと思っています。

6月に入り気温が高くなる日が増えてきました。そこで注意しなければいけないのが「熱中症」です。川平ATRでも日頃のWBGT測定、傷害予防講習会、部活動時の声掛けなどを通して熱中症予防に取り組んでいます。熱中症は日頃の体調管理と運動時の休息や水分補給に気を付けていれば予防ができます。梅雨が明けると熱中症の症状で相談に来る生徒の数が増えるので、生徒達には今の時期にしっかり熱中症についての知識を身に付け、自分の体は自分で管理して守れるようになってほしいと思います。川平ATRでは生徒達が健康な状態で、安全・安心してスポーツを楽しめるように今後も活動を続けていきます。

Monthly Report

ニュージーランドの名門、カンタベリー大学と連携



連携協定の基本合意書を掲げる高橋仁学長（右）と朴澤泰治理事長
奥の画面左がカンタベリー大学

本学はニュージーランドの名門、カンタベリー大学と連携協定を結びました。

締結式は7月16日（金）、両大学をオンラインで結ぶ形式で行いました。カンタベリー大学のシェリル・デ・ラ・レイ学長は「双方の大学は震災という特異な経験をしています。この締結は非常に重要な機会であり、現在の世界的な課題と多様な価値観を共に理解し、さらに関係を深めていきたい」とあいさつ。これを受け本学の高橋仁学長は「カンタベリー大学とは（縁あって）これまでも少しずつ交流を進めてきましたが、今回の基本合意を踏まえ、新型コロナウイルスを乗り越えて今後はスポーツ交流、教育、語学、そして防災教育などのさまざまな面で学生や教職員の交流を本格化させていきたい」とさらなる連携に期待を膨らませました。

カンタベリー大学はニュージーランドの国立大学で、148年の歴史と伝統を持ち、学生1万6000人余りが通っている総合大学です。スポーツコーチングの分野では国内有数の高い評価を得ています。

所在地であるクライストチャーチ市は大きな地震に見舞われることが多く、2011年の東日本大震災を経験した本学とは、2016年より被災地復興をテーマに学生交流を行っています。



画面左の左から2番目、シェリル・デ・ラ・レイ学長

目次

・ニュージーランドの名門、カンタベリー大学と連携	1
・朴澤泰治理事長が栄えある「旭日中綬章」を受章 ～私学経営者として顕著な歩み～	2 3
・令和3年度「緑と水の森林ファン」助成事業に採択	3
・奄美・世界自然遺産登録に思うこと	4
・亘理町、日本クリケット協会と3者協定／競技普及で東北の拠点づくり ・本年度も「教探塾」スタート／150人、熱心に受講 ・親子わくわく運動あそび／動画配信	5
・成田行磯（体育・3年）、男子単でインカレ出場へ／バドミントン部 ・2大会連続インカレ出場権獲得／男子ソフトボール部 ・宮城県代表として東北予選出場へ／男子バレーボール部	6
・バドミントン部、部活動支援で成果／大河原中が東北大会へ ・全勝優勝 3年ぶり2度目の全国大会へ／Futsal部 ・仙台大クラブ準優勝！ 天皇杯東北ラウンドへ／男子バレーボール部	7
・芝草通信 NO. 27	8
・ベラルーシ新体操チームにエール／オンラインでもがっちり絆／SAKURA CAMP2021 ・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 39	9

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

朴澤泰治理事長が栄えある「旭日中綬章」を受章 ～私学経営者として顕著な歩み～



本年4月、令和3年春の叙勲および褒章受章者が発表され、学校法人朴沢学園・朴澤泰治理事長（74歳）が、栄えある「旭日中綬章」を受章されました。これは、国家または公共に対し功労があり、顕著な功績を挙げた方に授けられる栄誉です。

朴澤理事長は、仙台一高を卒業後、東京大学法学部に進学。卒業後の昭和45年、武田薬品工業(株)入社、本社在職中は薬害・公害訴訟にも関わるなど、20年余、日本の高度経済成長期を企業人として社業の発展に専心されました。母君の客死等もあり、昭和63年2月、学校法人朴沢学園の非常勤理事・評議員に就任したことを皮切りに、私学経営者としての新たなキャリアをスタートさせ、平成3年4月、同学園理事長就任と同時に、設置する朴沢女子高等学校（現：仙台大学附属明成高等学校）および仙台大学の拡充に努めてこられました。

高校部門では、平成8年から4年間、校長を兼務した他、理事長就任直後から、「明成」への校名変更、男女共学化、学園創立120周年記念事業実施、河北文化賞受賞や卒業生制作物の仙台市文化財指定その他の学園歴史の正当な評価への導き、学科改編および大学附属高校化などに、大学部門では、平成20年から6年間、学長を兼務した他、同じく理事長就任直後から、単一学科から複数学科制への移行、大学院開設、スポーツ科学専攻領域の分野拡大、後述する国際交流の促進、各種の教育施設・設備の整備拡充、大学創立50周年記念事業実施などに、それぞれ、心血を注がれました。

高等教育に係る公的な面では、平成15年4月から5年半就任した体育大学協議会（現：一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会）会長時代には、体育系大学のさらなる連携を企図し、自らスポーツ・健康系学科の新設大学に出向き同協議会加盟を呼びかけ、加盟校拡大を図るとともに、中教審スポーツ青少年分科会専門委員として栄養教諭制度創設にも関わり、さらに厚生労働省からの健康運動指導者育成に係る体育系大学の協力要請を受け、「健康づくりのための運動指導者普及定着方策検討委員会」委員を務めるなど、省庁を超えた体育系大学のパイプづくりにも尽力されました。また、仙台大学が加盟する私立大学協会では、理事長就任時から継続して協会評議員を務め、外部認証評価制度導入後は、日本高等教育評価機構の認証評価に係る評価員団長、評価判定委員会委員なども歴任されました。

地元宮城県においては、平成12年4月から4年間、宮城県私立中学高等学校連合会会長および県私学審議会委員を、平成19年7月から3年間、宮城県私学経営者協会会長に就任して、地方私学間の連携強化を呼びかけるとともに、高校教育面での県立高校将来構想審議会委員、また東北大学病院運営諮問会議委員等も歴任され、平成29年に県知事表彰(教育文化功労)を受けられました。

この他、企業勤務時代から加入している官民人材の資質向上および相互理解促進を目的とする団体(財団法人浩志会)の地方会員として各界連携の一翼を担うとともに、東京大学同窓会地方組織の「仙台赤門会」創設などにも寄与されました。

第10代学長だった平成23年3月に起きた東日本大震災では、被害により卒業式が実施できなかった卒業生のために、全卒業生の名前を刻んだプレートを第五体育館に刻む他、津波で亡くなった学生たちを悼む慰霊碑を建立し霊を弔いました。

この間、世界で活躍する人材の輩出を目的として精力的に海外へ出向き、東北師範大学・瀋陽師範大学・上海体育学院、青海省体育科学研究所、台東大学・龍仁大学・シーナカリニンウィロート大学・ホーチミン市立体育大学といったアジア圏、ハワイ大学・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校という米国圏、新体操強豪国のベラルーシ国立体育スポーツ学院・カヤーニ応用科学大学・オルデンプルグ大学など、海外の11か国18大学・1研究機関と学生の交換留学や教員の共同研究を広めるにいたっております。その集大成として平成29年10月には、「開学50周年を祝う記念事業国際交流イベント」を開催、ゼビオアリーナ仙台において、上記の全関係者と学生たちを招き、各国の伝統ある素晴らしい民族舞踊や演武が上演されるとともに、体育系大学として体操・新体操演技や日本武道を披露し、国内外の来賓や一般の方々、近隣の小・中学生・保護者・設置校の学生と生徒など、約3000人が魅了される行事となりました。

また、仙台大学附属明成高等学校を卒業後、バスケットの名門・米国ワシントン州のゴンザガ大学に進学、今やNBAプレーヤーとして2020東京オリンピックでは名誉ある旗手もつとめる世界の八村塁選手を育てたことも特筆に値する業績です。

朴澤理事長の生涯の恩師であり、本学の英語教授であった故田中久子先生は「おのれにまさる弟子なきは恥ずべき師なり」と、自分よりも秀でた学生を育てることこそ教師の務めであると諭されましたが、朴澤理事長は、この言葉を何より大切に実践してこられました。

綬章に際し、朴澤理事長は、関係者への謝辞とともに、「『蟻の一穴』を座右の銘に、歴史の正当な継承が自らの務め」と語っています。

これからも朴沢学園142年の歴史と伝統を胸に、教職員一丸となって、仙台大学と仙台大学附属明成高等学校の発展に寄与されることと思います。



米国ワシントン州・ゴンザガ大学において八村塁選手を応援

略歴

学 歴	昭和40年	3月	宮城県仙台第一高等学校	卒業
	昭和45年	3月	東京大学 法学部	卒業
職 歴	昭和45年	4月	武田薬品工業(株)	
	昭和63年	2月	(学)朴沢学園 理事・評議員(現在に至る)	
	平成 3年	3月	武田薬品工業(株) 退職	
	平成 3年	4月	(学)朴沢学園 理事長(現在に至る)	
	平成 8年	4月	明成高等学校長 兼務(平成12年3月まで)	
	平成12年	4月	宮城県私立中学高等学校連合会 会長(平成16年4月まで)	
	平成12年	7月	宮城県私学審議会 委員(平成16年7月まで)	
	平成15年	4月	体育大学協議会 会長(平成19年9月まで)	
	平成15年	6月	中央教育審議会スポーツ青少年分科会専門委員(平成16年2月まで)	
	平成16年	4月	東北大学病院運営諮問会議 委員(現在に至る)	
	平成19年	4月	健康体力づくり事業財団健康運動指導者養成事業運営委員会 委員(平成26年3月まで)	
	平成19年	7月	宮城県私学経営者協会 会長(平成21年7月まで)	
	平成20年	4月	仙台大学長 兼務(平成26年3月まで)	
	平成20年	7月	宮城県立高等学校将来構想審議会 委員(平成26年7月まで)	
	平成23年	4月	日本高等教育評価機構大学評価判定委員会 委員(平成31年3月まで)	
表彰歴	平成26年	4月	仙台大学学事顧問 兼務(現在に至る)	
	平成29年11月		宮城県知事表彰(教育文化功労)	
	平成30年	6月	一般社団法人全国栄養士養成施設協会表彰(永年栄養士養成教育功労者表彰)	

令和3年度「緑と水の森林ファンド」助成事業に採択

このたび、柴田千賀子教授の「森林環境と幼児のストレスに関する研究」が、令和3年度国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」助成事業に採択されました。

本事業は、幼児および青少年を対象とする森林環境教育の促進を目指すものです。森林環境での活動と幼児のストレス軽減との関連を明らかにすることは、日本はもとより世界の子どもたちの健康問題解決に寄与するのではないかと期待されています。



初寄稿シリーズ

奄美・世界自然遺産登録に思うこと

中里 寛 教授（令和3年4月着任）

7月26日、ユネスコ世界遺産委員会は、鹿児島県の奄美大島と徳之島、それに沖縄県の沖縄本島北部と西表島を新たに世界自然遺産に登録しました。「アマミノクロウサギ」をはじめとした固有の生き物が生息し、生物の多様性が残る貴重な地域としての価値を高く評価されたものです。

私は、過去5回奄美大島を訪れております。今回、自己紹介を兼ねて私が奄美を愛する理由などについて若干お目汚しをさせていただきます。

奄美大島は世界自然遺産に登録されただけのことはあって手つかずの自然が残っているところですが。これには訳があり、道を外れた場所にはハブが出るため、人はむやみに山に入ろうとはしません。道路脇のあちこちに「ハブ棒」と呼ばれる2メートルくらいの棒が常置されており、地元民がハブを見つけるとこれを使って捕獲、一匹3千円で役所が買い取ります。毎年2万匹弱のハブが買い取られ、それに要する予算は年間5千万円以上といえますから、人々のハブそして山への恐れというものが分かります。そのような経緯もあって自然の美しさは圧倒的ではありますがそれとともに山、海、そして神への畏敬の念というものは奄美の人々の生活文化、宗教性、人々の人生観や幸福感のありかたというものに密接に影響しています。現在でも島には数多くのユタ（霊能者）が存在し、人々は困ったことがあればこのユタに相談をします。私も島を訪れた際、二度ばかりこの神様（人々はユタではなく「神様」と呼ぶ）を訪ね、占いをしてもらいました。祭りの文化、それに関わる島唄や踊り、食文化にしても、自然と神の世界、そして人間の生活が一体化しており、日常と非日常が混在する幻想的なムードを漂わせています。観光客も居酒屋に行けば地元民と一緒に三線（三味線）とチヂン（太鼓）をならし、歌え踊れの大騒ぎです。もちろん、秋祭りの期間は多くの集落で徹夜の踊りが繰り上げられます。

一方で庶民の生活は慎ましく華やかさとは縁がありません。2019年の平均年間所得データは以下のようになっており、奄美島民の所得は宮城県の半分ちょっとといったところです。しかし日常の島民の暮らしぶりを見ると世間話が好きで人付き合いも良く、必要最小限働いて、あとは親族や仲間とゆったり楽しい時間を過ごすといった人間関係志向であることが分かります。

宮城県の年間平均所得	445万円（23位）
鹿児島県の年間平均所得	397万円（38位）
奄美大島の年間平均所得	250万円（奄美市、大和村、宇検村、瀬戸内町）

奄美ほどの自然豊かな場所になると、親戚や近所間での生活物資の相互扶助の割合が相当高く、収入の額で幸福度を測ることはあまり意味のないことでもあります。

中国の企業が、この島の一部を大規模に買収し、豪華客船の停泊が出来る港とリゾート施設の建設を度々画策しました。地域活性化を狙う行政は誘致の意向を示しますが、地域住民は漁協を先頭として徹底して反対に回り、撥ね付けてきた経緯があります。島民の価値観や幸福の在り方は貨幣経済に縛られぬ確固たるものがあります。たくさん歌や踊りを大切に育て、守ってきたその精神性の高さと豊かさというものは、人は本来どう生きるべきか、ということに対して示唆を与えてくれます。

グローバル化の波に抗ってなおり、この島の自然と文化を守り抜こうとする島民の姿は私たちに「真の豊かさとは何か」を問わずにはいません。グローバル化と無秩序な開発の波に翳りが見える今、人にとって真の幸福とは何か、私たちの常識というものを一度は見直すべき時代なのかも知れません。今回の世界自然遺産登録に、このような島民の思いというものが重なって見えました。



瀬戸内町西古見集落・唯一の商店

亶理町、日本クリケット協会と3者協定／競技普及で東北の拠点づくり

本学は、宮城県亶理町および日本クリケット協会との3者で「クリケット競技によるまちづくりの推進に関する連携協定」を結びました。

締結式は7月20日（火）、亶理町庁舎内で行いました。亶理町の山田町長は「亶理町は整備された施設を有効活用するため、亶理町をサッカーに次いで世界的に競技人口のあるクリケット競技の東北の拠点と位置付け、この連携が交流人口の拡大や国際交流につながることを期待する」とあいさつ。本学の高橋仁学長は「亶理町とは、4月下旬に包括連携協定を結びました。スポーツにより亶理町の活性化に協力できればと思っておりましたが、本日の日本クリケット協会との連携によって、クリケットを通じ少しでも町の役に立てるよう頑張っていきたい」と応えました。日本クリケット協会の宮地直樹事務局長は「2018年にスタートした5カ年戦略で、関東以外の地域にクリケットを広げるべく拠点づくりをしてきました。東北地域の中心・戦略的拠点として亶理町を『クリケットのまち』として、大会開催など、クリケットの普及のために重点的に事業展開し、交流人口の増加や国際交流機会の拡大等に貢献していきたい」と期待を寄せました。



亶理町は、世界への文化発信をテーマとするWATARI TRIPLE C PROJECTを今年度から本格稼働させており、併せて東日本大震災の復興事業で整備した鳥の海公園多目的広場を東北におけるクリケット競技の拠点として位置付けています。広場は8月1日（日）にグランドオープンする予定です。

本学は亶理町同様、これまで以上に市町村等との連携協定の可能性を積極的に探ってまいります。

本年度も「教採塾」スタート／150人、熱心に受講

本学は毎年、教員を目指す学生のために、専門知識を有し教育現場で豊富な経験を持つ教員が年間を通して指導する「教採塾」を開設、教員採用試験に合格するためのスキルアップをはかっています。

「教採塾」開始式は6月29日（火）に2～4年生、30日（水）は1年生を対象に本学内で行われ、約150人を集めて行われました。教員採用試験対策に必要な心構えや、今後の「教採塾」スケジュールについての説明がありました。

高校教員の経験がある高橋仁学長は「とてもやりがいのある魅力ある仕事」と話して激励。1年生対象の開始式では、教採塾の実技を主体とする「チーム教採」のチームリーダー、江藤花奈さん（現代武道学科4年）と大沼明美さん（運動栄養学科3年）は「チーム教採では学生同士で得意な実技について助言したり、苦手実技を教えてもらうなどお互いに共有できることが魅力の一つ」と説きました。

今後は、7月上旬よりオンラインによる学びを中心とした教員採用試験対策が始まります。



親子わくわく運動あそび／動画配信

子ども運動教育学科は親子による運動あそびの動画配信を始めました。幼児教育法のノウハウを活用し、乳幼児と保護者が一緒になって体を動かします。

第1弾は「2歳児対象」です。2歳になると、歩いたり走ったりして、行動範囲が徐々に広がってきます。何でも興味を持ち「自分でやってみよう」という自発性や自立心が芽生える時期であるため、子どもの動きたいという欲求を大人も受け止めることが肝心です。お子さんと楽しく運動して、「こころ」も「からだ」も健やかな成長に活用してください。

動画は仙台大学YouTube公式チャンネルからご覧ください。



成田行磯（体育・3年）、男子単でインカレ出場へ／バドミントン部

バドミントンの東北学生インカレ推薦選考会が6月14、15（火）の両日、山形市の山形県体育館で行われ、男子シングルスにおいて成田行磯（体育・3年）が3位入賞し、10月に奈良県で開催の全日本学生選手権（インカレ）への推薦権を獲得しました。大会は本来、東北学生選手権・春季リーグ戦として開催されますが、新型コロナの感染拡大の懸念から大会が中止・縮小を余儀なくされ、「選考会」という形になりました。

本学は通常なら部員全員をエントリーするところですが、大会の規模縮小に伴って選抜メンバーで臨みました。

○成田行磯のコメント

3位入賞は優勝を目指してきただけに満足はしていませんが、まずはインカレへの推薦出場が決まり安堵しています。インカレ出場は今大会の他に、9月に仙台で開催される東日本インカレでも出場権を取るチャンスがあります。私以外の部員もインカレの出場権を獲得できるよう、そして個人的にはインカレ上位に入るよう、部員一丸となって練習に励んでいきたいと思います。

<バドミントン部>



2大会連続インカレ出場権獲得/男子ソフトボール部

6月27日（日）に、2021年度全日本大学ソフトボール選手権北海道・東北地区予選会が岩手県八幡平市で行われ、男子ソフトボール部が見事に優勝を果たし、2大会連続でインカレ出場権を獲得しました。

大会は当初5月実施の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により延期開催となりました。出場校は3大学で、リーグ戦形式で戦いました。初戦の宮城教育大学戦では一回に高橋の先頭打者本塁打で先制すると四回までに8点を積み重ね、8対0で五回コールド勝ちを収めました。福島大学戦は両チームに本塁打が飛び出す乱打戦となったものの、17対10で六回コールド勝ちしました。

全日本大学選手権は9月11日から富山県で行われます。



今回、コロナ禍の中、大会運営していただきました東北ソフトボール協会および岩手県ソフトボール協会ならびに関係の皆様方に御礼申し上げます。

<男子ソフトボール部>

宮城県代表として東北予選出場へ/男子バレーボール部

7月4日（日）に第76回国民体育大会バレーボール競技宮城県選考会が多賀城市総合体育館にて行われ、仙台大学が宮城県代表として東北予選出場権を獲得しました。

本学男子バレーボール部は仙台大学、仙台大学クラブ、宮城の3チームで出場し、結果は次の通りでした。

○1回戦

仙台大学 2 (25-16、25-23) 0 宮城

仙台大学クラブ 0 (26-28、28-30) 2 東北学院大学

○決勝戦

仙台大学 3 (25-23、25-20、25-27、25-19) 1 東北学院大学



この結果を受け、仙台大学は8月20日（金）～8月22日（日）に山形県天童市で行われる東北予選に宮城県代表として出場します。

引き続き、男子バレーボール部の応援をよろしくお願いいたします。

<男子バレーボール部>

バドミントン部、部活動支援で成果／大河原中が東北大会へ

本学バドミントン部は地域の学校の部活動支援に取り組んでいます。実際に学校現場に赴いて指導、基本動作から試合の戦術までアドバイスを送っています。効果が徐々に表れ、部活動の成績もグングン上昇中です。

伴野匠（体育・コーチングコース3年）は本年2月から大河原町大河原中で指導をしています。コーチングコースの必修科目「スポーツコーチング実習」の一環も兼ねており、自ら指導方法の在り方を現場で学んでいます。

教えて学ぶ、学んで教える。試行錯誤の繰り返しの中で「実りの花」が ついに咲きました。大河原中は宮城県中学総合体育大会（7月24～27日・仙台市内）で女子が準優勝し東北大会（8月7～9日）への切符をつかんだほか、男子が3位と大健闘したのです。

伴野は生徒達の成長に「さらにコーチングのスキルアップを図りたい」と目を輝かせています。

バドミントン部は今後も「地域貢献」の観点から部活動指導に取り組んでいく所存です。

<バドミントン部>



前列右：伴野匠（体育・コーチングコース3年）

全勝優勝 3年ぶり2度目の全国大会へ／Futsal部

2021年7月10日（土）～11日（日）、宮城県中新田体育館でJFA第17回全日本大学フットサル大会東北大会が開催され、本学Futsal部は3年ぶり2度目の優勝を飾りました。

今大会は新型コロナウイルス対策で参加を見送る大学が多く、4チーム総当たり（東北大学、岩手大学、秋田大学、仙台大学）で戦いました。

結果は以下の通りです。

仙台大学 4-2 岩手大学

仙台大学 1-0 秋田大学

仙台大学 5-3 東北大学



写真提供：OMIYAGI ONE DREAM

全国大会は8月27日（金）～29日（日）に大阪府岸和田市体育館で開催されます。東北代表として一つでも上にいけるよう準備をしております。

最後に、対策を徹底したうえで大会を開催して下さった主催者の皆様、いつもご支援をくださっている大学、保護者の皆様にあつく御礼を申し上げます。

<Futsal部>

仙台大クラブ準優勝！ 天皇杯東北ラウンドへ／男子バレーボール部

バレーボール男子の2021年度天皇杯・皇后杯全日本選手権大会宮城県ラウンドが7月18日（日）、多賀城市総合体育館で決勝が行われ、仙台大クラブとして出場した本学は東北学院大学に屈し東北ブロックラウンドに回るようになりました。

試合結果は次の通り。

準決勝 仙台大クラブ 2 (25-12、25-21) 0 Team船岡

決勝戦 仙台大クラブ 0 (20-25、30-32) 2 東北学院大学

東北ブロックラウンドは9月11日（土）、12日（日）に宮城県多賀城市と利府町で行われます。本学は宮城県第2代表として出場します。一方、本学は既に大学のカテゴリーで出場権を獲得しているため、同ラウンドは仙台大学、仙台大クラブの2チームで出場します。

<男子バレーボール部>



準優勝の仙台大クラブ

芝草通信 NO. 27

担当 : 体育施設管理コンサルタント 小島文雄

芝生地の掘り起こしについて

野菜などは収穫後や春先に土壌表層を掘り起こして、表土を柔らかくしたり、肥料を混合したりします。粒度の大きいサイズの砂壤土と微粒子として表層に滞留しているシェルと質壤土を混合して粒度分布を調整します。土壌を調整することによって植物の育成を促進し、収穫を高めます。

しかし、多年草である芝草は掘り起こしが叶いません。そこで土壌固結し排水不良や空気の呼吸が苦しくなった表層をコアリングして古い土壌を抜き取り部分的に目砂に入れ替えます。サッチ(刈り粕の残滓)が多すぎたり古くなったりして土壌微生物の分解を阻害するようにもなりますので、同様に目砂に置き換えます。この方法が土壌更新作業として標準ですが、簡易的にコア抜きをせずに、丸形のタインや十字型のタインの工具を用いて穴開けをします。この方法は穴を開けるだけです、周辺の密度は高まりますがコアリングに似た効果が得られます。今回使用したバイブロエアレーションは穴開け作業と同時にタインを前後に振動をかけることにより大きな穴になります。

第二グラウンド天然芝生面全面と噴水廻り芝生を実施しました。写真のようなピッチと深さで行いましたので芝草の根茎が切断されています。そのために見た目では一定のピッチで芝生が50mm角程度の裸地になっていますが、根茎が切り取られた為に一時的に芝草がなくなっています。古い根茎が切断されたところから新しい新鮮な根茎が伸長してきて何れ芝生で覆われます。



写真1 バイブロエアレーション
機械全景、
トラクターに牽引されたアタッチメント



写真2 バイブロエアレーション
アタッチメント部分「
タインを振動させて穴開けする



写真3 穴開け状態
一定間隔で穴が開いている深さはボールペ
ンの差し込まれた位置まで



写真4 差し込んだボールペンの深さ
を表す位置

(7月29日記)

ベラルーシ新体操チームにエール／オンラインでもがっちり絆／SAKURA CAMP2021

東京五輪の新体操競技に出場するベラルーシのナショナルチームが事前合宿のため白石市に來訪したのにあわせ7月27日（火）、ホストタウンの白石市、柴田町・本学、立川市（東京都）をオンラインでつなぎ、選手団にエールを送りました。

同チームは2017年から2019年にかけて本学と白石市の2会場を練習会場としておりましたが、コロナ禍の影響により大会直前の合宿を白石市のホワイトキューブに集約しました。練習と生活は外部との接触を避ける「バブル方式」が採られています。

歓迎式では事前合宿招致推進協議会の会長を務める朴澤泰治理事長が「事前合宿が東京五輪での素晴らしい栄冠につながることを確信しています。ぜひ白石キューブで有意義な時間を過ごしてください」と宮城の地での実りある練習に期待を寄せ、「日本での五輪を大いに楽しんでください」とも呼び掛けました。

選手団からはイリーナ・レパルスカヤ ヘッドコーチが「この大変な時期でも私たちはあきらめず練習を続けてきましたが、それ以上に柴田町・白石市・立川市・仙台大学と一日たりとも交流が途絶えなかったことがとても素晴らしいことだと思います。またこの素晴らしい環境を整えていただいたことに感謝しています。皆さんの声援を裏切らないように全力を尽くします」と頼もしい意気込みを披露してくれました。

チームは8月6日に始まる新体操競技に向け、8月1日まで練習を行い、8月2日にオリンピック選手村へと出発します。



仙台大学を会場にエールを送った（左から）高橋仁学長、朴澤理事・学事顧問、滝口茂柴田町長、船迫邦則柴田町教育長ら



「高校スポーツの安全を守る」Vol. 39

担当：白坂 広子 助手

熱中症講習会を開催中です！

明成高校は7月22日から夏休みが始まりました。毎年夏休みが始まる頃は梅雨明けも重なるため、フィールドや体育館の気温は一気に上がります。夏休み中にWBGT値が31を超えることは少なくなく、生徒たちの体調管理や熱中症予防はとても重要です。私たちは例年熱中症講習会を夏休み前に行いますが、その理由は練習時間が夕方から日中に変わる前に暑熱順化を行い、適切な水分補給方法を身に付けさせるためです。熱中症を予防する一番の対策は何といっても「適切な食事」と「適切な水分補給」ですが、特に水分補給については講習の中で詳しく教育しています。「適切な水分補給」とは具体的にどのように行うのか、水分摂取の頻度、タイミング、量、そして内容について話しています。

水やお茶を好んで飲む生徒を多く見かけますが、運動中に水やお茶ばかりを飲むとナトリウム欠乏を引き起こす可能性があり、筋けいれんやめまいを引き起こしかねません。また、脱水状態になっていないかどうか、休憩時間や部活動終了時にどのように確認をしたらいいのか、など、多くのことを講習しました。7月17日は明成高校オープンキャンパスがあり、多くの中学生が部活動体験で来校しましたが、気温が一番高い瞬間で37.7度まで上がり、WBGT値は31以上を指していました。このような中、体調不良者が出ることなく無事にオープンキャンパスを終えることができたのも、日ごろから高校教職員の皆様とATの連携のなかでの注意喚起の成果や、上級生を教育し続けてきたことでチームとして熱中症予防を行えている成果だと思いました。まだまだ暑い日が続きそうですが、今年も熱中症発症0件を目指して活動を継続していきたいと思っています。



Monthly Report

聖光学院高校(福島)と連携協定/スポーツで人材育成



左から聖光学院の新井校長と本学の高橋学長

目次

・聖光学院高校(福島)と連携協定/スポーツで人材育成	1
・「体育」に想う	2
・日本初のメダル「銀」/佐々木琢磨職員、世界デフ陸上100M ・7年ぶり全日本インカレ出場へ/東日本ブロックV/男子ハンドボール部	3
・南蔵王チャレンジキャンプ実施報告	4
・亀山選手、健闘5位/堂々の演技は本学の誇り ・感慨深く凱旋報告会/ありがとうベラルーシ新体操チーム ・金賢植准教授の研究を助成/宮城県公衆衛生研究基金	5
・体操・南一輝(体育4年)が、2021プロ野球エキシビジョンマッチで始球式 ・令和3年度SD研修会をオンラインで開催 ・中学生たち、本学を「総合学習」で斬る/地域連携とは?	6
・芝草通信 NO. 28	7
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 40	8

本学は8月23日、福島県にある私立・聖光学院高等学校(伊達市)とスポーツを通じた学校教育、学術振興や人材育成を目的とした連携協定を結びました。

本学が持っている知的資源(研究内容)、人的資源(人材)、物的資源(施設・設備)を積極的に開放し、地域における生涯学習やスポーツの発展に寄与することの使命と、聖光学院高が令和4年度に新設するスポーツ探究コースの充実を図ることなどが協定の主な目的です。

締結式は聖光学院高校で行われ、本学からは高橋仁学長、森本吉謙副学長、江尻雅彦教授らが出席。高橋学長は「生徒の皆さんの学びを深められれば」と述べ、聖光学院高校の新井秀校長は「スポーツに関する技術だけでなく、人間力の育成にも取り組んでいきたい」と期待を込めました。

今後は、本学教員が講師となって専門的な学習の提供や、部活動での合同練習などを行っていく予定です。

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

初寄稿シリーズ

「体育」に思う

重巢 吉美 教授（令和3年4月 着任）

私が生まれて小学生から高校生の頃、昭和30年後半から50年前半は、今の環境とは違い、スポーツの環境はまだまだ整っていませんでした。「スポーツ」とか「競技」という概念より、「運動」か「遊び」だったように思います。

小学生当時の記憶がはっきりする小学校4年生頃から振り返ってみますと、私は「体育」の授業が好きでした。なぜかという、とても単純です。それは、体育の授業での実技がうまくできたからです。走ったり、跳んだり、投げたり、泳いだり・・・だから、楽しかったのです。もっともっとできるようになりたいと思っていました。

中学校へ行っても同様でした。大概のものはできました。特に、陸上では、短距離走が得意でした。100Mやハードル走も楽しく走っていました。小学生が出場する競技会は全くありませんでしたが、中学校には中学校総合体育大会がありました。校内陸上大会を経て、地区大会に出場しました。中学3年生の時には、400Mリレーで地区大会1位となり県大会へ出場できました。県内でも大きな陸上競技場で走れること、未知の世界へ踏み出すうれしさを感じました。当時は、土のトラックでピンの長いスパイクで走っていました。もちろん、陸上専門の先生が指導してくださるわけでもありませんでした。ですから、県大会で、陸上指導を受け、素晴らしい走りをする同じ学年の人たちがいることを知り驚きました。

高等学校へ行っても「体育」の授業は好きでした。女子校で体育を嫌がる人もいましたが、中学校よりも多様な種目を授業の中で体験できました。そして、高校からスタートできるチームスポーツのハンドボール部に入部して部活動を始めました。練習は、短時間でしたが、とても厳しかったです。当時は、毎日外のコートで練習ですし、ルールもひと昔前のものでした。真っ黒になって、軽い熱中症になりながらも走り続けました。インターハイの東北大会には毎年、そして、全国大会には1度出場しました。そんなこともあり、保健の授業も含め、小学校から高等学校までの「体育」の成績だけはオール5でスポーツテストはAの1級でした。「できることは好きに、好きなことはできることにつながる・・・」を体験したのだと思います。

プチ自慢となってしまうかもしれませんが、ここ仙台大学では自慢にも何にもなりません。そんな方ばかりが集まっているのですから・・・いかに狭い世界で生きてきたのかがわかります。けれど、小学生から高校生までの期間、「体育」の授業が好きになれたことは、その後の私が生きる中で少なからず影響を及ぼしていたのは確かだと思っています。

今、仙台大学との縁をいただけたことに不思議な気持ちがしています。



ボッチャ体験の様子

「体育」の好きな子どもたちを増やす学校を目指して取り組んできました。



休み時間、鉄棒練習に励む児童たち

日本初のメダル「銀」／佐々木琢磨職員、世界デフ陸上100M



日本デフ陸上競技協会提供

本学の佐々木琢磨職員（27）は8月24日、ポーランド（ルブリン）で開催された第4回世界デフ陸上競技選手権大会・男子100Mに出場し、10秒67（追い風1.6m）をマークして2位表彰台に上がりました。日本人として同種目初のメダリストとなります。

佐々木琢磨職員コメント

これまでの私だったらメダルを獲ることは厳しかったと思いますが、ここまで名取英二教授（仙台大学陸上競技部部長、元400M日本記録保持者）の指導を受け、細かい動きやレースの流れなど、正しい走り方を意識できるようになった結果、銀メダルを獲得できました。

今回のレースで課題も更に明確になりました。デフリンピックで世界一になるため、更に努力をし続けます。

7年ぶり全日本インカレ出場へ／東日本ブロックV／男子ハンドボール部

男子ハンドボール部は、8月10～12日に仙台市のカメイアリーナで開催された東日本学生ハンドボール選手権大会（東日本インカレ）でブロック優勝し、全日本インカレへの出場権を獲得しました。

全日本インカレへの出場は2014年以来7年ぶり、東日本インカレを勝ち抜いての出場権獲得は2004年以来17年です。

今大会は各ブロックによる総当たり戦形式で行われ、本学は2戦全勝としました。

結果は以下の通り

仙台大学	22	対	21	信州大学
仙台大学	47	対	21	北星学園大学

全日本インカレは11月6日から山梨県甲府市で開催されます。引き続き男子ハンドボール部の応援をお願いします。

<男子ハンドボール部>



左サイドからシュートを放つ
板倉暖人（体育学科3年）



カットインシュートを放つ
村上雄介（体育学科2年）

南蔵王チャレンジキャンプ実施報告

仙台大学体育学部 講師 井上 望

8月4～8月10日にかけて、6泊7日の南蔵王チャレンジキャンプを行いました。このキャンプは井上望研究室を母体とした「仙台大学野外運動研究室」という任意団体が主催しており、国立青少年教育振興機構より「子どもゆめ基金」の交付を受けて開催している事業です。コロナ禍であることから参加者の募集や開催に際して不安がありましたが、15名の子どもたち（小学校5年生～中学校2年生）が参加をしました。

キャンプ初日と2日目は晴れ間が見え、快適にキャンプ生活をする事ができましたが、3日目以降は連日の雨でプログラムを柔軟に変更しながら実施しました。なお、プログラムは冒険教育の理論に則り、「アドベンチャーウェーブ※」を意識しながら大学院生が中心となり企画、展開し、メインとなるプログラムは「1泊登山」でした。キャンプ場でテント生活をする事自体が初めての子どもたちもいる中、テントを自分たちで担いで登山をして、山中で1泊をしてキャンプ場に戻るという普通のキャンプではできない体験をしました。さらに登山の2日間は台風の影響もあり、雨



薪割りも一苦労。鍋捌きも大切だけど、まずは火をつけないと…



自分と同じぐらいの大きさのリュックを背負って歩く子どもたち

風共に強く、良いコンディションではありませんでした。しかし、誰一人として脱落する事なく、決められたコースを最後まで歩く事ができました。歩いている最中に班のメンバーと励まし合っている姿はとても印象的でした。登山後は、さらに絆が深まり、最終日には、キャンプ生活を共にした仲間たちを別れる事が辛くて、感極まって泣き出す子どももいましたが、かけがえのない良い体験を提供できた証拠なのではないかと思います。

上記のように成功裏に終わる事ができたのですが、徹底した感染対策とスタッフ（ゼミ生）の働きがなかったらかなわなかったのではないかと思います。特に感染対策については例年には無い事でしたが、子どもたちの直接指導にあたるスタッフが子どもたちの様子を毎晩「カウンセラー報告」の中でより詳細に報告するとともに「全員の朝昼晩3回の検温と体調チェック」を徹底し、少しでも体調が悪い子どもやスタッフがいらないか常に確認できる体制をとりました。

このキャンプがスタッフの野外教育指導者としての教育を兼ねているとは言え、黙々と感染対策とキャンプ活動に取り組んでくれた事については、感謝の言葉しかありません。

最近では、新型コロナウイルスがデルタ株に置き換わりつつあるため、今後、このような野外活動を開催する事も難しい状況になることも考えられますが、子たちの笑顔や保護者の方々からの要望に応えるためにも、どうやったら実施できるかをよく考えながら取り組んでいきたいと思っています。



来年はコロナが終息して、制限なくキャンプができますように

※アドベンチャーウェーブとは、野外教育の一つである冒険教育を行う際に用いられる理論の一つです。冒険教育を効果的に実施するためにプログラムを組む際に全日程の中間にメインプログラムを配置し、その前でメインプログラムへの準備、その後でふりかえり、日常への適応を目的としてプログラミングする手法。

亀山選手、健闘5位／堂々の演技は本学の誇り

東京五輪の体操競技に出場した本学OB亀山耕平選手（徳洲会、2011年体育学科卒業）は8月1日、男子種目別あん馬の決勝に臨み、表彰台こそ逃しましたが堂々の5位入賞を果たしました。持ち味の雄大な旋回を見せる演技は健在で、世界に改めて「カメヤマ」の名を強く印象付けました。

亀山選手は「あん馬のスペシャリスト」として本学卒業後の2013年に世界選手権種目別を制した経歴を持ちます。今回の東京五輪には個人枠による出場権を獲得し、32歳にして自身初のオリンピックに挑戦となりました。

1日、本学は学内LC棟に教職員と学生有志が大型スクリーンで観戦し声援を送りました。

試合後の翌2日には亀山選手から高橋仁学長に電話が入り、「応援ありがとうございました。（五輪での演技は）最高に幸せでした」と話してくれました。コロナ禍が収まった後に本学を訪れるということです。



感慨深く凱旋報告会／ありがとうベラルーシ新体操チーム



東京オリンピックに出場したベラルーシ新体操ナショナルチームの凱旋報告会が8月10日に本学第4体育館で行われ、足掛け5年にわたる交流の大団円を迎えました。「ありがとう」「また会いましょう」。関係者一同、感謝と惜別の思いが交錯しました。

チームへの「おもてなし」は白石市と柴田町がホストタウンとなっており、本学は2017年から2019年にかけて学内施設を練習会場として提供してまいりました。しかし、コロナ禍の影響で様相は一変。大会直前の合宿も白石市のホワイトキューブに集約して行わざるを得ませんでした。

山あり谷ありを経て臨んだ五輪。チームは個人種目で銅メダル、団体5位入賞という輝かしい成績を収めました。拍手と賛辞に包まれた凱旋報告会ではまず、事前合宿招致推進協議会の会長を務める朴澤泰治理事長が「今回の成果は皆さんの努力の賜物です。イリーナ・レパルスカヤ・ヘッドコーチ（HD）も大変お疲れさまでした」とたたえ、レパルスカヤHDには仙台たんすを、選手たちにはこれまでの合宿の様子を収めた映像と本学タオルを贈りました。

これに対しレパルスカヤHDは交流の歩みを振り返りつつ、「5年間の事前合宿が今回の結果につながりました。これまで関わったすべての方々に感謝します」と笑顔で締めくくってくれました。

金賢植准教授の研究を助成/宮城県公衆衛生研究基金

このたび、金賢植 准教授が研究している「宮城県の子どもにおけるCOVID-19流行前・中の生活習慣や身体状況からみた健康管理上の課題」が、令和3年度宮城県公衆衛生研究基金の助成を受けることになりました。

この研究は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行前・中の子どもたちの生活習慣（身体活動・スクリーン視聴・睡眠）と身体状況（体力・運動能力）の実態を把握し、コロナ禍の中で子どもたちが抱える健康管理上の問題点を抽出し、その改善方法を検討します。本研究の成果は、今後宮城県の子どもたちが健康な生活を送る上で一つの指標になるものと期待されます。

<学術会事務課>



金賢植 准教授

体操・南一輝（体育4年）が、2021プロ野球エキシビジョンマッチで始球式

体操競技部の南一輝（体育4年）が8月4日仙台市宮城野区の楽天生命パーク宮城で行われた、楽天イーグルス対東京ヤクルトスワローズの2021プロ野球エキシビジョンマッチで始球式を務めました。

同部のユニフォームでマウンドに上がった南一輝は、緊張しながらも力強い投球を見せ、会場を沸かせました。

初めての体験に南一輝は「体操以外のスポーツを体験できたことはとても貴重な経験となりました。改めてスポーツの楽しさを感じました」と笑顔で話してくれました。

同選手は体操競技の全日本種目別床運動で3連覇を成し遂げており、10月18～24日に北九州市で行われる体操の世界選手権代表にも選ばれています。



令和3年度SD研修会をオンラインで開催

本学園では、教職員の職能開発向上等を目的として、毎年SD研修会を開催しております。

今年の研修会は、8月11日の午後から、コロナ禍における感染防止の観点から昨年同様、オンラインでの開催で、川平及び船岡両地区合わせて159名の教職員が参加して行われました。

朴澤理事長による訓示の後、宮城県総合教育センター情報教育班の主幹(指導主事)山下学氏に『新学習指導要領とICT活用』という演題でご講演をいただきました。新学習指導要領による目指すべき姿と、そのためのICT環境整備の在り方などについて学ぶことができ、大変有意義な研修会となりました。

研修会で得た知識を活かしながら、学生が、より安心した学生生活を送ることができるように、教職員一同、引き続き、質の向上を目指して、社会の期待に応えられる学校運営に取り組んでまいります。



中学生たち、本学を「総合学習」で斬る／地域連携とは？

本学の教学組織であるスポーツ健康科学研究実践機構は8月18日、北海道教育大学附属函館中学校の生徒4人の訪問を受け、同機構が掲げる地域連携の実態や社会貢献の考え方について尋ねられました。この訪問は、仙台市への修学旅行と組み合わせた探求学習「総合的な学習の時間」の一環です。スポーツを軸とする本学の取り組みが少しでも理解してもらえたのではないかと思います。

4人はいずれも3年生。ホームページで「地域連携」をキーワードにさまざま検索したところ、本学のスポーツ健康科学研究実践機構を知ったそうです。事前に質問事項をメールでやり取りし、訪問当日は新聞記者さながら熱心な「取材」でした。40分間、「地域連携を進めるうえで（大学の都合だけでなく）相手方の気持ちをどう酌むのかも大事だと思う。どのようにやっているのか」といった突っ込んだ質問なども受け、「相手方と連携協定を結ぶ際は事前に十分に話し合っている」と返答。

機構側も地域連携の事業を進めていく際の「姿勢」が改めて問われている、と感じ入りました。

北海道教育大学附属函館中の皆さん、大変お疲れさまでした。

<スポーツ健康科学研究実践機構>



本学の教職員から説明を受ける北海道教育大学附属函館中の皆さん

芝草通信 NO. 28

担当 : 体育施設管理コンサルタント 小島文雄

ムクドリの大量飛来について

7月12日に第二グラウンド、ラグビー場・アメリカンフットボール場にムクドリの大量飛来を確認しました。普段目にしても数匹程度のムクドリが100匹近い大量の飛来は何を示しているのかといえ、シバツトガやヨトウ（ガの一種）の幼虫が卵から孵化して芝生の中や地表面を動き回っていることを示しています。鳥の目は人間よりも優れた能力が有り高いところからでも幼虫の存在を察知します。

幼虫が大量発生すると数にもよりますが、一昼夜で芝草の根元や茎葉部を食害しますので、大変な被害になります。常日頃シバツトガ・ヨトウ成虫の飛来数を観察したり、幼虫の存在を観察したりしますが、なかなか分かりません。ムクドリの大量飛来は幼虫発生のバロメーターになりますので、すぐに防除作業として殺虫剤の散布を行います。成虫は日中かん木などの陰に潜んでいるが、夕方から夜間にかけて芝草に産卵します。第1化期は約5～6週間であり、年3～4回発生するとみられています。春先の幼虫は小さくて食欲ありませんが夏頃には、成長して食欲旺盛になり食害が大きくなります。

初期の頃は幼虫の発生に気付くのが遅かったり、外注企業から借り受ける機械の手配に手間取ったりして大きな被害にあった時もありました。現在はワーカーンという汎用性の広い小型トラックが有り、運搬台車や液剤散布のタンク車や砂散布機等アタッチメントの交換で色々な作業がオートマチックで行える機械が役に立っています。害虫発生の駆除対策に常時タンク車に交換して準備しています。

7月14日に実施した薬剤散布の状況を写真で説明します。

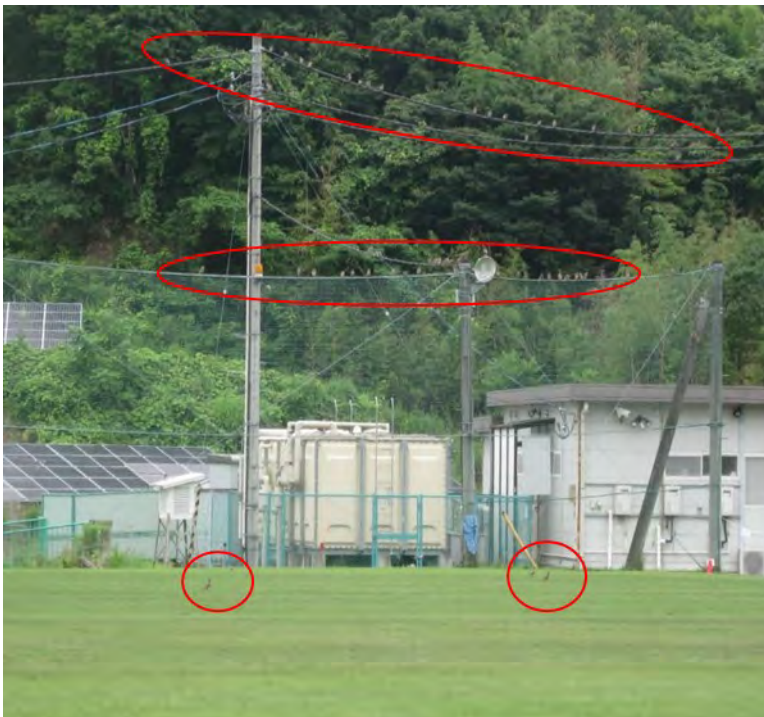


写真1 ムクドリの大量飛来
電線に多数止まっているムクドリ（赤丸印）。警戒心の薄い一部は芝生表面に降りて幼虫を食べている。



写真2 薬剤散布状況
タンク車の右側に伸ばしたアームから散布中、先端から白い泡を出してマーキング（赤丸印）
殺虫剤：フルスイング、殺菌剤：ランマン



写真3 タンク内水洗い状況
タンク車の両側に伸ばしたアームと車幅のセンターアームから一斉にタンク車内の水を散水して洗浄中（薬剤散布と同じ状況）



写真4 薬剤散布完了後
ムクドリは全数退避



写真5 全景
ラグビー・アメリカンフットボール場

(8月27日 記)

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol. 40

担当：浅野 勝成 助手

高校は約1ヶ月の短い夏休みが終わりました。私自身は1ヶ月も休んでいる訳ではないのですが、もっと欲しいな～と思ってしまい、子どもの頃と変わらないなと感じます。子どもの頃は遊ぶ時間が欲しいという理由でした。今では、夏の間で成長する生徒が多く（私自身の経験）、そこにトレーニング指導という立場で携わることが出来るので、毎年の夏休みがとても楽しみです。今年の夏もいくつかの成長が見られたので、それを紹介します。

まず、夏のトレーニング指導では熱中症予防や汗で床や器具が滑ることによる事故の防止を念頭に置きました。汗で床が滑りやすい状況下でジャンプトレーニング等を行うと、怪我に繋がる可能性が上がるからです。S&Cコーチとして、トレーニング開始前に床のチェックは毎回欠かさず行います。一方で、トレーニング中の安全管理も生徒達に学んでほしいという想いもあります。夏休み当初は、口頭で指示や注意点を生徒達に伝えてきました。継続して伝えてきたからなのか不明ですが、雑巾をいつもより多く準備する、セットが終わったら器具だけでなく床も拭く、ジャンプトレーニングする前には床の滑り具合をチェックする、滑りやすい箇所があればコーンを置いておく、などのような自発的な行動が生徒達から見られました。結果として、今年の夏休みもトレーニング中の事故は起きませんでした。これは生徒達の成長の賜物と思います。

二つ目に、男子バレーボール部に対して新たな取り組みを行いました。ある日のトレーニングで1・2年生が練習試合で、3年生のみという日がありました。どうせ3年生のみだからという理由で、これまでのトレーニングや授業を通して学んだことを活かして、自分たちでウォームアップを考えてみようという時間を設けてみました。9名全員が静的もしくは動的ストレッチとダイナミックウォームアップをそれぞれ1個ずつ考えて説明そして実践するという流れにしました。また、同じ部位や動作を行わないという制限も設けました。結果として、個々が考えた種目を繋げてみると低強度の静的ストレッチから始まり、最後はアジリティ要素を含む全力ダッシュで終えたので、理想に近いウォームアップを生徒自らが作成そして実践できたのではないかと思います。生徒たちが日々の学びをアウトプット出来たことに嬉しく思いました。

今後もS&Cコーチとして生徒達の成長をサポートできることに喜びを感じつつ、日々の指導業務に精進していきたいと思います。



写真1. 足関節ストレッチの様子



写真2. 太もも裏のストレッチの様子

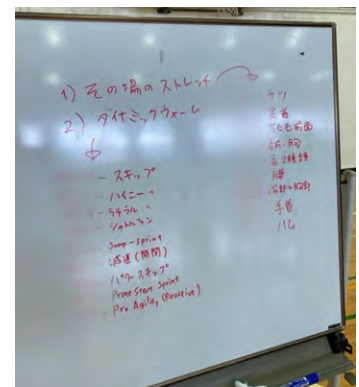


写真3. 生徒考案のウォームアップのプログラム

Monthly Report

本学OBの亀山耕平選手と岩佐義明ヘッドコーチが東京オリンピック・パラリンピックの凱旋報告のために来学



会場に参加した後輩たちへ大会での様子を話す岩佐HCと亀山選手

目次

・本学OBの亀山耕平選手と岩佐義明ヘッドコーチが東京オリンピック・パラリンピックの凱旋報告のために来学	1
・価値ある人間になるために	2
・男子サッカー部2名が来季Jリーガーに来季加入内定、および2021シーズンJFA・Jリーグ特別指定選手に認定 ・佐々木琢磨選手「第4回世界デフ陸上競技選手権大会」男子100M 日本初「銀」の快挙を報告	3
・悲願V届かず男子5位、女子8位／全日本学生体操 ・硬式野球部/秋季リーグ戦開幕2連勝	4
・芝草通信 NO. 29	5
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 41	6

東京オリンピックの体操競技種目別あん馬で5位入賞を果たした亀山耕平選手（2010年度卒）と東京パラリンピックの車いすバスケットボール女子チームを6位入賞に導いた岩佐義明ヘッドコーチ（以下、HC）（1979年度卒）が9月21日来学し、凱旋報告会がおこなわれました。

報告会では朴澤泰治理事長が「二人に共通することは、永年努力を継続してきたこと。今後も活躍を期待しています」と敬意を表し、高橋仁学長からはお祝いの言葉とともに大学オリジナルの日本酒などの記念品が贈呈されました。

大会を振り返り、亀山選手は「多くの方々に支えていただいたことに感謝しています。大会はすごく楽しめました。思い切って演技ができたので悔いはありません」と語り、岩佐HCは「メダルを獲得できなかったことは悔しかったです。これからも車いすバスケットボールをメジャーにするために」と今後の抱負を語りました。

会場には、男子バスケットボール部と体操競技部の後輩たちも参加し、両先輩に対して、大舞台での心境やコロナ渦でどのようにモチベーションを維持したのかなど、積極的に質問がとんでいました。



岩佐義明ヘッドコーチ（1979年度卒）



亀山耕平選手（2010年度卒）

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

初寄稿シリーズ

価値ある人間になるために

小西 志津男 准教授（2021年4月 着任）

5年前に他界した父は、航空自衛隊の自衛官でした。航空自衛隊というと、東京オリンピック・パラリンピックの展示飛行を行った松島基地のブルーインパルスイメージです。が、父は北海道の襟裳基地・三重県の笠取山基地のレーダーサイトの2カ所に勤務した通信士でした。華やかな曲技飛行のパイロットとは異なり、高い山の頂上で冬には雪が積もるドーム型の薄暗い場所でレーダーの画面を見つめて蛍のような光の点を眺めている通信士は、あまり知られていない職業だと思います。



このような父の仕事の関係で、幼い頃の私の家には無線に関わるガラクタが沢山ありました。何に使う物なのか分からないまま、私は素直にオモチャとして遊んでいました。その一つに電鍵があります。電鍵は、通称米つきバツタといわれるモース符号を発生させる道具です。小さなつまみを下げることで電気信号を手動で断続して、ポーと音が出る楽しいオモチャでした。その後、小学生になると電気製品をバラバラに分解する遊びを楽しむようになりました。当時のテレビは、チャンネルはガチャガチャ回す、映りが悪くなると叩くという時代でした。今と違い、テレビにはブラウン管や真空管が使われていました。三極管と呼ばれる真空管が使われていて、ガラス素材の円筒形で、下にはタコのような針金の足が生えていました。真空管は、ベース電流を流すと淡いオレンジ色の光を発し、長時間使用していると心地よい温かさの熱が発生する、私が大好きなパーツでした。

このような経験と父の職業の影響があったかどうかは不明ですが、高校生の時に私には外航船舶の通信長になりたいという夢をもちました。当時、外航の船舶職員になるためには神戸商船大学への進学のあることを知りました。しかし、私が卒業する年度は共通一次試験元年で、苦手科目がある私には壁の高い5教科7科目となりました。通信長への道は閉ざされ、その後、入学した大学で何に役立つのかも分からずX線結晶解析という未知の世界へと踏み出しました。大学では、ヒ素(As)、リン(P)等を混合した試料を作成し、X線解析装置で分析する研究を行っていました。

大学卒業後は教員として就職し、36年間で小・中・高・特別支援学校の各校種、肢体不自由・病弱・知的障害の障害種、小規模校（へき地校）、分校・分教室勤務とバラエティーに富んだ教員生活を送りました。大学で教育学についてほとんど勉強していない私にとっては、これらの学校現場において直接経験したことすべてが学びとなりました。

私には、理論物理学者アルベルト・アインシュタインの「成功のためではなく、価値ある人間になるために努力せよ。」という言葉が人生の指針としてあります。成功することを終着点とするのではなく、常に経験をとおりて自分がさらに成長できる努力を継続することが大切なのだと理解し、これまでの人生を過ごしてきました。

まだまだ中途半端な私ですが、4月から仙台大学に着任したことで、今後とも価値ある人間になれるように研鑽を積んでいきたいと考えています。

男子サッカー部2名がJリーガーに加入内定、さらに2021シーズンJFA・Jリーグ特別指定選手に認定

この度、来季（2022年シーズン）から男子サッカー部の藤田一途（体育4年）がロアッソ熊本（J3）に、鯉田太陽（体育4年）がカマタマーレ讃岐（J3）に加入がそれぞれ内定しました。

また、今季（2021年シーズン）は日本サッカー協会より「2021年JFA・Jリーグ特別指定選手」として認定され、Jリーグへの試合出場も可能となりました。

今後、2人の活躍が期待されます。

【選手プロフィール】



藤田 一途（ふじた いっと）

■ポジション：MF

■生年月日：1999年6月30日（22歳）

■身長/体重：175cm/72kg

■出身：神奈川県横浜市（神奈川県立荏田高出）

■チーム歴：

あざみ野FC→横浜F・マリノスJr.ユース→横浜F・マリノスユース→仙台大学



鯉田太陽（なまずた たいよう）

■ポジション：MF

■生年月日：1999年4月13日（22歳）

■身長/体重：172cm/66kg

■出身：埼玉県蓮田市（日本体育大学柏高出）

■チーム歴：

FC白岡南→柏レイソルU-12→柏レイソルU-15→柏レイソルU-18→仙台大学

佐々木琢磨選手「第4回世界デフ陸上競技選手権大会」男子100M 日本初「銀」の快挙を報告



左から朴澤泰治理事長、名取英二教授、佐々木琢磨選手、高橋仁学長、八巻芳信同窓会長



手話で結果を報告する佐々木琢磨選手

8月に開催された第4回世界デフ陸上競技選手権大会男子100Mで10秒67（追い風1.6m）をマークし、日本人として同種目初の銀メダルを獲得した佐々木琢磨選手（本学職員・2015年度卒）が、9月28日に本学にて朴澤泰治理事長、高橋仁学長、八巻芳信同窓会長にその活躍ぶりを報告しました。

朴澤泰治理事長は「これまでの努力が今回一つの結果に繋がったと思います。来年5月にブラジルで開催するデフリンピックでは今回の成果をベースに一層の活躍を期待しています」と激励し、高橋仁学長よりお祝いの言葉と記念品が贈呈されました。また、八巻芳信同窓会長より激励金が贈られました。

佐々木琢磨選手は今大会の結果について「世界一になれなかったことは悔しいですが、課題も明確になりました。デフリンピックでは金メダルを取れるように頑張りたい」と更なる飛躍を誓いました。

悲願V届かず男子5位、女子8位／全日本学生体操

体操競技部は9月3、4の両日、全日本学生選手権大会（静岡市・草薙総合運動場体育館）に出場しました。

男子は悲願の初優勝を目指して精鋭を送り込みましたが、全般にミスが目立ち着実に得点を上積みすることができませんでした。総合点は393.225。順大、鹿屋体大、日体大、筑波大に次ぐ5位に甘んじました。

女子は前回7位から一つでも上位に食い込みたいところでしたが、演技の確実性とアピールの点で精彩を欠き、総合点242.196で8位に沈みました。

このほか個人戦の種目別において、男子跳馬で佐々木郁哉（体育1年）が14.866で3位、岩澤将英（体育2年）が14.800で4位に食い込み、女子段違い平行棒では尾藤由夏（体育1年）が13.000で8位と健闘しました。

男女を統括する鈴木良太監督は「選手たちは一生懸命やった。ご苦労さまと言いたい。部を挙げて来年へ向け巻き返す」と総括しました。

緊急事態宣言の中での開催であったため、観客席からの応援は拍手のみ、演技中における指導者からの声掛けも禁じられる異様な雰囲気でした。大会を開催するためにご尽力いただいた関係者の皆さまへ感謝申し上げます。

本学からの出場メンバーは次の通り。

【男子】

- ▷団体 藤井隆元（体育4年）乾鉄平（体育3年）岡田卓海（体育3年）
岩澤将英（体育2年）佐々木郁哉（体育1年）高橋静波（体育1年）
- ▷個人 玉利敦（体育4年）奥平悠太（体育4年）表慎一郎（体育3年）
澤本隆平（体育1年）緒方大騎（体育1年）

【女子】

- ▷団体 社家間楓花（現武4年）富岡こころ（体育3年）社家間由希（運栄2年）
斎藤花音（運栄1年）栄養尾藤由夏（体育1年）渡辺咲心（運栄1年）
 - ▷個人 道倉楓羽花（現武4年）藤本亜祐奈（運栄4年）小椋未希（体育1年）
- <報告：体操競技部>



男子団体出場メンバー



男子個人出場メンバー



女子団体と個人出場メンバー

硬式野球部/秋季リーグ戦開幕2連勝

9月25日に仙台六大学野球秋季リーグが仙台市・東北福祉大学野球場で開幕しました。

今季は新型コロナウイルス感染症の影響から例年より遅れての開催となり、各大学2戦総当たりの勝率制で順位を競います。

硬式野球部は第1節の25、26の両日、宮城教育大学と対戦し1回戦5-0、2回戦9-2（七回コールド勝ち）でいずれも勝利し、連勝スタートしました。

◇1回戦 対 宮城教育大学（5-0）○

仙台大 001010030=5

宮教大 000000000=0

投げては先発の川和田（体育2年）が7回無失点の好投。打線は八回に益子（体育4年）、永長（体育4年）の本塁打で突き放しました。



7回1安打無失点と好投した川和田（体育2年）

◇2回戦 対 宮城教育大学（9-2）○ 七回コールドゲーム

宮教大 0002000=2

仙台大 3210201=9

先発した長久保（体育3年）が6回2失点で今季初勝利。打線は初回に大北（体育4年）、益子（体育4年）の連打で3点を先取すると三回までに6点を奪うなど打線が奮起しました。

大会は10月24日まで続き、選手たちは優勝を目指しチーム一丸となって戦います。引き続き応援よろしくお願いたします。

<報告：硬式野球部>



第1戦で本塁打を放った益子（体育4年・写真左）、永長（体育4年）

芝草通信 NO. 29

担当 : 労務職員 八巻 良宏

9月の芝生管理 (ラグビー場) について

ウィンターオーバーシード準備のため、更新作業用機械を用い、芝生面を攪乱しないで耕作することにより、通気を図り土壌の働きを回復させるとともに、サッチの分解を促進し、芝草、芝地の若返りをはかることを更新という。

今回更新作業を実施した、バーチカル作業について紹介します。

バーチカル



写真 1. 作業中

サッチ：芝生の刈草や冬枯れした葉、古い根などが土壌の表層や浅い部分に堆積して層をなしたものの。



写真 2. 作業後



写真 3. 作業後

深さの調整



写真 4. 作業後

バーチカルの深さ 約4cm

※ウィンターオーバーシード

冬に冬眠して枯れてしまう暖地型芝の上から冬も緑を保つように寒地型芝の種をまいて1年中緑にすること。

(9月29日 記)

「高校スポーツの安全を守る」Vol. 41

担当：今野 桜 助手

夏休みが開け、高校生にとっての9月は秋の大会に向けての追い込みの時期でした。負ければ3年生は引退、新人チームで挑む初めての大会、など部活動によって置かれている状況は様々ですが、6月の高校総体と同様、9月・10月に行われる各部活動の大会は1年の中でも最も大事な大会の一つです。

私は9月18~20日に行われた宮城県高等学校女子サッカー選手権大会に帯同させていただきました。女子サッカー部の3年生にとっては、今回の大会で2位以上にならないければ高校生として出場できる最後の公式試合でした。今年の高校3年生は昨年から続くコロナ禍で、高校生活の半分以上がいままで通り練習できない日々となりました。しかし、私はそんな状況でも個人やチームの目標のために日々努力してきた姿を見ていたので、今回の大会ではその成果を発揮してほしいと思っていました。結果は惜しくも第3位で、東北大会出場は果たせませんでした。大会中に特に大きな怪我が発生しなかったことに少しホッとしつつも、もう少し長い間3学年全員で戦ってほしかった、と思う気持ちもあります。大会前の怪我により痛みを我慢して試合に出場した生徒や、当日に体調を崩してしまった生徒がいてチームは万全な状態ではなかったのですが、そういった生徒が少しでも減り今後の大会で自分たちのプレーが思う存分発揮できるように、ATとしてのサポートをしていきたいと思います。

10月にも各部活動が大会を控えており、いつもに増して緊張感が伝わってきます。この時期に起こる怪我や体調不良は今後の大会に大きく影響してくるので、なるべく未然に防ぐこと、そして悪化しないようにすることに気をつけながら生徒達への指導をしていきたいと思います。

最近は気温が低くなり日が暮れるのも早くなりました。6時頃には明仙フィールドは真っ暗です。暗く寒い中で練習は視界が悪いので人と人、もしくは人と物との衝突による事故が起きやすいです。日が暮れるのが早い秋から冬の時期は、そういったところにも注意して生徒たちの安全を守れるように活動していきたいと思います。

Monthly Report

南、晴れ晴れ「やりきった」／世界体操で輝く「銀」



表彰式後、メダルを獲得し喜び合う（左から）南と鈴木監督

体操競技部の南一輝（体育4年）がやってくれました。世界の舞台で堂々2位。銀メダルを首から下げ、その表情は晴れ晴れと輝いていました。

北九州市立総合体育館で行われた世界選手権。第6日の10月23日は種目別床運動の決勝を行い、初出場の南は14,766点をマークしました。1位選手（イタリア選手）とはわずか0.034点の僅差。体操の世界で着地の際に足一つが動くと減点が「0.1」だけに、ほんのわずかなミスがメダルの色を分けたのです。

南は演技の出だしから「後方抱え込み2回宙返り2回半ひねり」、「シライ2（前方伸身宙返り3回ひねり）」とF難度の技を成功しました。しかし、確かに床運動の優劣を決めるのは高難度の技を持っているかどうかですが、結局、着地が重要なポイントになります。2人の得点を比較しましょう。Dスコア（難易度）で南は0.300上回っていました。つまりEスコア（出来栄・完成度）で南は涙をのんだのです。得点8.266。1位選手よりも0.334下回りました。南からみれば合計マイナス0.034です。

その悔しさは鈴木良太監督のコメントにもよく表れています。

「着地が何度か若干乱れた。そこが痛かった」と。南自身もそこは承知しています。「（着地は体の）反応が良すぎて動きすぎた。ただ、びびるより、思い切った演技をしようと思ったので…。ちょっと悔しい気持ちはあるけど、攻めた結果ですから。やりきった」と言っています。

南の世界への挑戦はこれで終わるわけではありません。これからも続きます。最後に南の談話で締めます。夢が広がるような内容です。

「一からまた演技をつくり直して、一番輝けるように頑張っていきたい。誰にも負けないような選手になりたい」

<体操競技部>

<目次>

・南、晴れ晴れ「やりきった」／世界体操で輝く「銀」	1
・これまでの経験を踏まえて、仙台大学で何をするか ・富谷市と包括連携協定を締結	2
・仙南地域におけるスポーツ活性化支援コンソーシアム発足総会を開催 ・令和3年度仙台大学地域防災人材育成プログラムを開催しました	3
・運動栄養学科/後期スタート！！～給食運営実習Ⅰの授業を見てみよう～ ・ヨガ体験でリフレッシュ！／健康福祉学科 ・“高齢者運動教室”の今を学ぶ／健康福祉学科	4
・自宅でできる運動・ストレッチ動画を配信／仙台大学 健康づくり支援班 ・学校支援ボランティア／増田西小学校からお礼状をいただきました	5
・硬式野球部／4年ぶり7度目のV 仙台六大学野球秋季リーグ ・女子サッカー部／河北新報旗争奪 皇后杯東北大会、2年振り5度目の優勝	6
・硬式野球部の川村友斗がプロ野球ドラフト会議で福岡ソフトバンクホークスから育成2位指名 ・育成2位の川村友斗、福岡ソフトバンクより指名あいさつ	7
・男子サッカー部の武部洸佑が来季からJ3ヴァンラーレ八戸に加入することが内定しました ・「高校スポーツの安全を守る」Vol.42	8
・芝草通信 NO. 30	9

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

初寄稿シリーズ

これまでの経験を踏まえて、仙台大学で何をするか

准教授 岩渕 孝二（2021年4月 着任）

まえがき

私は、今年3月、宮城県警を定年退職になり、4月から縁あって仙台大学に勤務することになりました。

警察においては、38年中26年が刑事部門と一番長く、しかも犯罪者と対峙する取調室の中で過ごした時間が、一番長いかもしれません。

警察官は、公務員の中でも一般市民の皆さんに最も身近な場所で活動する存在ですが、私はどちらかというと、犯罪者と過ごした時間の方が長かったといえます。取調室の中では、被疑者に暴れられたり罵られたり、嘘をつかれたりすることも多く、そんな中で仕事をしていると目つきも悪くなってしまうというわけです（というのは言い訳ですが）。



仙台大学で何をするか、ということ

このような私ですが、現代武道学科では、主に社会の安全・安心概論のうち、警察行政や具体的な警察の活動等についての講義を担当しています。

そして、この半年で感じたことは、一般社会の中で誰もが、普段からパトカーや警察官の姿は、頻繁に目にする機会があります。警察官を志望する学生にさえも具体的な警察の活動は、あまり知られておらず、警察官を志望しない学生に至っては、身の回りで起こる事件や事故でさえ、別世界での出来事くらいの感覚しかないのではないか、ということです。もちろん、警察と関わりなく普通に生活できることは大変良いことです。

そのようなことから、当初、警察官など公安系公務員等を目指す学生の支援、人材育成が私に求められていることだと思っていましたが、元警察官という立場からすると、世の中で起こる事件や事故は、ニュースの中だけの出来事ではなく、すぐ近くで起きているということ、事件に巻き込まれたり、事故に巻き込んでしまったりする危険は、身近にあるということを学生に伝えていきたいと考えております。

そして、少しでも本学の学生が自分の目指す道に向かって、一心不乱に突っ走っていくための手助けができればいいなと考えております。

皆さん、どうぞよろしくお願い致します。

富谷市と包括連携協定を締結

本学は10月8日、宮城県富谷市と生涯スポーツの振興や人材育成を目的とした包括連携協定を締結しました。

締結式は富谷市役所内で行われ、本学からは朴澤泰治理事長（本学学事顧問）と高橋仁学長らが出席しました。まず、富谷市の若生裕俊市長から「市制6年目を迎えるにあたり協定締結を機に、町づくりや未来への子どもたちの育成のために、仙台大学の持つ資源により体育・スポーツの推進、市民の健康づくり等を含め様々な形で支援をお願いしたい」と本学に対する期待が込められた挨拶がありました。

若生市長のあいさつを受け朴澤理事長は「今回の協定は、新たな人材育成、学生教育を展開できるよい機会となる。本学では、スポーツ・フォア・オールという基本理念のもと、身体活動をベースにスポーツ等を通じた人材の育成を図っている。幼児体育、部活動支援、高齢者の健康づくりをはじめとした様々な分野で連携を図り共に発展していきたい」と応えました。



左から朴澤泰治理事長、若生裕俊富谷市長、高橋仁学長

仙南地域におけるスポーツ活性化支援コンソーシアム発足総会を開催

10月19日、本学を会場に「仙南地域におけるスポーツ活性化支援コンソーシアム」発足総会が開催されました。

本コンソーシアムは、本学が持つさまざまな資源を活用し仙南地域におけるスポーツの普及推進を図るとともに、地域の健康・スポーツ等に関する課題について議論し、産学官が協力して解決の方策を検討し地域活性化に寄与することを趣旨として設立されました。

仙南地域の5つの自治体及び連携する企業等と本学の13団体が参加した発足総会では、本学がこれまで実施してきた乳幼児の運動あそび教室や介護予防運動事業、気仙沼市や郡山市でのICTを活用した部活動支援事業、岩沼市での部活動支援、亘理町と日本クリケット協会との協働でスタートしたクリケット普及活動などを紹介。行政や企業等の方々からはスポーツによる地域活性化の取組みや中学校の部活動における指導者不足、スポーツと栄養などについて発言があり、活発な情報交換が行われました。

会長となった高橋仁学長からは「少子化が進み、高齢化が加速する状況下において、体育・スポーツ系大学である仙台大学が地域のためにどのように貢献していけるかは大変重要な課題。産業界にもご協力を頂き、地域のスポーツ・健康面の課題解決とスポーツによる地域の活性化に向けて産学官で一つになって知恵を絞っていきたい」と、コンソーシアムへの期待が込められた挨拶がありました。

今年度の具体的な活動として、仙南地域の中学校部活動支援事業を行うこととしています。



コンソーシアム発足総会に参加した自治体や企業、協会等の代表者による記念撮影

<仙南地域におけるスポーツ活性化支援コンソーシアム 会員一覧>
(自治体)

・柴田町 ・大河原町 ・角田市 ・亘理町 ・山元町

(企業等)

・一般社団法人 日本クリケット協会 ・アイリスオーヤマ株式会社
・ソフトバンク株式会社 ・大塚製薬株式会社 仙台支店
・ミズノ株式会社 東北支社 ・JAXA 角田宇宙センター
・一般社団法人 スポーツ・ラボ仙台

令和3年度仙台大学地域防災人材育成プログラムを開催しました

10月22、23日の2日間、仙台大学地域防災人材育成プログラム（後援：柴田町）を開催し、柴田町民や本学学生など30名が参加しました。参加者は2日間の基調講演や講義の受講を通し、自然災害の発生メカニズムや柴田町内での災害発生状況、地域を守る消防団の重要性、避難所における運動指導の在り方など、地域の防災を担う人材としての基礎的な知識を深めました。

このプログラムは、自然災害に対して「どのように向き合い」「どのような行動を取るべきか」などについて考えることを通して、地域防災の中心的役割を担う人材の育成を目的に今回初めて開催されたものです。



◎プログラムの内容

○基調講演

「自然災害への備えと地域防災」

講師 東北大学災害科学国際研究所 所長 今村 文彦 教授

○講義1

「柴田町における地域防災の課題」

講師 柴田町総務課 危機管理監 平間 信弘 氏

○講義2

「消防団と地域防災」

講師 柴田町消防団 団長 平井 正憲 氏

○講義3

「東日本大震災時の避難所におけるボランティア活動の教訓から」

講師 本学教授 小池 和幸

運動栄養学科/後期スタート！！～給食運営実習Ⅰの授業を見てみよう～

夏休みも終わり、いよいよ後期授業がスタート。前期は新型コロナウイルス感染防止対策ため、ほとんどの授業がオンラインの実施でしたが、後期は国内の感染者数の急減もあり、対面での授業が多くなっています。

そこで、今までお伝えできなかった本来の授業風景をお届けします。今回は栄養士免許取得に必要な科目の一つ「給食運営実習Ⅰ」を紹介します！

小学校や中学校ではおなじみの給食。栄養士免許を得るためには給食に関する知識も必要です。その給食の献立作成や栄養価計算などの基礎的な知識を学ぶのが3年次で開講される「給食運営実習Ⅰ」です。

学生は、大学から貸与されているiPadを活用するなどして献立の栄養価計算、給食を作るまでの作業工程の計画、食材の発注書作成などを実践することにより、給食を提供するために必要な知識を身に付けることになります。

「給食運営実習Ⅰ」での学びは、学校、病院などの給食施設で行う校外実習で発揮することになります。

<運動栄養学科>



授業中の様子

ヨガ体験でリフレッシュ！／健康福祉学科

10月7日、健康福祉学科の2年生対象とした「ヨガ体験授業」が行われました。この授業は健康支援・介護予防演習の授業の一コマとして毎年恒例となっており、今年で6回目です。

健康福祉学科卒業生の中村孝子講師（2001年度卒・インド中央政府公認ヨガインストラクター）の指導のもと、静かに呼吸し体を動かし、とても穏やかな空間の中にいる感覚でした。

学生からは「頭だけでなく、体全体をほぐすことができた」、「日頃、動かさないところを伸ばし、体がポカポカした」、「ヨガは初めてで、とても楽しかった」、「体が硬いとできないかと思っていたが、先生の“自分のペースで”という言葉が心を和ませてくれた」、「久しぶりにとてもリラックスした。先生の説明や指示の仕方などがとても参考になった」などの感想が寄せられました。

今後も対面授業で、健康運動指導方法の実際を学んでいきます。

<健康福祉学科>



“高齢者運動教室”の今を学ぶ／健康福祉学科

健康福祉学科では「健康支援・介護予防演習」の一コマにおいて、現場で活躍中の講師から健康運動指導の実際について学んでいます。

10月21日は「高齢者運動教室」について、坂上香里講師（1999年度卒・健康運動指導士・仙台市健康福祉事業団等の運動教室を担当）の指導のもと、最近の動向もふまえ、音楽に合わせて様々な運動を体験しました。

学生からは「“楽しみながら” 行うことの大切さを理解できた」、「激しくはないが全身を使い、充実感があった」、「高齢者にありがちで、気づかなかった細かいポイントも学ぶことができた」、「認知症対策の運動も学び、少しでも高齢者に役立てるようになりたいと感じた」、「わかりやすい説明、安全のための工夫も学べた」、「普段のトレーニングに使えることもあった」などの感想が寄せられました。

今後も、健康福祉に役立つ学びを続けてまいります。

<健康福祉学科>



自宅でできる運動・ストレッチ動画を配信／仙台大学 健康づくり支援班

仙台大学健康づくり支援班は、肩こり・腰痛・膝痛の予防改善ストレッチとご自宅の階段などでおこなえる下半身強化のための運動動画を制作しました。

日々の生活に“運動”を取り入れていますか？ 日常生活の中でできるだけ歩くようにする、自転車を使う、階段とエスカレーターがあれば階段を使うといった心がけと行動が運動することに結びつきます。また、運動の「強度」「時間」「頻度」が少なくても、日常的に身体を動かすという意識を持つことで、自然と全体的な活動量を増やすことができます。

ぜひ、ご自宅で実践してみてください。

動画は仙台大学公式チャンネル（YouTube）で公開中です。



こちらからもご覧ください

<健康づくり支援班>

学校支援ボランティア／増田西小学校からお礼状をいただきました

10月13日、名取市立増田西小学校の荒明聖校長が来訪し、高橋学長にお礼状とお手紙がわたされました。これは名取市教育委員会からの派遣依頼で行った同小学校での水泳指導ボランティア活動（7月～8月 全12回のべ24名の学生ボランティアを派遣）に対してのものです。

荒明校長からは「今夏の学生ボランティア派遣で子どもたちの喜びは言うまでもなく、指導する担任教員の水泳指導にもよい刺激となりました。コロナ禍だからやらないという考えではなく、学生さんを含めて指導者4～6名で40～70名の子どもたちを担当する「新しい水泳指導」を模索し、やれるという実績が1つ増えました。本校の教員からは『校長先生、水泳授業の予定を計画より延ばして9月第2週まで行ってもよいですか？』、『ぜひ来年も仙台大の学生ボランティア派遣をお願いしてもらえませんか？』と嘆願されるほど、教育効果を実感しました。本当にありがとうございました」と、感謝の言葉を頂きました。

本学では今後も学校支援・地域支援ボランティアを通じて、生徒の皆さんや地域の皆さんに感動していただけるように活動に取り組んで参ります。



頂いた生徒からのお手紙やボランティア時の様子



増田西小学校の荒明聖校長（右から2人目）

硬式野球部／4年ぶり7度目のV 仙台六大学野球秋季リーグ

9月25日～10月24日に仙台市・東北福祉大学野球場で行われた仙台六大学野球秋季リーグで本学硬式野球部が4年ぶり7度目の優勝を果たしました。

10月24日の最終戦では本学硬式野球部と8勝1敗で並んだ東北福祉大学と対戦。勝者が優勝となる大一番に見事3-2で勝利しました。

対戦結果は以下の通り

9月25日 対 宮城教育大学	(5-0)	○
9月26日 対 〃	(9-2)	○
10月 2日 対 東北大学	(8-2)	○
10月 3日 対 〃	(5-3)	○
10月10日 対 東北学院大学	(1-0)	○
10月11日 対 〃	(5-2)	○
10月17日 対 東北工業大学	(7-0)	○
10月17日 対 〃	(3-0)	○
10月23日 対 東北福祉大学	(1-7)	●
10月24日 対 〃	(3-2)	○

なお、本学硬式野球部は全国大会をかけた第52回明治神宮野球大会東北地区代表決定戦に仙台六大学野球連盟代表として出場し、10月30日(土)福島県・いわき市グリーンスタジアムで東北公益文科大学(南東北野球連盟第2代表)とから対戦します。

<硬式野球部>



女子サッカー部／河北新報旗争奪 皇后杯東北大会、2年ぶり5度目の優勝

THFA河北新報旗争奪 第40回東北女子サッカー選手権大会 兼皇后杯JFA第43回全日本女子サッカー選手権大会が10月2日～10月10日に日程で開催され、本学女子サッカー部が2年振り5度目の優勝を果たしました。

出場した10チームのうち、全国大会に出場できるのは優勝した1チームのみ。本学は1回戦を(対 尚志高校)5対0、2回戦(対 専修大学北上高校)3対0、準決勝(対 八戸学院大学)3対2で下し順調に決勝へ進みました。

決勝戦は夏の全日本クラブユース選手権で全国第2位の成績を収め勢いにのるマイナビ仙台レディースユースと対戦。試合は前半2分に14番脇田紗弥(健康福祉4年)が相手GKに猛烈なプレスをかけてボールを奪い、スライディングシュートで先制しました。その後は、相手のパスワークに粘り強く対応し、何度かカウンターアタックでチャンスをつくる展開が続きました。

後半も、前線からの激しいプレスでボールを奪い、相手に試合全体を通じてシュートチャンスを与えず、そのまま1対0で勝利しました。

全国大会は11月27日に宮城県・セイホクパーク石巻 石巻フットボール場でASハリマアルビオン(なでしこ1部)と対戦します。

本学女子サッカー部のコンセプトである「攻守にアクションするサッカー」を体現し、東北代表としてプライドを持って戦います。目標はベスト8進出です。

引き続き、応援よろしくお願いします。

<女子サッカー部>



硬式野球部の川村友斗がプロ野球ドラフト会議で福岡ソフトバンクホークスから育成2位指名

10月11日に2021プロ野球ドラフト会議が行われ、本学硬式野球部の川村友斗（体育4年）が福岡ソフトバンクホークスより育成2位で指名されました。

川村友斗は右投げ左打ちで「走・攻・守」の3拍子が揃い、逆方向にも長打力を発揮できる外野手です。

指名後、本学内にて記者会見が行われ、「周りの方々や、良い環境に恵まれて大学4年間を過ごすことができました。将来は柳田悠岐選手のようなトリプルスリーを取れるような選手になりたい」と今後の意気込みやこれまで支えてもらった皆様への感謝の気持ちを語りました。

本学硬式野球部では7人目のプロ野球選手となります。

【選手プロフィール】

川村 友斗（かわむら ゆうと）

ポジション： 外野手

投 打： 右投左打

身長・体重： 181cm／87kg

出身地： 北海道松前町



育成2位の川村友斗、福岡ソフトバンクより指名あいさつ

2021プロ野球ドラフト会議で福岡ソフトバンクホークスから育成2位で指名を受けた硬式野球部の川村友斗（体育4年）が10月15日、本学LC棟で福山龍太郎アマスカウトチーフ、作山和英アマスカウトチーフ補佐より指名あいさつを受けました。

福山スカウトは「一番の長所は長打力。打撃力を評価していますが、走攻守と高いレベルで揃っている選手だと思いますので、育成指名ではありますが今季支配下登録（2年目）を勝ち取り、1軍で活躍する大関友久選手（2019年度卒）のように一日でも早く活躍して欲しい」と期待を込めました。

川村友斗（体育4年）は指名あいさつを受けて「頑張ってるぞという気持ちになりました。（育成指名を受け）支配下の選手にはまだ足りない部分があるということだと思うので、必死に野球をやって一日でも早く支配下を勝ち取りたい」と意気込みを語りました。



左から福山龍太郎スカウト、川村友斗（体育4年）、作山和英スカウト

男子サッカー部の武部洸佑が来季から J3 ヴァンラーレ八戸に加入することが内定しました

この度、男子サッカー部の武部洸佑（体育4年）が来季（2022シーズン）から J3 ヴァンラーレ八戸に加入することが内定しました。

【選手プロフィール】



武部洸佑（たけべ こうすけ）

■ポジション：MF

■生年月日：2000年2月9日（21歳）

■身長/体重：168cm/60kg

■出身：青森県八戸市（八戸学院光星高出）

■チーム歴：

ヴァンラーレ八戸U-9→ヴァンラーレ八戸U-12→ヴァンラーレ八戸U-15

→ヴァンラーレ八戸U-18→仙台大学

【武部洸佑選手のコメント】

来季からヴァンラーレ八戸に加入することになりました。

アカデミーの頃から育てていただいた大好きなこのクラブで「緑」のユニフォームを着てプレーできることを大変嬉しく思います。

仙台大学に入学し、吉井監督をはじめとする多くのスタッフの方々に教わり、たくさんのことを学ぶことが出来ました。

家族をはじめ、今まで支えてくださった全ての方々への感謝を忘れずに「全緑」で闘い、ひとつでも多くの勝利に貢献できるように頑張ります。

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol. 42

助手 白坂 広子

女子バスケットボール部 ウィンターカップ宮城県予選優勝！

10月18日、高校バスケットボールのウィンターカップ宮城県予選が行われ、明成高校女子バスケットボール部が優勝しました（ちなみに男子も優勝しました）！！延長戦をしっかりと勝ち切った勝利でした。試合は最初から最後まで目が離せない展開で、点差が開かない、追いつき追いつかれの接戦でした。頑張った生徒のみんな、そして生徒たちをここまで導かれた安達美紀先生と鹿野亜紀先生、私たちATとS&Cも心から祝福しています。

私たちATとS&Cにとって、女子バスケットボール部は施設運営や生徒指導のうえで「基準」になるようなチームです。先生たちのバスケットボールに対する情熱や生徒への愛情、そして一貫したチーム指導は、私たち自身の生徒たちとの関わり方について見本となっています。特にATは多くの怪我人と接していますので、つい厳しいことを避け、守りにはいつてしまう状況ができてしまうことがあります。どの競技においても生徒たちが怪我や体調不良で弱っているときに関わるなかで、どのように体力的な強さや精神的な強さを維持させてあげられるかは常に課題となっています。しかし、女子バスケットボール部は怪我で試合に出られないメンバーであってもチームの一員として、勝ちに貢献することができる存在として同じような厳しきや強さを要求します。

このようなチームの指導方針がより一層チームを強くするのだろうと、今回のこの「優勝」で改めて教えてもらった気がしています。素晴らしいチームの指導者から私たちも教わっていることを自覚し、改めて生徒への指導をしっかりと行っていきたいと考えています。



芝草通信 NO. 30

担当 : 助教 野口 翔

10月の芝生管理 ラグビー場 播種作業を経て現在の状況

9月に冬へ向けて暖地型芝草から寒地型芝草への移行のため播種を行いました（ウィンターオーバーシーディング）。今回は、播種後のグラウンドの状態を紹介します。グラウンドは写真1で示すように赤線を境に品種を変え播種しています。播種後は冬に向けてしっかり根付かせるため4週間の養生期間を設けました。



写真1 10月5日(播種後1週間)のグラウンド状態

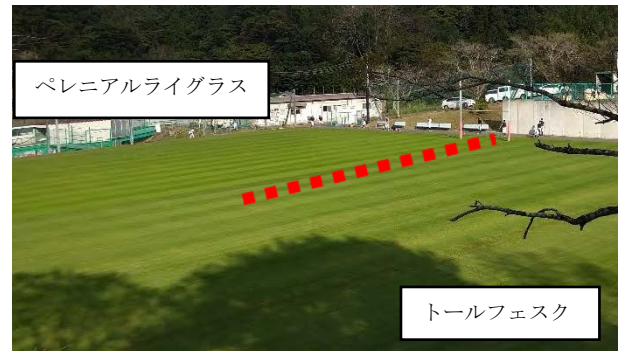


写真2 10月15日(播種後2週間)のグラウンド状態

写真1より、播種後1週間で色の違いが見られますが、これは発芽が早いペレニアルライグラスと発芽が遅いトールフェスクの発芽のタイミングの違いにより、このような色分けが起きています。

写真2より、播種後2週間経つと発芽が遅れていたトールフェスクも全体的に発芽・生長し、遠目ではペレニアルライグラスと変わらない見た目となります。

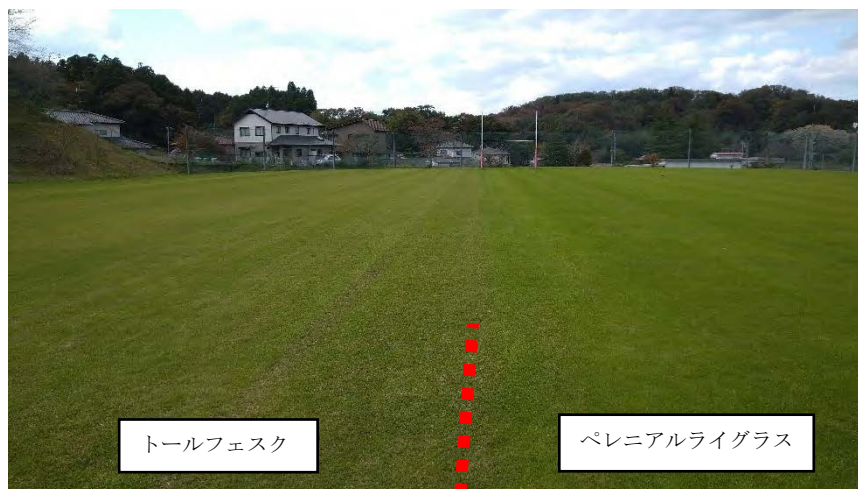


写真3 10月28日(播種後4週間)のグラウンドの状態

写真3より、播種後4週間では2種の寒地型芝草がグラウンドを覆いましたが、気温が低いいため生長も緩やかに止まりつつあります。この後は、春までにこの寒地型芝草をどのように維持管理するかが課題となります。

Monthly Report

 SENDAI UNIV.

PUBLIC RELATIONS

Vol.187 / 2021 .NOV

(月1回発行)

アイリスオーヤマ株式会社と朴沢学園が包括連携契約を結ぶ



石田敬取締役（左）と朴澤泰治理事長

本学を設置する学校法人朴沢学園は11月2日、法人本部を兼ねる仙台大学附属明成高校キャンパス（仙台市）でアイリスオーヤマ株式会社と「教育施設設備・スポーツ環境を含む学校教育環境の協働整備に関する包括的連携契約」を結びました。

この契約は長期的にお互いの連携を強化し、本学の教育環境の整備やスポーツ科学の知見を活用した新製品・新技術の開発および共同研究を進め、さらに地方創生に資する地域コミュニケーションの活性化やグローバル社会にも貢献し得る人材の育成・輩出等をめざすものです。

締結式では、アイリスオーヤマ株式会社の石田敬取締役が「商品開発はつくり手の発想だけではなかなか生まれません。共に研究をする中で、学校教育の分野でも課題解決を実現していきたい」と挨拶され、朴澤泰治理事長は「ユーザーインという考えは、学校教育にも必要。これからの教育に必要なDXやICTなどについても連携を図っていきたい」と期待を膨らませました。

本学はこれまでアイリスオーヤマ社製の「体幹ストレッチ コアトレーナー」についてダイエット効果や健康効果をスポーツ科学の視点から実証したり、「置き換え食品」についての検証実験に協力するなどの連携を図ってきています。今後は附属高校を含めた連携が期待されます。

目次

・アイリスオーヤマ（株）と朴沢学園が包括連携契約を結ぶ	1
・スポーツを通じた教育 ・模擬授業ワークショップ「せんだい実習」を初開催/宮城教育大と共同開催 ・大学院が修士論文研究計画発表会を開催	2
・4者による「スポーツ分野におけるICT活用強化並びに新たなデータ解析ビジネスモデル創出に向けた連携に関する協定」締結 ・令和3年度 仙台大学 履修証明プログラム「乳幼児運動あそび指導者育成プログラム」を開講しました	3
・南一輝選手が世界体操・銀メダル獲得を学内で報告/銀メダルの悔しさ糧に更なる成長誓う ・鈴木颯選手が全日本学生テコンドー選手権優勝を高橋学長に報告	4
・男子サッカー部、15年連続東北チャンピオン&インカレ出場決定！ ・女子バスケット部が東北大学リーグ優勝 5年連続18回目のインカレ出場へ ・男女とも実力を発揮/東北・北海道体操選手権、本学で開催	5
・男子バレーボール部/全勝優勝で全国への切符を獲得 ・硬式野球部/東北代表決定戦を制し、初の明治神宮野球大会へ ・硬式野球部/初の明治神宮野球大会、惜しくも初戦敗退	6
・食品加工を通し、食品の成分や加工の特性を学ぶ「食品学実習」/運動栄養学科 ・1年生が「包丁の手入れと野菜の切裁」を実践/運動栄養学科	7
・心理専門官から児童生徒の心理を学ぶ ・「高校スポーツの安全を守る」Vol.43	8
・芝草通信 NO. 31	9
	10

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

初寄稿シリーズ

スポーツを通じた教育

准教授 川田 尚弘 (2021年4月 着任)

本年度より仙台大学に着任致しました川田尚弘です。私の教育活動の核としている考え方の一つについて触れさせて頂きたいと思います。

私自身が大事にしている教育活動理念の一つに『Guided Discovery (導かれた発見)』があります。この考え方は学生への「問いかけ」を核に、発問することで、学生たちの学びや学習活動を活性化させ、自ら学び、自ら動こうとする人材の育成を目的としています。このキーワードは近年、国内外のコーチング領域の軸をなす概念であり、自律型学習者を育てるための「教えずぎない・詰め込みすぎない教育」の一つの形態です。自分自身で考え判断し、その判断材料から自身で決断して責任をもち行動に移していく力が強く求められています。現下のコロナ禍の状況はまさにその典型例といえますが、こんな時代だからこそ、学生自らが課題解決方法を発見・獲得していこうとするスタンスを「スポーツ」を通じて習得させることが以前にも増して重要となってくるものと考えています。



様々なことに積極的にチャレンジし、失敗しながらもそこから学んで成長していく力の涵養の取り組みを心がけていきたいと思っています。さらに、予測できない未来に対応するために社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的にしっかりと向き合い、関わり合い、その過程を通して、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことのできる人間力の高い人材の育成に微力ながら貢献していきたいと考えています。

模擬授業ワークショップ「せんだい実習」を初開催/宮城教育大と共同開催

10月30日、31日の2日間、模擬授業ワークショップ「せんだい実習」が開催されました。この実習は、宮城教育大学とともに両大学の保健体育科教諭を目指す学生を対象に、授業研究を通して授業づくりに求められる実践的な力を育むことを目指して実施したものです。今年は宮城教育大学の体育館を会場に、本学からは教職を目指す学生で構成する「チーム教職」の学生24名と教員3名が参加しました。

実習では、両大学が体育の模擬授業を提案、実践しました。模擬授業後には検討会を実施し、授業の成果と課題について互いの学生・教職員と共に分析検討を行いました。他大学の学生を含めた多様な視点から授業を検討することは、よい体育授業を作るために不可欠なことです。

コロナ禍において学生相互の関わり合いが分断されていましたが、今回の実習を通して大学を越えた関わり合いを確保することができ、たいへん有意義な活動となりました。

この取り組みは、宮城県ならびに東北地区の保険体育科教育を担える教員の育成に向けて継続して取り組んでいくこととしています。



修士論文研究計画発表会を開催

大学院スポーツ科学研究科は10月29日、令和3年度 修士論文研究計画発表会を開催しました。

この研究発表会では大学院1年生8名が研究の背景や目的、これまでの調査研究の進捗状況、今後の研究計画などを報告学生や教職員に公開形式で行われ、発表会後のパネルディスカッションでは、指導教員や学部生、先輩である大学院2年生などと活発な意見交換がなされました。

今回の発表会やパネルディスカッションで得られた指導・助言をもとに、各々の研究が更に深化されることを期待します。

<大学院事務課>



4者による「スポーツ分野におけるICT活用強化並びに新たなデータ解析ビジネスモデル創出に向けた連携に関する協定」締結

本学は東日本電信電話株式会社（NTT東日本）、株式会社ネクストベース、東北福祉大学の4者による「スポーツ分野におけるICT活用強化並びに新たなデータ解析ビジネスモデル創出に向けた連携に関する協定」を結びました。

昨今、プロスポーツ選手を中心に競技力向上のため、最先端技術を用いた選手のデータの測定・解析が急速に拡大しています。しかし、測定・解析のためには、専門施設に選手が直接訪問する、もしくは現場にデータ測定者を派遣してもらう必要があることから、アマチュアチームや学校部活動などでの活用は進んでいないのが現状です。

そこで、今回の協定では、東北の大学野球チームをフィールドに、オンラインを活用したデータ測定・解析サービスに必要な条件や手段の検討評価を行うことを目的としています。また、AIやIoT技術と最先端のスポーツ科学を融合させることにより、選手の競技力向上・ケガ防止等に寄与する新たなデータ解析モデルの創出を目指すものです。

11月4日は本学室内練習場で記者発表会及び本学硬式野球部のデータ測定会を行い、測定機器を使用し、投球した際のボールの回転軸の傾きや変化量、スイングした際の角度や速度などを測定しました。

データはオンライン上にて可視化、数値化され、データ解析はネクストベースの専門スタッフがNTT東日本のサーバーを経由して東京で行い数時間後には選手やコーチに分析結果が報告されます。

今回データ測定をおこなった硬式野球部の川和田悠太投手（体育2年）は「いままで自分では気づけなかった部分を客観的なデータによって知ることができ、とてもうれしいです」と話し、硬式野球部投手コーチの坪井俊樹講師は「これまで主観で終わっていたところが客観的なデータを得ることによって、新しい指導の可能性が広がることはかなり大きい」と本協定での実証実験の効果に期待しました。

本協定での実証実験は来年の3月までに数回測定が実施される予定です。



令和3年度 仙台大学 履修証明プログラム「乳幼児運動あそび指導者育成プログラム」を開講しました

令和3年度仙台大学履修証明プログラム「乳幼児運動あそび指導者育成プログラム」が10月30日から開講されました。

開講式では高橋仁学長が「子ども運動教育学科の様々な教育的資源をもとに、保育所、子ども園などで幼児教育の指導をしている方々への支援に繋がればと思います」と挨拶。続いて、プログラムコーディネーターの子ども運動教育学科長 原田健次教授より「この半年間のプログラムが皆さんの子どもに対する感覚を深める場になってほしい」と挨拶しました。引き続き、時折笑い声がもれる和やかな雰囲気の中、受講生一人ひとりから自己紹介が行われました。

このプログラムは、保育者・幼児体育指導者等が、乳幼児の運動あそび指導に必要な知識・技術及び技能を高める機会を広げるとともに、保育実践力の向上を目指すものです。今年度は履修生11名が参加し、来年3月20日までの約半年間をかけて実施され、修了者には、学校教育法に基づく「履修証明書」が発行されます。



南一輝選手が世界体操・銀メダル獲得を学内で報告／銀メダルの悔しさ糧に更なる成長誓う



後輩から花束を受け取る南選手



滝口茂町長（右）へ銀メダルを見せる南選手



佐野好昭副知事（右）より記念の盾を受け取る南選手

10月に行われた体操・世界選手権の種目別床運動で銀メダルに輝いた体操競技部の南一輝選手（体育4年）の報告会が11月5日にLC棟でおこなわれました。

報告会では朴澤泰治理事長が「スポーツ科学を専攻領域とする本学で学び、競技につなげたことは強みであり、さらに道を究め、高みを目指してほしい」と、激励の言葉を贈り、高橋仁学長より「本学で学んだ4年間の中で思うような演技ができないこともあったと思いますが、それを乗り越え世界の舞台で銀メダルを獲得したことはとても誇らしい」と、労いの言葉をかけるとともに、保護者会会長代理として保護者会報奨金を贈呈しました。

大会を振り返り、体操競技部監督の鈴木良太准教授は「1位の選手と0.034点という差は経験値の差があったと思います。今回の世界選手権で銀メダルを獲得したことを糧にさらに頑張してほしい」と話し、南一輝選手は「目標としていた金メダルまでは着地一步の差でした。この悔しさは次の世界選手権や、パリ五輪に向けて頑張りたい」と、活躍を誓いました。

また同日に、柴田町役場にて滝口茂町長へ報告、11月9日には宮城県庁にて佐野好昭副知事に報告し賛辞をいただきました。

鈴木颯選手が全日本学生テコンドー選手権優勝を高橋学長に報告

10月に神奈川県横浜市で行われた第15回全日本学生テコンドー選手権大会ブムセ有段男子の部で初優勝を果たした鈴木颯選手（体育2年）が11月5日に高橋仁学長に優勝報告しました。

鈴木選手は今大会を振り返り「ケガで、思うような練習ができない時期もありましたが、ブムセの大会で初めて優勝することができ、とてもうれしいです。次は来年1月に開催される全日本テコンドーブムセ選手権で望む結果となるように頑張りたいです」と意気込みを話してくれました。

高橋仁学長は「コロナウイルスの影響で去年は大会がほとんど開催されず、また練習も満足にできない中、これまでの努力が優勝につながったことは大変素晴らしいと思います。是非、世界で活躍する選手になってください」とエールを送りました。



ブムセとは、テコンドーにおける各種防御と攻撃技術の組み合わせにより構成された「型」の競技です。一定の演武線（進行線）にしたがって、四方八方に動きながら型を行います。各級ごとに演じる型が決まっており、単純な動きから級が上がるごとに複雑な動きへと、段階を追って技術を身に付けていけるように構成されています。

男子サッカー部、15年連続東北チャンピオン&インカレ出場決定！

男子サッカー部は第46回東北地区大学サッカーリーグ1部で15年連続となる優勝と12月に開催予定の第70回全日本大学サッカー選手権大会（インカレ）への出場権を獲得しました。

リーグ戦の9月以降はチームの柱であるキャプテンの藤田一途（体育4年・来期ロアッソ熊本加入内定）と鯉田太陽（体育4年・来期カマタマーレ讃岐加入内定）の両選手が「2021年JFA・Jリーグ特別指定選手」に指定されたことから、その両選手を欠く中での戦いでしたが、チーム一丸となって戦い抜きました。

ゲームキャプテンを任された玉城大志（体育2年）は「今年はワクチン接種などの影響もあり、毎試合メンバーが入れ替わるなど、簡単な試合は一つもありませんでした。チーム全員で優勝を掴み取る事ができて最高に嬉しいです。サッカーが出来ている事に感謝し、インカレでもリーグ戦同様、仙台大学らしく暴れてきたいと思います」と話し、平山相太ヘッドコーチ（体育4年）は「選手たちの頑張りが素晴らしい結果を出してくれました。インカレでも結果を求めながら攻守においてアグレッシブに戦いたいと思います」と更なる活躍を誓いました。

<男子サッカー部>



女子バスケット部が東北大学リーグ優勝 5年連続18回目のインカレ出場へ

女子バスケットボール部は第22回東北大学バスケットボールリーグで、5戦全勝で優勝を飾り、5年連続18回目となるインカレ（第73回 全日本大学バスケットボール選手権大会）への出場権を獲得しました。

11月11日には高橋学長に優勝を報告し、創部以来の目標であるインカレでのベスト8を達成すべく、短期間での更なるチーム力向上を誓いました。

<試合結果>

仙台大学 ○ 83-57 東北学院大学
○ 96-71 富士大学
○ 90-70 福島大学
○ 93-52 弘前大学
○ 20- 0 山形大学（放棄）

<個人賞>

最優秀選手賞：石田実希（体育4年）
優秀選手賞： 高橋智歌（子ども運動教育3年）
高橋優南（運動栄養2年）

<女子バスケットボール部>



男女とも実力を発揮／東北・北海道体操選手権、本学で開催

体操の第52回東北・北海道学生選手権大会は11月6日、本学の体操競技場で行われ、仙台大学勢が男女とも種目別において上位に名を連ねました。

男子は床運動とあん馬で佐々木 郁哉（体育1年）、つり輪で乾哲平（体育3年）、平行棒で岡田卓海（体育3年）、鉄棒で青木龍斗（体育1年）がそれぞれ優勝。女子は中澤瑠莉花（体育2年）が跳馬と段違い平行棒を制しました。

今回の大会では、本学は12月に全日本団体選手権を控えていることから団体総合の出場は見合わせ、個人による種目別への参加のみとしました。

大会はコロナウイルスの感染拡大防止ガイドラインに沿って運営。2週間にわたる体温表の提出と当日の検温チェック、大声での応援禁止、器具消毒の徹底など感染対策に万全を期しました。

<体操競技部>



仙台大学を会場に開かれた東北・北海道学生選手権大会

男子バレーボール部／全勝優勝で全国への切符を獲得

男子バレーボール部は、第58回東北バレーボール大学男女リーグ戦において、9戦全勝で優勝を果たし、11月29日～12月5日に東京都で開催される全日本インカレに東北の代表として出場することとなりました。

また今回のリーグ戦は無観客試合で開催され、学生運営の下、Youtubeを活用しライブ配信を行いました。この配信を通して、ご家族や多くのバレーボールファンにご覧いただきました。不都合が生じたことなどについては、今後の課題として整理し、次回に繋げてまいります。

引き続き仙台大学男子バレーボール部の応援のほどよろしくお願いいたします。

結果は以下の通り

仙台大学	2 (22-25, 25-17, 25-17)	1 福島大学
	2 (25-14, 25-16)	0 富士大学
	2 (25-19, 25-15)	0 東北学院大学
	2 (25-22, 25-19)	0 東北大学
	2 (25-15, 25-6)	0 青森大学
	2 (28-26, 25-17)	0 八戸工業大学
	2 (25-18, 25-20)	0 東北福祉大学
	2 (25-18, 28-26)	0 東北公益文科大学



※山形大学は新型コロナウイルスの影響により棄権

※今回の男子リーグ戦は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点と、試合数・日程の関係から3セット制（通常5セット制）で開催しています。

<男子バレーボール部>

硬式野球部／東北代表決定戦を制し、初の明治神宮野球大会へ

10月30、31日、福島県・いわきグリーンスタジアムで行われた明治神宮大会東北地区代表決定戦で本学硬式野球部が優勝し、初の明治神宮野球大会出場権を掴みました。

この大会は、東北3連盟の秋季リーグ優勝校（主幹連盟の南東北野球連盟は2位まで）がトーナメント方式で争い、優勝校が第52回明治神宮野球大会の出場権を争います。

初戦は東北公益文科大学（南東北野球連盟2位）に6 - 1で勝利し、迎えた富士大学（北東北野球連盟）との決勝戦では初回到3点を奪われましたが、二回に小笠原（体育3年）の適時打と三回に辻本（体育2年）の内野ゴロの間に1点差まで食らいつくと、迎えた八回2死2・3塁の場面で代打、永長（体育4年）の適時打を放ち、4 - 3で逆転勝利を収めました。



優勝が決まり、歓喜を上げる選手達

硬式野球部/初の明治神宮野球大会、惜しくも初戦敗退

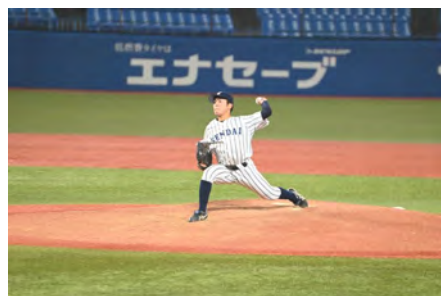
初出場となった第52回明治神宮野球大会は11月21日、東京都・明治神宮野球場で行われ、本学硬式野球部は國學院大學（東都大学野球連盟代表）と対戦し、3 - 5で惜しくも初戦敗退しました。

試合は、二回に高橋（体育4年）の外野ゴロの間に1点を先制し、更に四回先頭の川村（体育4年）がライトスタンドに飛び込む本塁打を放ち、リードを広げました。先発した長久保（体育3年）は6回2死まで毎回ランナーを背負うも粘りの投球とバックの堅い守りで無失点に抑えるなど随所に光るプレーが見られました。

6回2死二塁で救援登板した川和田（体育2年）は見事な投球を見せ三振で切り抜けましたが、八回に1点を返され、なお1死満塁で登板した3番手の佐藤亜（体育3年）が3点三塁打を浴び、逆転を許しました。

それでも九回に1点を返し、なお2死三塁のチャンスを作りましたが、あと一步及ばず敗れました。

球場には本学の硬式野球部OBや同窓生、選手の保護者や本学を応援してくださる川交会や関係者の皆様、約500名が応援に駆け付け、最後まであきらめず戦った選手達に大きな拍手が送られました。



6回2死まで無失点の投球を見せた先発の長久保（体育3年）

食品加工を通し、食品の成分や加工の特性を学ぶ「食品学実習」/運動栄養学科

運動栄養学科3年次に食品学実習の授業が行われています。この授業では、うどんやそばの製造、チーズの製造なども行いますが、今回取り上げるのは「こんにゃく・甘酒・水あめの製造」についてです。

この授業では、調理を行いながら、食材の形状の変化や試薬を加えた時の反応をみて、各食材の栄養素などについても学びます。また、食品を加工するだけでなく、その過程を科学的に説明・考察できるようになることを目的としています。

今回は米麴や乾燥麦芽の酵素の働きを用いた食品加工（甘酒・水あめ）を実習で学びました。こんにゃくの製造では、こんにゃく芋をすりおろし、加熱後、凝固剤を加え製造しました。甘酒は長時間温度管理を行い、液体の状態変化などを確認しながら製造しました。また、自然食材であるサツマイモとジャガイモを原料にして水あめを製造しました。

今回の授業では、温度管理がポイントとなる授業であったため、学生の皆さんは火力や食品の形状の変化に注意しながら調理を行っていました。



こんにゃく芋をすりおろしている様子



甘酒の温度管理を行っている様子



ヨウ素ヨウ化カリウム溶液を添加している様子



こんにゃく／甘酒／水あめ

<運動栄養学科>

1年生が「包丁の手入れと野菜の切裁」を実践/運動栄養学科

運動栄養学科1年生対象の「調理学実習Ⅰ」の授業が後期からスタートしました。

この授業は、和食を中心とした献立を通して、調理操作の基礎を学ぶものです。初回は外部講師を招き「包丁の手入れと野菜の切裁」を学びました。

包丁の講義では、包丁の研ぎ方だけでなく砥石の種類や、包丁の種類についても学びました。また、野菜の切裁についての講義では、キュウリ、ニンジンや大根などを使って計17種類の切り方を学びました。

学生の皆さんは初めての作業ということで、ぎこちない部分もありましたが、一つ一つの作業を丁寧に行っていました。授業全体を通して、外部講師のデモンストレーションを真剣に見て実践している姿がたいへん印象的でした。



野菜の切裁



包丁の手入れ



講義の様子

<運動栄養学科>

心理専門官から児童生徒の心理を学ぶ

11月26日、教職課程の講義「教育相談」で、特別講義として宮城県警察本部犯罪被害者支援室 心理専門官の浅野晴哉氏に講演いただきました。講演は一部を対面とし、350人以上の履修者がオンラインで受講しました。

教員を目指す学生に向け、警察が被害者支援のために何をしているのかについて、また被害者をめぐるさまざまな状況について、実際の事例やご自身のご経験を交え、心理学的見地から講義いただきました。講義内では、自分が学校の教員になった時に、被害者となった生徒にどのように接していくのかに関する実践的な演習も行いました。

受講した学生からは「警察がこのような支援をしていることを初めて知った」「相談を行う上で信頼関係の重要性を理解した」「地域でのさまざまな連携が必要ことがわかった」などという感想が寄せられました。

教育相談では、さまざまな状況にある児童生徒の理解のため、今後は施設見学も企画しています。



宮城県警察本部犯罪被害者支援室
心理専門官 浅野晴哉氏

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol. 43

助手 浅野 勝成

ほとんどの部活動が新チームに移行し、オフシーズンのトレーニングを開始する時期となりました。今回は男子バレー部と陸上部投擲の取り組みを簡単に紹介します。

【男子バレー部】

ウエイトトレーニング初日は、各種目の解説を改めて行ってフォームの確認と修正に取り組みました。春高予選まで高重量のトレーニングが続いていたため、フォームのエラー（許容範囲内のエラー）が出ることがありました。そのため、新チームになったタイミングで各種目の解説を再度行い、フォーム習得・修正に取り組みました。その際に行った種目は、FSQ（3 sec ISO hold）3x8、RDL 3x8、Push Up 3x10、Plate B0 Row 3x10。時間の関係で種目数は少なめですが、各種目で十分な時間を割けたかなと思います。

【陸上部投擲】

冬は積雪で競技練習が充分に行えない状態が続きます。越冬して練習再開となった際にコンディション不良で怪我をすると、高校総体に大きな支障をきたします。従って、冬の時期はトレーニングを更に丁寧に行って、再開後の“無駄な怪我”は予防したいものです。怪我の中でも、ハムストリングの肉離れは特にやっかいです。ハムの肉離れを予防するには、殿筋群とハムの強化は必須です。そのため、Reverse Lunge、Squat、Assisted種目で言えばReverse Hyperなどで殿筋群を鍛えつつ、RDL、Assisted Nordic Ham、Ham Curlなどでハムストリングの強化も取り組んでいきます。



早いもので2021年ももう12月になりました。12月は師走とも呼ばれている通り、いろいろな行事があります。中間テスト、年末の遠征、全国大会など、今年はどんな12月になるか楽しみです。

芝草通信 NO. 31

担当：体育施設管理コンサルタント 小島 文雄

施設管理課 労務職員 八巻 良宏

噴水回り高麗芝生（暖地型芝生）に混入した白クローバー（white clover）駆除の状況

白クローバー（和名：シロツメクサ）を駆除するために茎葉処理除草剤を散布しました。1週間くらい経って効果が出てクローバーがしなやかに曲がってきたり、枯れて来たりしました。除草剤が根茎まで浸透していけば完全に駆除できます。

1ヶ月もたてば、枯死した状況を見られますので現地で観察してください。手作業で抜き取るときは根茎をすべて除去しないとまた生き返りますので地中に長く張り巡られた根茎を完全に除去します。

自宅の庭でも簡単にできる方法を紹介します。100円ショップで小型噴霧器と1,000cc入りのボトルを購入します。薬剤は100倍から400倍に希釈するので計算しやすい容器を準備します。園芸店で購入したMCP液剤（他に「シバゲン水和剤やアージラン液剤」などもある）を状況に合わせた希釈量をビーカーなどで計量しながら1,000ccの水を入れた容器に入れてよく振って混合させます。混和した除草剤をペットボトルに入れて小型噴霧器を装着して直接クローバーに霧状に散布します。散布量は満遍なく葉っぱに掛るようにします。2週間から1か月経過すると効果が出てきます。噴霧器を手配できないときは＜写真-5＞のとおり希釈した薬剤を布などに染み込ませて直接茎葉に擦り付けます。ゴム手袋を使用して薬剤が直接手に触らないように注意します。



写真 1. 遠景、3体前

暖地型コウライシバが冬眠始めて茶褐色になっている。寒地型雑



写真 2. 道具一式

除草剤MCP液剤を必要な希釈量を計量し、ビーカーに入れる



写真 3. 準備中

混合したボトルからペットボトルに小分けして小型噴霧器を装着する。



写真 4. 作業中

除草剤MCPP液剤を噴霧器で散布する



写真 5. 作業中

除草剤MCPP液剤を吸い込ませた布を直接茎葉に塗り付ける



写真 7. 噴霧後1週間経過

表面がしなやかに曲がっている。
枯死した部分もある。



写真 8. 塗布後1週間経過

表面がしなやかに曲がっている。
枯死した部分もある。

(11月25日 記)

Monthly Report

本学がゲームスポンサーとして仙台89ERSのホームゲームを鼓舞



試合後、参加した本学園関係者で記念写真

プロバスケットボールリーグ(B2)仙台89ERSの第10節熊本ヴォルターズ戦が 12月4日(土)に仙台市太白区のゼビオアリーナ仙台で行われ、本学は「ゲームスポンサー」として協賛しました。

ハーフタイムでは仙台大学「DAN DAN DANCE & SPORTS 18th※」の実行委員会による中国武術やブレイクダンスなどのパフォーマンスを披露し、会場を盛り上げました。

また、会場内に本学園のブースを設置。NBAで活躍している八村塁選手(仙台大学附属明成高校出身)の等身大パネルやNBA体験ゲームコーナーなどを企画し、ブースターに本学園をより知ってもらう機会となりました。

試合は仙台89ERSが勝利。MVP賞のプレゼンターを、本学が招へいしている白石市・柴田町東京2020オリ・パラホストタウン親善大使のセベツ・アリーナさんが務めました。

仙台89ERSと本学は2018年よりアカデミックパートナーシップ協定を結んでいます。

※「DAN DAN DANCE & SPORTS 18th」は本学がスポーツを通じた地域貢献の一環として毎年開催しているイベントです。18回目を迎える今年度は、1月29日(土)に実施し、本学YouTube公式チャンネルで生配信をおこないます。是非ご覧ください。



＜ 目 次 ＞

・本学がゲームスポンサーとして仙台89ERSのホームゲームを鼓舞	1
・ノルディックウォーキングで健康増進！ ・丸森町ウォークラリー大会に今年も参加	2
・バレーボール全日本インカレに同行して 栄養面サポート ～スポーツ栄養研究会「男子バレーボール部サポートグループ」～ ・栄養士校外実習の報告会が行われました	3
・男子バレーボール部/天皇杯ファイナルラウンド、Vリーグ所属チーム相手に奮闘 ・軟式野球部/軟式野球日本代表に本学の持館理登、2年連続選出！ ・バドミントン部/東北新人学生バドミントン選手権結果	4
・男子サッカー部/伊従啓太郎と中村魁哉がJリーグチームへに内定 ・「2021年クリスマス会」を開催	5
・芝草通信 NO. 32	6
	7
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 44	7

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

ノルディックウォーキングで健康増進！

健康福祉学科では、健康運動の現場で活躍中の講師（主に、同学科卒業生）から運動指導の実際について学んでいます。12月2日（木）は「ノルディックウォーキング（NW）」を、星勝久講師（同学科1期生、国際NWナショナルトレーナー）からポールの使い方、ポールを使った準備運動、基本動作のご指導いただき、学外にも出掛け、実践を行いました。

学生からは、「ポールを持つことで、腕が大きく振られ大股になり、前進運動となることがわかった」、「普段歩くよりも運動になるが、足は楽な感じもあり、楽しかった」、「誰でも簡単にできるスポーツだと思った」、「久しぶりに“歩いた”という実感があり、気持ち良かった」、「新鮮な感覚で遠くまで歩いて、歩くトレーニングだと思った」などの感想がありました。

講師からも「NWは全身の約9割の筋肉を動員でき、通常歩行よりもエネルギー消費が多く、より運動効果が得やすいウォーキング法です。必ず地面にポールが着いているため、歩行が不安定な高齢者などへの運動法としても取り組まれています。コミュニティの活性化や、スポーツツーリズムの視点からも注目されています」と解説いただきました。

寒くなり運動不足になりがちでしたが、運動・スポーツの良さを改めて確認する演習となりました。

<健康福祉学科>



丸森町ウォークラリー大会に今年も参加

健康福祉学科では、「健康づくり運動演習」の一環として、11月14日（日）に開催された第26回丸森町ウォークラリー大会に参加しました。この取り組みは、本学が同大会の運営協力をしているつながりにより、おおよそ10年くらい続いています。今回は、健康福祉学科1年生33名、運営スタッフとして3-4年生7名、引率教職員5名が参加しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、久しぶりの大人数で学外現場実習となりました。

この大会では、チェックポイントごとのしかけを通して、丸森の魅力を感じて楽しめます。具体的には、コース図に従い、途中設定されたチェックポイントと観察ゾーンなどで出題される問題を解決しながら、ゴール後の時間得点と課題得点の合計で順位を競います。

コロナ感染症によって人とのつながりが減少するなかで、貴重な人間交流の機会となりました。笑顔または笑顔をつくる表情筋を動かすことで、うつ病の予防になるとの研究事例もあるため、学生たちは、笑顔で一日過ごすことを課題としました。

参加後の感想では、多くの学生が「気晴らしになった」「友達と話ができて楽しかった」など気分転換になったと答えました。また、「地域の方から優しく声をかけられ嬉しかった」「こうしたイベントの意義を改めて感じた」など、イベントの効果を実感する学びもできたようです。

貴重な機会を提供いただきました丸森町の皆様には、この場を借りて心より感謝いたします。ありがとうございました。

<健康福祉学科>



バレーボール全日本インカレに同行して栄養面サポート ～スポーツ栄養研究会「男子バレーボール部サポートグループ」～

スポーツ栄養研究会「男子バレーボール部サポートグループ」は、東京都で11月29日（月）から開催されたバレーボールの全日本インカレ（第74回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学選手権大会）に5名が同行して栄養サポートを実践しました。

本学の初戦となった30日の日本大学（関東リーグ1部8位）との対戦前には、エネルギー補給を目的とした鮭おにぎり（393kcal）とゼリードリンク（118kcal）を提供。

鮭おにぎりには、調理時間の短縮を目的にアルファ化米を使用し、ゼリードリンクは選手が飽きずに補食できるように、リンゴとブドウの2種類の味を提供する工夫をしました。

試合後には筋肉の早期修復を目的として、白玉団子（156kcal、たんぱく質5.7g）とチョコレートミルク（225kcal、たんぱく質12.8g）を提供。チョコレートミルクは、会場で冷やす場所が限られていたために、初めに大きなボトルで急速に冷やした後、選手分のペットボトル容器に移す工夫をしました。

男子バレーボール部は、善戦するも、初戦で惜敗しましたが、男子バレーボール部サポートグループでは今後も選手のことを第一に考え、選手がコート上でベストパフォーマンスが発揮できるように、栄養面でサポートしていきます。



試合後の補食提供の様子



アルファ化米を使用した鮭おにぎり



試合後に提供したチョコレートミルク

栄養士校外実習の報告会が行われました

運動栄養学科では、定められた授業科目を修得することで、栄養士免許を取得することができます。その集大成が、4年次に小・中学校や病院、保育所等の施設で行う栄養士校外実習です。この実習は給食施設で5日間の実践を積むもので、給食の運営に必要な献立作成、調理作業、配膳等を現場で学ぶものです。

12月9日の「給食運営実習Ⅱ（校外実習）」の授業内において栄養士校外実習の報告会が行われ、各々が実習を通して学んだことや気づき、反省点、今後どのように生かすかなどが報告されました。

今回の報告会はコロナ禍ということでオンラインでの開催となりましたが、学生は実習前に作成した教材やイラストなど趣向を凝らしたスライドを作成し、報告を行っていました。

学生たちの報告から、実習を通して自信を深めた様子が感じ取ることができました。



男子バレーボール部／天皇杯ファイナルラウンド、Vリーグ所属チーム相手に奮闘

本学男子バレーボール部は12月10日（金）から群馬県高崎アリーナで行われた、令和3年度天皇杯・皇后杯全日本選手権大会ファイナルラウンドに東北ブロック代表で出場し、Vリーグに所属するチーム相手に果敢に挑みました。

1回戦はV2リーグ所属の大同特殊鋼レッドスターに2-1のフルセットの末、勝利。続く2回戦はV1リーグに所属し、日本代表や海外の代表選手がスタメンに並ぶ パナソニックパンサーズと対戦し0-3で敗れました。



結果は以下の通り

1回戦 仙台大学 2 (25-22、18-25、25-18) 1 大同特殊鋼レッドスター (V2)

2回戦 仙台大学 0 (15-25、13-25、22-25) 3 パナソニックパンサーズ (V1)

今大会で4年生は引退となりますが、この舞台に戻ってこれるよう来シーズンもチーム一丸となって努力してまいります。

また今年度もコロナ禍で選手のプレーを実際に見る機会がありませんでしたが、配信やSNSを通じて本学男子バレーボール部を応援していただきありがとうございました。

<男子バレーボール部>

軟式野球部／軟式野球日本代表に本学の持館理登、2年連続選出！

大学軟式野球の日本代表選手に本学から持館理登(もったて・りと、体育4年)が選出されました。昨年に続き、2年連続の選出です。

全日本大学軟式野球連盟が選んだ日本代表選手は学生コーチとマネージャーを含めて総勢25名。東北地区からは持館のほかには東北学院大学から1名、東北福祉大学から2名が選出されました。

持館は福島県相馬高校出身の外野手。174cm、72kgの右投げ左打ち。巧みなバットコントロールを活かした攻撃が持ち味です。東北地区大学軟式野球選抜チームにも3年連続で選出された実績があり、今回も「自分の良さを最大限に発揮し、チームに貢献できるように努力したい」と意気込んでいます。

日本代表チームは、当初台湾での国際親善大会に出場する予定でしたが、コロナの影響で会場を宮崎県都城市に移して12月15日から19日まで開催する交流事業に参加しました。



前回の全日本代表時の持館理登

バドミントン部／東北新人学生バドミントン選手権結果

バドミントン部は12月6日（月）から仙台市青葉体育館で行われた東北新人学生バドミントン選手権に出場し、女子ダブルスにおいて三浦咲乃/吉田亜由美（ともに体育2年）が準優勝、Bブロック男子シングルスにおいて亀山陽生（健康福祉1年）が優勝しました。

この大会は1・2年生が対象となっていますが、大学から競技を始めた学生や競技経験2年未満の学生のためにBブロックというカテゴリーも開催されています。

上位大会に繋がるものではなく、現状の力を試す要素が大きい大会となっており、各種目において決勝進出を出していくことを目標にしていかなければなりません。東北学生のレベルがここ数年で飛躍的に上がって来ているため、この流れに取り残されることなく、強化に邁進していきます。



女子ダブルス準優勝の三浦咲乃/吉田亜由美（ともに体育2年）

結果は以下の通り

<団体戦>

男子3位、女子準優勝

<個人戦>

男子シングルス 8強 上松和暉（体育2年）

男子シングルスB 優勝 亀山陽生（健福1年）

女子シングルス 8強 吉田亜由美（体育2年）

女子ダブルス 準優勝 三浦咲乃/吉田亜由美（体育2年）

8強 阿部理子/中村彩乃（子ども運動教育1年/運動栄養1年）

<バドミントン部>

男子サッカー部／伊従啓太郎と中村魁哉がJリーグチームへに内定

男子サッカー部の伊従啓太郎（体育4年）がカマタマーレ讃岐（J3）に加入内定し、また学生スタッフとして同部を陰から支え続けた総主務の中村魁哉（体育4年）が、来季からJ3に昇格するいわきFCのアカデミーフロントスタッフに就職内定しました。

これで男子サッカー部は来季のJリーグに選手4名、チームスタッフ1名を輩出しており、これは創部以来の人数となります。



伊従啓太郎（いより けいたろう）

■ポジション：DF

■出身：神奈川県川崎市（県立住吉高等学校出）

■特長：ヘディングと短長精度の高いフィード

■チーム歴：

FC中原→川崎フロンターレU-10→川崎フロンターレU-12→川崎フロンターレU-15→川崎フロンターレU-18→仙台大学



中村魁哉（なかむら かいや）

■総主務

■出身：福島県いわき市（湯本高等学校出）

「2021年クリスマス会」を開催

12月17日（金）、学生支援センター主催によるクリスマス会をおこないました。

この会は、学内の国際交流を深めることを目的に行っており、留学生11名、教職員18名、外部ボランティア2名の合計31名が参加しました。

参加者全員からの自己紹介と、自分自身の今年の漢字一文字を決めてもらい発表しました。また、ビンゴ大会とじゃんけん大会を行い大いに盛り上がりを見せました。

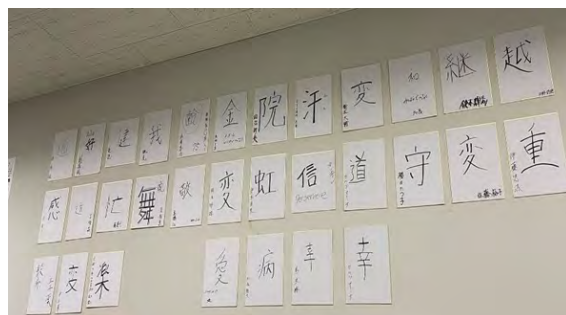
普段話す機会の少ない留学生と話すことができ、学内の国際交流を深めあう充実した活動になりました。

今回のイベントが留学生にとって心に残るものになってくれたと思います。

なお、発表した漢字一文字については学生支援センター内に掲示していますので是非ご覧ください。



クリスマス会の様子



学生支援センターに掲示している漢字一文字

芝草通信 NO. 32

担当：体育施設管理コンサルタント 小島 文雄

施設管理課 労務職員 八巻 良宏

噴水回り高麗芝生（暖地型芝生）に混入した白クローバー（white clover）駆除の状況NO.2

前回報告した駆除の状況として、薬剤散布（11/16実施）の方法と1週間後の様子をお伝えしました。1カ月経って観察すると茎葉処理除草剤が芝草の葉や茎から浸透して根元まで到達して全体がこげ茶色となり茎の太さも半分くらいに細くなり、すっかり除草剤の効果が効いて枯死している部分がありました。しかしその部分が散布した区域の40%くらいで残り60%くらいの部分には効果が少なく依然として緑色の葉が残っていて、葉先が縮小してしなやかになっているが枯死した様子には見られない部分がありました。

効果のあった茎葉を観察すると枯死した茎葉は触るとぼろぼろと崩れたり引き抜くと簡単に抜けてきたりします。散布した茎葉処理除草剤の効果が良く効いて、根元まで除草剤が到達していると考えられます。したがって除草剤の濃度は適正であったと判断しました。散布量が少なく、また密集している茎葉には薬剤が直接接触していなかった部分が有ったと考えられます。そこで、対策として濃度は同じにして散布量を2倍にして再度散布（12/15実施）しました。今後1か月くらいで効果がみられると思いますので皆様も観察してください。

今回利用した茎葉処理剤MCP液剤は希釈倍率が100倍から400倍と幅がある事と散布時期の気温や土壌の乾燥状態などにより、効果は様々です。皆様の家庭でも散布の状況を記録していろいろな条件に挑戦してみれば適正な条件が見つかると思います。今の時期は暖地型芝生が冬眠中で茶褐色をしており、寒地型雑草は生育中で緑色をしており、はっきりと区別ができますので、散布しやすいと思います。

次回は完全に白クローバー（white clover）を駆逐した状況をお伝えしたいと思います。



写真 1. 遠景、3体前

茎葉除草剤MCP液剤の効果が100%に達してなく緑色が目立つ。（散布1か月後）



写真 2. 近景

40%くらいの部分に茶褐色になって効果が効いてる事が見られる。（散布1か月後）



写真 3. 接写

全体がこげ茶色となり葉先が縮小して茎の太さも半分くらいに細くなり、効果が良く効いてる部分と葉先が縮小してしなやかになっているが、緑色の茎葉が残っていて、効果が効いてない部分がある。(散布1か月後)

(12月26日 記)

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol. 44

助手 今野 桜

12月に入ってから一気に寒さが増し、ここ川平地区でも今年度初の積雪がありました。川平ATRがある場所は特に風が強く吹くので、寒さが一層身に沁みます。そんな冬の寒い日々ですが、高校生は変わらず毎日練習に励んでいます。

さて、スポーツによる怪我の相談のために川平ATRに来る生徒の数は、例年の相談件数を比較すると10月からの2、3ヶ月に増える傾向があります。

それぞれの部活動で9～10月頃に大会があり、それが終わると大会までは痛みを我慢しながらプレーしていた人や、試合中に負傷してしまった人などの相談が増えます。接触プレーで防ぎきれない怪我也たくさんありますが、疲労を溜め込んだり、体の一部へのストレスが蓄積したりして起こる慢性障害によって練習を離脱する生徒も多くなっているのが現状です。

11～12月にかけて特定指定研究部活動を対象に行われた「スポーツ傷害予防講習会」では、そういった慢性障害を予防することと、この時期に特に気をつけなければならない風邪・感染症についての話をしました。高校生活は3年間と限られていて、夏から秋にかけて多くの大会が行われます。高校生にとって冬の間にどれだけいいコンディションを整え、体づくりができるかが次の年の成績にも大きく関わってきます。運動・栄養・休養のバランスを整え、体調を崩しやすい時期だからこそいつも以上に自分の身体を知り、大切にする必要があります。2022年も少しでも怪我で悩む生徒が減り、笑顔でスポーツを楽しむ姿が見られるように、日々の傷害予防に取り組んでいきたいと思います。

Monthly Report

中村優花がスノーボードクロスで北京2022冬季オリンピック大会の日本代表に選出!!



本学HPスライドに掲載

全日本スキー連盟は1月19日（水）、スノーボードクロスの北京2022冬季オリンピック大会日本代表内定選手を発表し、本学スキー部の中村優花（体育3年）が選出されました。

中村選手は昨年世界選手権で活躍の最中に左膝の前十字靱帯と半月板断裂という大ケガを負いましたが、必死のリハビリに取り組み出場を勝ち取りました。

＜中村優花 選手 コメント＞

・ケガからの復帰を振り返って

リハビリ期間は楽しくないし、競技が怖くてオリンピックは諦めようと思っていましたが、学内にあるアスレティックトレーニングルームでのリハビリや、周囲の方のサポートのお陰で気持ちを立て直すことができました。

・オリンピック出場への意気込み

楽しんでくることを目標に、オリンピックの場に行けることに感謝して最高の経験にします。

プロフィール

中村 優花（体育3年）なかむら ゆうか

青森北高校出身。19年8月マウント・ホッサム（オーストラリア）で開催されたオーストラリア・ニュージーランドカップ（ANC）2戦で6位。12月オーストラリア・ピッツタールで開催されたジュニアレースで優勝。2018年～全日本学生スキー連盟強化指定選手、SBX / SAJ強化指定選手

スノーボードクロス競技

国際スキー連盟のスキー競技の一つで、旗門、カーブ、うねり、ジャンプなどが設けられた約1kmのコースを複数の選手が同時に滑り順位を競う。時速80キロで滑走、接触や転倒で順位が入れ替わり、一瞬も気が抜けないハードな競技。

＜目次＞

・中村優花がスノーボードクロスで北京2022冬季オリンピック大会の日本代表に選出!!	1
・北京2022冬季オリンピック 女子スノーボードクロス代表の中村優花選手を激励 ・第16回スポーツシンポジウムを開催	2
・仙台大学川平キャンパスの完成に向けて第二期工事の安全を祈願した地鎮祭を挙行～川平地区再整備事業～ ・高大接続7年間一貫教育について	3
・男子ハンドボール部の伊藤峻が琉球コラソンのトライアウトに合格／創部以来初のトップリーガー誕生へ ・柔道場（第3体育館）の畳がリニューアル	4
・楽天生命パーク宮城の施設見学会を実施	5
・芝草通信 NO. 33	6
	7
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 45	7

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

北京2022冬季オリンピック 女子スノーボードクロス代表の中村優花選手を激励



※撮影時のみマスクを外しています。

1月28日（金）、2月4日に開幕する北京2022冬季オリンピックの女子スノーボードクロスに出場する中村優花選手（体育3年）の激励会が開催されました。

激励会は新型コロナウイルスへの感染予防の観点から、オンラインとのハイブリットで開催され、中村選手や学生、教職員はオンラインで参加、主会場となったLC棟では朴澤泰治理事長、高橋仁学長、八巻芳信同窓会長、井上望講師（スキー部監督）が参加しました。

この日21歳の誕生日を迎えた中村選手は「今、ここにいるのも大学のサポートがあったからこそ。オリンピックに出場することはとても貴重な経験になると思うので、その時できる自分の滑りを精一杯発揮したい」と初のオリンピックに臨む意気込みを力強く語りました。

高橋学長は「世界中のトップアスリートが出場する大会で最高のパフォーマンスを披露してください」と中村選手を激励しました。その後、学生・教職員からの寄せ書きとともに花束や激励金が贈られました。

なお、中村選手は2月9日（水）の女子スノーボードクロスと2月12日（土）混合団体スノーボードクロスに出場します。

応援よろしくお願いします。

第16回スポーツシンポジウムを開催

1月18日（火）、本学LC棟を会場に「第16回スポーツシンポジウム」（仙台市・河北新報社・仙台大学）を開催しました。

主催者を代表して朴澤泰治理事長が、スポーツシンポジウムのこれまでの経緯や本学における2020東京オリンピックベラルーシ新体操競技チームのホストタウン招致活動、運動栄養学科の選手村での支援活動紹介を話題とし、開会の挨拶をしました。

今回のシンポジウムは「2020東京オリンピック・パラリンピックを振り返る」をテーマとして、オリンピック・自転車男子ロードレースに出場した増田成幸氏（宇都宮ブリッツェン所属）、パラリンピック・バドミントン競技銀メダリストの鈴木亜弥子氏（元七十七銀行）、柔道競技日本代表チームアナリストの川戸湧也氏（本学現代武道学科講師）をパネリストに、スポーツライターの生島淳氏をコーディネーターに迎え実施されました。東京オリンピック・パラリンピックの一年延期や、新型コロナ禍での開催など、様々な困難を乗り越え競技に臨んだオリンピック、パラリンピアン、アナリストが、それぞれの立場から活発な意見交換を行いました。

今回のシンポジウムでは、新型コロナ感染拡大防止の観点から観客席を設けず、Web配信することで多くの皆様に聴講していただく機会としました。

当日の様子は、本学HP（<https://www.sendaidaigaku.jp/>）からご覧になることができますので、是非ご覧ください。

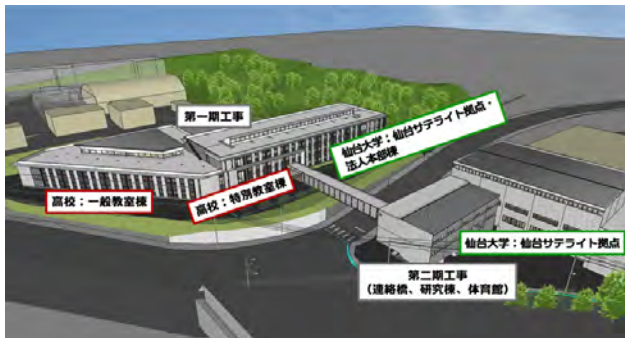


代表挨拶を行う朴澤泰治理事長（左）

仙台大学川平キャンパスの完成に向けて第二期工事の安全を祈願した地鎮祭を挙 行～川平地区再整備事業～

本学園が進める仙台市川平地区再整備事業の第二期工事の開始にあたり、12月28日（火）に朴澤理事長はじめ学園関係者が出席し地鎮祭を挙行了しました。本学からも高橋学長、松本副学長、渡邊事務局長等が参列して第二期工事の安全を祈願しました。

既に完了した第一期工事では附属明成高等学校の新校舎と法人本部、仙台大学の仙台サテライト拠点（川平キャンパス）の一部が建設されました。今回の第二期工事では、連絡橋、高校・大学共用の体育館、そして川平キャンパスの研究棟（仮称・川平KMCH）を整備するもので、令和4年度の年内完成を予定しています。



初寄稿シリーズ

高大接続7年間一貫教育について

講師 真木 瑛（2021年4月 着任）

本年度より仙台大学に着任いたしました真木瑛（まき あきら）です。私は仙台大学の運動栄養学科を卒業後、4年間新助手として勤務させていただきました。その間に管理栄養士免許を取得するとともに、仙台大学大学院を修了しました。その後は、給食会社や管理栄養士養成校、短期大学の栄養士養成校での勤務を経て、今年度7年ぶりに母校で務めています。

現在は、仙台大学附属明成高校との高大接続事業を担当しており、調理科・食文化創志科に在籍する生徒へ集団給食に関する実習に携わっています。具体的には、集団給食を実施するために厨房内の整備、厨房を使用する際の使用方法や衛生管理方法の作成、生徒へのレクチャー、仙台大学附属明成高校男子バスケットボール部選手のトレーニング状況に応じた給与栄養目標量の設定、その基準に応じた献立を作成し、調理科の生徒が調理・提供するなどを行っています。

今後は、仙台大学附属明成高校から仙台大学へ進学し、7年間一貫教育などを通して栄養士・管理栄養士やスポーツ現場で活躍する人材育成に貢献していきたいと考えています。

今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。



給食の運営についての事前講義の様子



厨房オリエンテーションの様子

男子ハンドボール部の伊藤峻が琉球コラソンのトライアウトに合格／創部以来初のトップリーガー誕生へ

男子ハンドボール部の伊藤峻（体育4年）が昨年11月に行われた日本ハンドボールリーグ所属、琉球コラソンのトライアウトに合格しました。

伊藤は、身長178cmとハンドボールのゴールキーパーとしては大きな方ではありませんが、積極果敢なゴールキーピングが持ち味の東北を代表するゴールキーパーです。

今後、正式な契約を経て、男子ハンドボール部創部以来、初の国内トップリーガーが誕生します。



プロフィール

伊藤 峻（体育4年） いとう しゅん
 ポジション： ゴールキーパー
 利き腕： 右
 身長・体重： 178cm／95kg
 出身地： 宮城県仙台市
 出身高校： 宮城県立利府高等学校

柔道場（第3体育館）の畳がリニューアル

同窓会と保護者会からのご支援により本学柔道場（第3体育館2階）の畳がリニューアルされました。

リニューアル後、初の部活動は1月4日（火）に本学柔道部と札幌日大高校、土浦日大高校による合同練習が行われました。

本学の部員たちは「全くすべらなくなった」、「国際基準の畳で練習できることで、より意識が高まります」など、新しくなった畳の使い心地を確かめつつ、高校生と一緒に汗を流しました。

なお、これまで使用していた畳は、NPO法人を介して他国で有効に活用すると共に、仙台大学附属明成高校との高大接続事業で活用していきます。



楽天生命パーク宮城の施設見学会を実施

12月5日（日）、楽天生命パーク宮城において「スポーツ施設管理概論」及び「スポーツターフ管理概論」の授業の一環として施設見学会が行われ、学生20人が参加しました。

この授業は、スポーツ施設管理の法的規制や基本事項を学ぶとともに、県内にあるスポーツ施設の見学を通して知識修得を促進するものであり、仙台大学と楽天野球団との間で締結したアカデミックパートナーシップの一環として、楽天生命パーク宮城の見学会は6回目の開催となりました。

株式会社楽天野球団 管理部 ボールパーク開発グループマネージャー 山縣大介氏に球団経営や会社の経営理念、SDGsの13番目の気候変動についての解説、安全管理体制等に関する講義を受け、株式会社ワタラグリーンのグリーンキーパー東海林弘樹氏に管理機械の解説を管理機械倉庫にて説明していただきました。その後、球場や管理施設を見学し、天然芝生・クレイグラウンド整備の機械や、グラウンドの天然芝生の生育状態を確認しました。

参加した学生からは「天然芝生を間近で観察し、理解が深まった」、「特に普段見ることが出来ない芝生の管理やサブエアーシステム（芝生の床に暖房した空気を送風したり雨水を吸引したりするシステム）を学ぶことができたことは大変貴重な体験でした」との声があがっていました。



映像を見ながらの講義



維持管理機械の説明



天然芝生観察



天然芝生剥ぎ取り実施

芝草通信 NO. 33

担当：体育施設管理コンサルタント 小島 文雄

施設管理課 労務職員 八巻 良宏

噴水回り高麗芝生（暖地型芝生）に混入した白クローバー（white clover）駆除の状況N03

2回にわたって、白クローバー駆除について施工方法と1か月後の状態をお伝えしました。今回は追加散布した1か月後の完全に駆除できた状態をお知らせします。前は除草剤の効果が効いて完全に枯死した部分とのこりの60%くらいの部分が緑色の葉先が残り、効果が見られなかった部分がありました。除草剤の適正濃度は幅広く対象植物によっても変わります。またその時の気象状況や土壌状況にもよりますので、少しずつ濃度や散布量を調整しながら繰り返し散布することは理にかなった方法です。一気に高濃度や散布量が多すぎると本来残存してほしい芝草にまで影響が強すぎて成長が阻害されてしまいます。



写真 1. 近景、3体前

40%くらいの部分に茶褐色になって効果が効いてる事が見られる。（散布1か月後）



写真 2. 近景、3体前

完全に枯死した状態で効果が効いてる事が見られる。（追加散布 1か月後）



写真 3. 接写、3体前

全体がこげ茶色となり葉先が縮小して茎の太さも半分くらいに細くなり、効果が良く効いてる部分と葉先が縮小してしなやかになっているが、緑色の茎葉が残っていて、効果が効いてない部分がある。（散布1か月後）



写真 4. 接写, 3体前

葉も茎も完全に枯死した状態になっている。(追加散布 1 か月後)

(1月24日 記)

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol. 45

助手 浅野 勝成

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。先日、ATとの共同授業で「ATとS&Cの役割」という授業を仙台大明成高校スポーツ創志科1年生に向けて行いました。具体的には、ATやS&Cの仕事内容、活躍しているフィールド、資格取得のために必要な学問などの紹介を行いました。その際に私が仙台大明成高校の高校生アスリートを対象に展開しているS&Cの目的を紹介しました。

一つ目は**傷害リスクの減少**です。傷害予防や怪我予防ではなく、傷害リスクの減少としています。この理由として、全てのケガの予防は出来ないのが事実としてあります。スポーツに取り組んでいる以上、軽度の打撲や捻挫などの軽いケガすらも経験したことがないという人を聞いたことがありません。トレーニングを積んで強い身体を作り上げたとしても、ケガするときはケガをします。しかしながら、適切な量と強度のトレーニング（+競技練習）を継続していけば、筋腱や骨が丈夫になったり、各関節に余計なストレスをかけることのない質の高い動作が出来るようになったりします。その恩恵として、ケガの程度を下げられたり、ケガからの回復を早められたり、さらにはケガをしにくくなったりします。**全てのケガを予防することは難しいですが、リスクを下げられる可能性が高くなります。**

二つ目は**身体能力の向上**です。身体能力とは、筋力、瞬発力、柔軟性、そして持久力などの体力要素のことを指します。体力という言葉は持久力的な意味合いが強いため、身体能力という言葉を用いています。また、注意すべき点として“競技力の向上”ではありません。例えば、バスケット選手がスクワットをしたからと言ってスリーポイントシュートが上手くなるわけではありません。この場合、スクワットで得られた下肢筋力や胴体部の安定性の向上が、より遠くからシュートを放てる土台を作っただけであって、その土台を基にシュート練習に励まないことには上手くなりません。身体能力は競技力の一部でしかないので、**トレーニングだけで競技力向上に“直接的”に繋がるわけではありません。あくまで間接的にです。** ちなみに、各部活動のニーズを基に身体能力のどの要素を優先的に鍛えていくかを明確にすることが重要です。ウエイトだけ愚直に行っていれば良いという訳ではありません。『S&C≠ウエイト』であり、『S&C=ウエイトを含めた複合的なトレーニング』で身体能力の向上を達成していきます。

上記のことを含めて、高校生にS&Cの仕事について紹介しました。その後のフィードバックを見てみると、「トレーニングの目的が理解できて良かった」や「S&Cのトレーニングに興味がある」といったコメントがいくつか見れたので良かったかと思います。

Monthly Report

第16回健康福祉研究会を開催／パラ女子車いすバスケの岩佐義明コーチが講演



2021年東京パラリンピックや車いすバスケットボールの魅力を紹介頂いた岩佐義明氏（写真上）

＜ 目 次 ＞

・第16回健康福祉研究会を開催／パラ女子車いすバスケの岩佐義明コーチが講演	1
・教職員研修会「大学生の生きる世界―学生相談から見えるもの―」開催 ・学生ボランティア「ボラリス」に対して感謝状	2
・男子バレーボール部の岩崎航佑がサフィールヴァ北海道（V2）に内定しました ・施設からスポーツを支える	3
・宮城セキスイハイムスーパーアリーナ（グランディ・21）施設見学会報告	4
・泉パークタウンゴルフ倶楽部施設見学会が開催されました	5
・芝草通信 NO. 34	6
	7
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 46	8

健康福祉学科は2月11日（金）に「第16回健康福祉研究会」を開催しました。

本研究会は、健康福祉学科（平成7年開設）の卒業生、在学生、教員、関係者が顔を合わせ、健康福祉に関して議論・交流を深める場で、今年で16回目の開催となりました。

今回は「パラスポーツを“する・みる・ささえる”」をテーマに、健康福祉学科が培ってきた体育・スポーツ科学を通じたハンディの克服や特別支援教育への貢献について、現場の生の声を聴き、考察を深めました。

基調講演1では、2021年東京パラリンピックで車いすバスケットボール日本代表女子ヘッドコーチを務められた岩佐義明氏（本学体育学科10回生、日本車いすバスケットボール協会所属）から、車いすバスケットボールの実際・醍醐味、東京パラリンピックの決戦等について熱くお話を頂き、基調講演2では、本学の小西志津夫准教授が「宮城県の特別支援学校におけるスポーツ活動」について、最新の調査に基づく実態と自身の教員としての経験を報告しました。

続くミニ・シンポジウムでは、現役教員等として活躍中の卒業生から活発な質問や意見が出されるなど、白熱した議論がおこなわれました。

終了後には参加者から「仙台大学在学中に障がい者スポーツサポートのサークルでの経験も思い出し、大変参考になった（卒業生）」、「ブラインドマラソンを機会があればやってみたいと思った（在学生）」などの感想が寄せられました。

今回は新型コロナウイルス感染症の影響からオンラインで実施し、全国から卒業生や一般の方も含め80名以上の方に参加して頂きました。

<健康福祉学科>

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

教職員研修会「大学生の生きる世界—学生相談から見えるもの—」開催

令和4年1月18日（火）13時30分より、仙台大学学生相談室・修学サポート委員会共催による教職員研修会を開催しました。今年度の研修会では、静岡大学保健センター&学生支援センター准教授の太田裕一先生を講師にお招きし、「大学生の生きる世界—学生相談から見えるもの—」と題してご講演いただきました。昨年度と同様、感染症拡大防止のため、オンライン形式で開催し、多くの教職員に参加いただきました。

太田先生は長きにわたり学生相談に携わっており、若者文化にも造詣の深いことから、講演ではデジタル・ネイティブ世代と言われる今の大学生の心性の理解やコミュニケーションのとり方についてご教授いただきました。加えて、研修会に先立って実施した教職員アンケートの質問にも回答いただきました。

講演前半では、日本経済の低迷や第4次産業革命、高等教育のユニバーサル化などの社会変化の影響、インターネットのかなえる「リモート」や「バーチャル」が変える対人関係の在り方という切り口から、現代の大学生の特徴を解説していただきました。近年の大学生の傾向として、周囲からの援助が必要な状況であっても自ら手を伸ばせない者が多いため、学生に「助けを求めることが大切なのだ」と伝えていくこと、大人は学生と細くても繋がりをもち続けていくことが重要だと分かりました。後半では、事前アンケートで挙げられた質問へ回答いただきました。学生と関わる中で実際に起きている問題に関する質問に、具体的な対応をご教授いただきました。

質疑応答では、参加者から講師へ多数の質問が寄せられました。日頃、教職員の皆様が学生へのより良い関わり方を模索し、その関りが適切だったかどうかの自己点検を重ねている様子が想像されました。普段はなかなか表に出ませんが、教職員の皆様が日頃から熱心に学生のサポートにあたられていることを知る機会にもなりました。研修会後のアンケートでは、「コロナ禍で学生との関係がリモートとなるが増える中、どのような対応を教職員が求められているか理解できた」、「学生の興味・関心事などを把握することの大切さを感じた」などご意見が寄せられ、学生との関わり方について貴重な示唆が得られた機会となりました。

<学生相談室・修学サポート委員会>



オンライン研修会の画面より

学生ボランティア「ポラリス」に対して感謝状



令和4年2月15日 ポラリス感謝状授与の報告



令和3年10月12日 全国地域安全運動キャンペーンでの学生V0の様子

1月21日、大河原警察署長より、学生ボランティア「ポラリス」の活動に対し感謝状を頂き、コロナ禍の中、最後まで強い責任感と使命感をもって活動に参加した、現代武道学科3年の太田千尋さんが代表して高橋学長に報告しました。

「ポラリス」は、本学を含む県内7大学の学生と警察職署員や少年警察ボランティアが「青少年の健全育成を推進する」目的で「ポラリス宮城」として活動しています。

本学からは8名の学生が登録し、大河原警察署と連携しながら、仙南地域のスーパーや道の駅で地域安全運動キャンペーンの実施や、指人形を使った防犯教室の社会参加活動等を行いました。

太田さんは、「私は人の役に立てればという想いで、大学入学後からボランティア活動を継続しています。その中でもポラリスは、地域社会に貢献できるとてもやりがいのあるボランティア活動です」と話しています。

今後も、学生支援センターでは大河原署や地域と連携を図りながら仙台大学「ながら見守り隊」と共にこども達に寄り添い、少年たちの道標となるようボランティア活動に取り組んでいきたいと思ひます。

<学生支援センター>

男子バレーボール部の岩崎航佑がサフィールヴァ北海道（V2）に内定しました

男子バレーボール部の岩崎航佑（体育学科4年）が、サフィールヴァ北海道（バレーボール男子Vリーグ Division2）に入団することが内定しました。

これで通算9人目のVリーガー輩出となります。



【岩崎航佑（いわさき こうすけ）選手プロフィール】

■ポジション：ミドルブロッカー

■生年月日：1999年7月20日（22歳）

■身長/体重：194cm/74kg

■出身：北海道札幌市（北海道科学大学高校出身）

【岩崎航佑選手のコメント】

私の地元である札幌を拠点としているサフィールヴァ北海道でプレーできることを大変嬉しく思います。 バレーボールを続けられることに感謝の気持ちを忘れず、チームや応援してくださる方々の為にも努力を怠らず、頑張ります。

初寄稿シリーズ

施設からスポーツを支える

助教 野口 翔（2021年4月 着任）

皆様、初めまして本年度より運動栄養学科助教となりました野口翔と申します。本学には、2016年に「芝生管理」の新助手として採用され、今年度からは教員として、「芝生管理」に加え、「スポーツ施設管理士」資格認定試験関連の講義や、生化学、生化学実験といった運動栄養学科の講義科目に携わらせていただいております。

私の専門は植物生態学で学生時代は里山の植生調査（主に、希少植物の個体調査やヤマザクラという桜の野生種の個体調査）などをしておりましたが、本学ではスポーツ・運動に関連して、競技表層である天然芝生が人体に与える影響や、スポーツターフにおける維持管理の手法などの研究を行っています。また、教育では「芝生管理」のような農学的な視点や「スポーツ施設管理士」に関連した施設管理の視点から、スポーツを多角的に捉えることができる人材を育成し、学生の資質向上の一助になればと考えています。至らない点も多々あるかと思いますが、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。



写真 1 天然芝グラウンド



写真2 第二グラウンド天然芝刈込の様子

宮城セキスイハイムスーパーアリーナ（グランディ・21）施設見学会報告

令和3年11月7日（日）と12月4日（土）にグランディ・21（みやぎ国体会場）において「スポーツ施設管理概論ⅠおよびⅡ」の授業の一環として施設見学会が行われました。

この授業は、スポーツ施設管理の法的規制や基本事項を学ぶとともに、県内にあるスポーツ施設を実際に見学して知識修得を促進するものであり、講義で得た知識の総復習として現地において、実際の施設や維持管理器具類などを見学し、維持管理の機微を体得することです。宮城セキスイハイムスーパーアリーナは2001年のみやぎ国体の開会式・閉会式の会場となるほかに、総合運動公園としてプール（長尺50m公認、短尺25m公認）、サブプール（25m公認）、飛込プール（公認）、メインアリーナ、サブアリーナ、投てき場、スタジアム（第1種公認陸上競技場）、補助競技場（第3種公認）、テニスコート、合宿所、など各種競技場が県民の森（410ha）の東側に隣接した146haの広い敷地に点在してあります。

担当の野口翔助教と小島文雄体育施設管理コンサルタント兼非常勤講師の引率の下、11月7日に31名、12月4日に17名の学生が参加しました。

仙台大学OBの職員が隣接のしらかし台団地にある県営サッカー場の天然芝生サッカー場2面ロングパイル人工芝生サッカー場1面や宮城セキスイハイムスーパーアリーナの各種施設を懇切丁寧に案内と解説をして頂きました。見学をしながら、実物の大きさ、方角、位置、高さなどの理想形を検証しました。午後は2002年のサッカーワールドカップの試合も開催されたスタジアム（陸上競技場兼用）を見学し、ビッグ大会を開催する会場の規模の大きさを実感しました。普段入ることの出来ない施設維持管理の裏側を見学し、大きな競技会を運営することの大変さも体感しました。



＜写真2＞6階客席最上階の上の通常立ち入り禁止区域で解説を聞く



＜写真3＞3Fの客席にて説明を聞く



＜写真4＞陸上競技場インフィールド内のサッカー場天然芝生（遠景）



＜写真5＞芝生生育状態（接写）

（2月22日記）

泉パークタウンゴルフ倶楽部施設見学会が開催されました

令和3年11月6日（土）と11月13日（土）に泉パークタウンゴルフ倶楽部において「スポーツターフ管理概論Ⅰ」の授業の一環として施設見学会が行われました。

この授業は、スポーツ施設管理の法的規制や基本事項を学ぶとともに、県内にあるスポーツ施設を実際に見学して知識修得を促進するものであり、講義で得た知識の総復習として現地において実際の施設や維持管理機械・道具類などを見学して、維持管理の機微を体得することです。泉パークタウンゴルフ倶楽部は県内でも有数のゴルフ場で130万㎡の広大な緑の丘陵にゆったりとレイアウトされた18ホールを持つグレードが高く維持管理も優れている施設です。

担当の野口翔助教と小島文雄体育施設管理コンサルタント兼非常勤講師の引率の下、11月6日に13名、11月13日に28名の学生が参加しました。

このゴルフ場がある泉パークタウンには、住宅をはじめ商業施設、事業所、スポーツ、レクリエーション施設、緑あふれる公園、緑地がバランス良く配置され、それぞれが調和し合う独自のマスタープランが描かれています。住民自らがまちづくりに参加して一緒に街を成長させていく理念が掲げられており、この理念のもと行われるコミュニティ活動が街の価値を維持・向上させ、成熟を深めています。

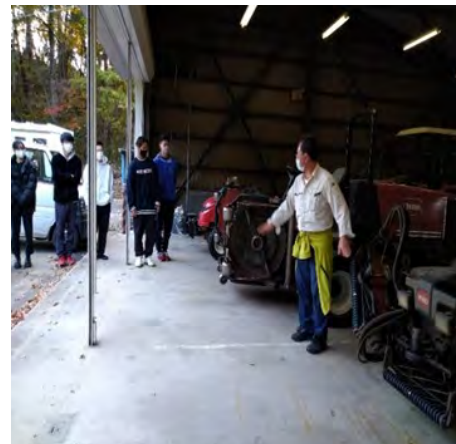
施設管理を学ぶ学生は、このような理念を理解し、大規模施設に在るゴルフ場の役割を理解してください。



＜写真1＞バンカー造成の解説、形状はグリーンと同様に直線を用いず曲線で描かれており、大きな円と小さな円を結ぶ接線に沿って造成されている。



＜写真2＞ NO.10 ティーグラウンド
ヤード表示板を抜きコースの説明



＜写真3＞管理機械の説明



(2月22

＜写真4＞大量散布用タンク車
機械が入れない部分もホースで散布
濃度を薄くして大量の水量で散布



日記)

＜写真5＞少量散布用タンク車
ブームが開き車幅の3倍に散布
濃度を濃くして少量の水量で散布

芝草通信 NO. 34

担当：体育施設管理コンサルタント 小島 文雄

施設管理課 労務職員 八巻 良宏

第二グラウンド芝生（暖地型・寒地型芝生）に除草剤（茎葉処理型フルスロット）散布実験の状況

スズメノカタビラは一年草冬雑草（越年草）で繁殖力が強く生長点を自由におのずから調節して草刈り高さに逆らって、すぐ下で出穂して生育します。そのために草刈りを頻繁に行ってもなかなか阻害することが困難です。イネ科植物で芝生に用いる芝草と同じ姿形のために世界ではスズメノカタビラが混植しているスポーツターフがよく見られます。日本ではターフの草刈り高さの下で出穂する穂の色が目障りであることから雑草として区別されます。出穂抑制剤を使用して同じ種類のイネ科である芝草と混植して用いることもあります。今回の実験はペレニアルライグラスとトールフェスクに対して除草剤（茎葉処理型フルスロット）を散布して隣接の無処理区と比較をしました。



＜写真1＞ 左、対照区a、右、試験区A、 遠景
除草剤散布：茎葉処理型 フルスロット
寒地型芝生：ペレニアルライグラス



＜写真2＞ A区 近景、散布直後、右、3か月後
除草剤散布：茎葉処理型 フルスロット
寒地型芝生：ペレニアルライグラス



＜写真3＞ a区 近景 散布直後、右、3か月後
対 照 区：無散布 通常管理
寒地型芝生：ペレニアルライグラス



＜写真4＞ A区 接写 散布直後、右、3か月後
除草剤散布：茎葉処理型 フルスロット
寒地型芝生：ペレニアルライグラス

＜写真1＞から＜写真4＞は寒地型芝生ペレニアルライグラスに対して除草剤茎葉処理型フルスロットを散布した状態です。左側対照区a区は無散布で、右側＜試験区A＞にフルスロットを散布しました。この薬剤は茎葉から除草剤が吸い込まれて葉先から枯れだし、根茎まで到達します。バミューダグラス（暖地型芝草）には効果なく寒地型雑草スズメノカタビラには効果が発揮される除草剤です。バミューダグラスは冬季休眠状態で葉先は生育が鈍く黄変しています。散布直後（11月8日）の＜写真1＞を見ると薄く黄変したバミューダグラスの上に寒地型ペレニアルライグラスとスズメノカタビラの緑の葉先が見られます。近景＜写真2＞と接写＜写真4＞を見ると左側の散布直後には雑草スズメノカタビラの緑色が目立ち、3か月後の右側の写真には緑色が消えて休眠状態のバミューダグラスの黄変した葉先が見られます。ペレニアルライグラスは保護されることになっていますが、少し影響も出ているようです。

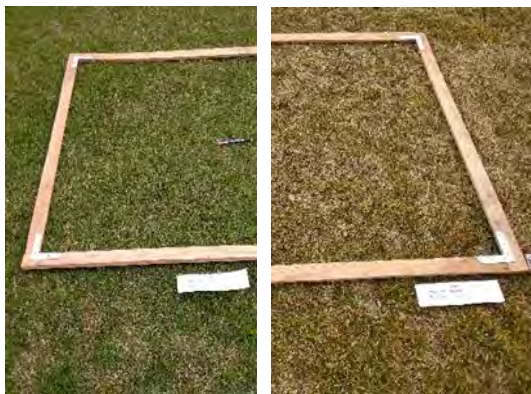
＜写真5＞から＜写真8＞は寒地型芝生トールフェスクに対して除草剤茎葉処理型フルスロットを散布した状態です。観察状況はペレニアルライグラスとほとんど同じです。同じような効果が有ったと思います。



＜写真5＞左、対照区b、右、試験区B、 遠景
除草剤散布：茎葉処理型 フルスロット
寒地型芝生：トールフェスク



＜写真6＞B区 近景、散布直後、右、3か月後
除草剤散布：茎葉処理型 フルスロット
寒地型芝生：トールフェスク



＜写真7＞ b区 近景 散布直後、右、3か月後
対 照 区：無散布 通常管理
寒地型芝生：トールフェスク



＜写真8＞ B区 接写 散布直後、右、3か月後
除草剤散布：茎葉処理型 フルスロット
寒地型芝生：トールフェスク

(2022. 02. 22 記)

「高校スポーツの安全を守る」Vol. 46

新助手 佐藤 章人

今年の1月より川平ATルームに配属された佐藤章人です。私は本学の体育学科トレーナーコースの卒業生で、在学中はアスレティックトレーナー部に所属し、知識は授業で、実践は部活動で経験を積んできました。その甲斐あって現役で筆記試験に合格し、現在はJSP0-AT（日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー）の資格を有しております。

中学生の頃に選手を支え、鍛えるスポーツトレーナーの道に憧れを抱きました。東北で唯一の体育系大学であった仙台大学でトレーナーについて学べると知り進学を決め、大学では4年間AT漬けの生活を送っていました。大学入学以前は、漠然とスポーツトレーナーという職に対し格好いいというイメージを抱いており、ATという職業がどのような活動を行っているのか知るのは入学後でした。正直ATの活動を目の当たりにした第一印象は「結構地味な仕事だな」というものでした。しかし、私自身が選手に触れ、傷害を評価し、問題点を見つけ出し、必要に応じてトレーニングを実施し、選手が練習に復帰し最終的には試合で結果を残す様子を何度も見る中で、ATの面白さを実感していきました。アスリートの体をこんなにも理解し、様々な観点からアプローチをかけ、最終的には競技力向上に持っていく仕事はなかなかないと感じ、ATの魅力にどっぷり浸かっていきました。

大学卒業後は更なる知識の向上やJSP0-ATの発展の為、中国の上海体育学院に進学を決めました。運動康复专业（スポーツリハビリテーション学科）で勉学に励んでおりました。しかし、日本に一時帰国している間に新型コロナウイルスが流行し、現在は休学中です。日本にいる間にATとしての知識や技術を維持・向上させる為に、川平ATルームにて実践の場を提供していただきました。

高校生活は身体的にも精神的にもまだまだ未熟な時期だと思います。その為、私たちのように間近にいる大人の一举手一投足が大きな影響を与えます。高校生の内はもちろん、高校卒業後もスポーツを続けていく生徒は多いはずです。私はそのような高校生をサポートするだけでなく、自分たちの体を知るキッカケを与え、痛みとの付き合い方や体を大事にする方法を学んでもらいたいと考えています。さらに、ATの一番の強みは現場での応急処置や緊急時対応にあると考えています。リハビリやコンディショニングももちろん重要な仕事ですが、事故を予防し、万が一発生した際に即座に対応できるように日々備えておくことが、私の思うATの在り方だと考えています。未だに高校部活動中に生命にかかわる重大事故は発生しています。指導者でも救急法を学んでいない方が多くいるのが現状です。何よりも生徒たちが安心安全に部活動に取り組んでいける環境づくりを高校ATとして徹底していきたいと考えています。まだまだATとしての実務経験は浅いですが、日々精進していきたいと思っています。よろしくお願いします。



Monthly Report

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.191 / 2022 .MAR

(月1回発行)

620名の学生が新たな一歩/令和3年度卒業式を挙行



高橋学長より卒業証書・学位記を受け取る体育学科総代の石森さん

「令和3年度第52回卒業証書・学位記授与式並びに第23回大学院学位記授与式」は3月12日（土）、本学第5体育館で行われ、体育学部601名（うち、体育学科311名、健康福祉学科101名、運動栄養学科77名、スポーツ情報マスメディア学科36名、現代武道学科31名、子ども運動教育学科45名）及びダブルディグリー制3名、並びに大学院16名が本学を巣立ちました。

表彰関係では理事長特別賞に、令和3年10月に行われた体操・世界選手権「種目別ゆか」で銀メダルを獲得した体操競技部の南一輝さん（体育4年）が輝き、学長賞に第47回全日本大学選手権大会で男子総合優勝やエイトで日本一を掴んだ漕艇部の学生や令和3年度第67回全日本学生ウエイトリフティング個人選手権大会のトータルで優勝した遠藤朱李さんなど15名が表彰されました。

式はコロナウイルス感染拡大防止のため、式次第を簡略し、学生と関係教職員のみで執り行いました。

LIVE配信された卒業式の様子はYouTube仙台大学公式チャンネル（下記のQRコード）よりご覧いただけます。

＜学長式辞要旨・高橋 仁＞

皆さんにとってこの2年間は、新型コロナウイルスの世界的な流行により、それ以前とはまったく異なる学生生活を送ることになりました。体育、スポーツ、健康科学という身体活動を専攻領域とする本学にとって重要な意味をもつさまざまな活動に制限がかかり、授業は全面的に遠隔で行い、部活動も断続的に休止となり、大会等の中止も相次ぎました。



＜目次＞

・620名の学生が新たな一歩/令和3年度卒業式を挙行	1 ・ 2
・宮城教育大学と連携協定を締結しました ・仙南地域体育協会連絡協議会第2回研修会並びに表彰式に高橋学長が参加	3
・高橋仁学長がUNIVASシンポジウムに登壇 ・挑戦する心と感謝	4
・スポーツ栄養研究会認定証授与式 ・健康づくり運動サポーター認定証書授与式 ・令和3年度仙台大学履修証明プログラム「乳幼児運動あそび指導者育成プログラム」を修了	5
・＜SUオフィスより高大接続教育実施報告＞ 3月9日（水）健康福祉学科×仙台大学附属 成高校食文化創志科 3月10日（木）子ども運動教育学科×仙 台大学附属成高校食文化創志科	6 ・ 7
・学生が日本バドミントン学会で多数発表	8
・学生が東京体育学会第13回学会大会にオンラインで参加 ・「高校スポーツの安全を守る」Vol.47	9
・芝草通信 NO. 35	10 ・ 11
・退職される先生方からメッセージをお寄せ頂きました	12 ・ 13

学生の活躍や、取り組みなどを
ご存知でしたら広報課までお
寄せください。

Monthly Reportで紹介する
他、報道機関にも旬な話題を提
供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等が
ありましたら広報課までご一報
ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

徐々に対面授業が再開されたものの不自由な生活を強いられる毎日でしたが、学生の皆さんの協力と一人一人の創意工夫によって部活動等を継続することができ、女子サッカー部がインカレで初のベスト8、硬式野球部が秋の神宮大会に初出場を果たすなど、大きな成果をあげる事ができました。また、昨年12月に学友会主催で打ち上げた花火は、学生の皆さんのみならず町の人々にも元気を与えるイベントとなりました。

1年延期となった東京オリンピック・パラリンピックも昨年の夏に開催され、本学の卒業生が活躍するとともに現役の学生の皆さんも聖火リレーのボランティアや大会運営のスタッフなどとして参画し、スポーツを「する」「みる」「ささえる」という本学の特色を発揮することができました。特に、体操競技部の南一輝選手は、ケガのため東京オリンピック出場は叶いませんでしたが、その悔しさをばねにして12月に開催された世界体操選手権では見事銀メダルを獲得しました。ケガをのりこえて世界の頂点を目指し努力し続けたことを大いに称えたいと思います。

コロナ禍により、思い描いていた学生生活を送ることができなかったという気持ちを持つ皆さんも多いことと思います。しかし、困難を乗り越えて今日の日を迎えた事は、今後の人生の糧となるに違いありません。

皆さんは、これから、社会のさまざまな分野で、新たな一歩を踏み出すことになります。世界は今、激動の時を迎え、日本も大きな変化のうねりの中にいます。誰もが安心してスポーツを楽しむことができる平和な社会を築いていくために、「実学と創意工夫」の建学の精神そして「スポーツ・フォア・オール」の理念のもと、皆さんが本学で学んだ全ての事を土台として、それぞれの場所で存分にその力を発揮されることを期待しています。

<謝辞要旨・熊谷 のぞみ（子ども運動教育4年）>

私は4年間で、諸先生方や友人だけではなく、保育実習やボランティアを通して、多くの子どもたちに出会いました。初めての保育実習では不安や戸惑いから失敗も多くありました。しかし、大学での学びや共に実習を行っていた仲間との励まし合い、指導教諭の先生の熱心なご指導、そして子どもたちが見せる屈託のない笑顔で乗り越えることができ、大きく成長することができました。

令和2年3月に新型コロナウイルス感染症が流行し始め、私たちの大学生活も一変しました。活動の自粛や講義がオンラインとなり、先の見えない毎日で焦燥感に駆られることこともありました。しかしこれらの経験が、子どもたちと関わることの楽しさを改めて認識するきっかけとなりました。自分の目標や夢を達成するため、先生方から、きめ細やかなご指導を受け、基礎的な面から応用力まで学ぶことができました。このような恵まれた環境の下で充実した大学生活を送ることができたことをとても嬉しく思っております。

本日をもって私たちは仙台大学を卒業します。春から進む道はそれぞれ異なりますが、仙台大学で培った知識や技術、精神を活かして、卒業生一同精進して参りたいと思います。楽しいことや嬉しいことばかりではなく、悩むことも多くあると思います。そのときには、仙台大学で仲間たちと過ごした時間や応援してくださった先生方を思い浮かべて、一歩ずつ前に進んでいきたいです。そして、私たちが充実した学生生活を送り、今日この日を迎えることができたのは、他ならぬ家族の支えがあったからこそだと思います。どんなときでも一番近くで応援してくれた家族の存在が励みになりました。心から感謝しています。ありがとうございます。



宮城教育大学と連携協定を締結

本学は3月24日（木）に宮城教育大学と「今後の学校教育の創造等を担う教員の養成・輩出に向けた共創、連携に関する協定」を締結しました。

この協定は両大学の教員養成に係る教育研究実績を高めるうえで有益と見込まれる共創、連携の取組を推進することにより、今後の東北地方をはじめとする各地域の学校教育の創造、円滑な実施を担うことができる教員を多数育成、輩出し、もって地域社会の創生、Society5.0に向けた学校教育の発展に寄与することを目的としています。

協定式は本学LC棟で行われ、宮城教育大学の村松隆学長は「学部教育や大学経営、人事交流等においても共同・共創関係を結び、共に力を出し合って地域に貢献する人材の養成とその高度化を図っていききたい」と挨拶し、次いで本学の高橋仁学長が「これまでも多くの教員養成の実績とノウハウを持っている宮城教育大学との協定により、本学の学生にとって貴重な学修の機会が得られることに感謝しています」と本協定に期待を寄せました。

今後は教員養成に関する共同研究や学生の交流、両大学と地域との連携・交流等を行っていく予定です。



仙南地域体育協会連絡協議会第2回研修会並びに表彰式に高橋学長が参加 研修会を主催した仙南地域体育協会連絡協議会から以下のようなご報告を頂きました。



令和4年3月13日（日）角田駅コミュニティプラザ2階イベントホールで、仙南地域2市7町の体育協会やスポーツ少年団等の関係者43名を対象にした研修会並びに表彰式を開催しました。

表彰式では宮城県スポーツ協会より、スポーツ振興に多大な功績を残した方に与えられる功労章を授与された2名が表彰され、記念品が贈られました。

研修会では、仙台大学学長 高橋 仁 氏をお招きし「仙南地域におけるスポーツ活性化に向けて」と題した講演を行っていただきました。

はじめに高橋氏のスポーツ歴、指導歴を通して得た考えを伺いながら、仙台大学の取り組みである中学校部活動支援やスポーツを通じた地域への貢献、さらにはスポーツ活性化支援コンソーシアム事業を紹介いただき、今後の地域スポーツの活性化のために必要な取り組みや、問題点をご教授いただきました。

講演の質疑応答ではそれぞれの市町が抱える問題や取り組みに所見をいただき、今後の仙台大学との連携についても意見を交え、有意義な研修会にすることができました。

今後も本協議会では、仙南地域のスポーツ活性化に向けて幅広く情報共有や意見交換に取り組んでいきます。

<報告>

角田市地域振興公社 スポーツ振興係 主事 八巻 太成

角田市地域振興公社 スポーツ振興係 スポーツ事業推進員 納 寛大(本学OB)

高橋仁学長がUNIVASシンポジウムに登壇



3月22日（火）、一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）が主催するシンポジウム「UNIVAS Athletics & Sport Design Symposium 2022～日本の大学スポーツのデザインが変わる」がオンライン開催され、第二部の対談に高橋仁学長がパネリストとして登壇しました。

対談では、株式会社湘南ベルマーレ代表取締役社長水谷尚人氏、studio-L代表山崎亮氏とともに「大学スポーツの新時代をデザインする」をテーマに各々の立場から、大学スポーツと地域の関連性についての取組みを語り合いました。高橋学長からは、本学の学生が中高校生の運動部活動に対して指導している事例などをはじめ数々の地域の取組みについて写真を使いながら紹介しました。

このシンポジウムはUNIVASオフィシャルサイトにてアーカイブ配信を行っています。

※なお、高橋学長は3月16日に発生した福島県沖地震の影響による東北新幹線不通により、登壇形式をオンラインに変更いたしました。

初寄稿シリーズ

挑戦する心と感謝

助手 金藏 弘佳（2021年4月 着任）

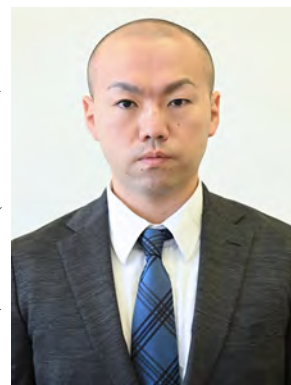
昨年4月より仙台大学でアスレティックトレーナーとして勤務しております金藏弘佳です。私は以前アメリカのハワイ大学でアスレティックトレーナーとして働いていました。その時、仙台大学の学生がアスレティックトレーナー研修でハワイ大学に来ていたのが初めて交流を持った場でした。この度、仙台大学に来られたのも不思議なご縁を感じています。

そもそもアスレティックトレーナーとは何者なのかご存じない方のために簡単に説明しますと、よく野球やサッカーなどのテレビ中継で見かける光景ですが、選手が怪我をしてフィールドに倒れ込んだ時に駆け寄って応急処置などを行っているのがアスレティックトレーナーです。アメリカでは米国医師会によって準医療従事者に認定されている国家資格で、傷害・疾病の予防、リハビリ、臨床評価と診断、緊急対応など、医師と連携して様々な現場で治療またはサービスを提供しています。

仙台大学に勤務する以前は10年程アメリカで生活していました。その間シアトル、オレゴン、ハワイ、ボストン、サンフランシスコと様々な都市で生活し、そして高校、大学、プロスポーツチームなどのスポーツ現場で経験を積んで来ました。アメリカに留学した直後は、全く英語が話せなかったということもあり、その異なる言語や文化の違う国で生き残っていけるのかと感じざるを得ませんでした。しかしアメリカでアスレティックトレーナーになるんだという強い想いを持つことで、数々の苦境もなんとか乗り越え気づけば10年もアメリカで生活できた気がします。

アメリカで過ごした経験から私が学んだことは、必ず成し遂げるという強い気持ちとそれに対する惜しまぬ努力、そして周りの方々のサポートを得ることが出来れば自分の夢や目標は達成することが出来るということです。今こうして自分になりたかったアスレティックトレーナーとして働くことができているのも、いろいろな方々に助けられ支えてもらったからに他なりません。

仙台大学の学生たちが安心してスポーツに打ち込める環境づくりを整えていくとともに、夢や目標を持つことの大切さを伝え、挑戦していけるよう全力でサポートしていきたいと思えます。



スポーツ栄養研究会認定証授与式

3月11日（金）「2021年度 運動栄養学科 スポーツ栄養研究会 認定証授与式」が挙行され、高橋仁学長より認定証書が授与されました。

今回は、密を避けるため、優秀認定8名、優良認定2名、および全国のNR・サプリメントアドバイザー合格者の中でも、日本臨床栄養協会が定める成績優秀者表彰対象者2名のみが出席対象者となりました。対象者計12名のうち10名が出席しました。

スポーツ栄養分野における学科生の多様な取り組みを推進するスポーツ栄養研究会が定める四つの部門、「アスリート部門（スポーツ栄養セルフマネジメント認定）」「研究部門（スポーツ栄養研究活動認定）」「サポート部門（スポーツ栄養サポート活動認定）」「キャリア部門（スポーツ栄養キャリア認定）」それぞれの部門認定において、2部門以上の認定またはキャリア部門で栄養士免許を含む3種類以上の該当免許・資格の取得または見込み、かつ栄養士実力認定試験A判定の学生が優秀認定となりました。

また、1部門の認定かつ栄養士実力認定試験A判定の学生は優良認定となりました。

鈴木彩菜さん（優秀認定：青森山田高校出身）は、アスリート部門、研究部門、キャリア部門の三つの部門で認定を受け、NR・サプリメントアドバイザー合格（合格者の中でも協会より成績優秀表彰）、CSCS（NSCA）合格、栄養士免許取得の成果を収めました。

國分恵理さん（優秀認定：宮城県立塩釜高校出身）は、研究部門、キャリア部門で認定を受け、NR・サプリメントアドバイザー合格（成績優秀者表彰）、健康運動指導士受験資格取得、栄養士免許取得の成果を収めました。

佐藤大也さん（優秀認定：秋田県立本荘高校出身）は、アスリート部門に関連して、漕艇部主将として全日本大学選手権男子総合二連覇に貢献しました。

授与の際、高橋仁学長より、コロナ禍で大変な状況の中でも、それぞれに努力し抜いた学生の皆さんへ最大の賛辞が贈られました。

<運動栄養学科>



健康づくり運動サポーター認定証書授与式

3月11日（金）に健康づくり運動サポーターの認定証書授与式を挙行了しました。

今年度は資格認定評価会で認定された初級22名（出席12名）に対して認定証書が授与されました。今回の認定者を含めこれまで延べ636名が本資格を取得してきました。

高橋仁学長から「養成講座や現場実習で学んだことを今後の学生生活や社会で活かしてほしい」小池和幸教授からは「初級よりも上の資格（中級・上級）取得を目指し取り組んでほしい」と学生にエールを送りました。初級を取得した加賀千咲さん（運動栄養3年）は「将来は運動指導のスキルを身に付けたスポーツ栄養士を目指し、健康運動指導士取得に向けこの経験を活かしたい」、小幡春菜さん（健康福祉2年）は「養成カリキュラムを通して、運動指導法やコミュニケーションスキルについて学び、今後の学生生活で活かしたい」と抱負を述べました。

<健康づくり支援班>



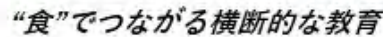
令和3年度仙台大学履修証明プログラム「乳幼児運動あそび指導者育成プログラム」を修了

3月20日、令和3年度仙台大学履修証明プログラム「乳幼児運動あそび指導者育成プログラム」を修了しました。

修了式では、昨年の10月以降、約半年間のプログラムを履修した11名の履修生に対し「履修証明書」が授与されました。授与後、一人一人が本プログラムを受講した感想等を述べた後、プログラムコーディネーターの原田健次教授（子ども運動教育学科長）より「本プログラムで学んだことを実践に活かすとともに各職場内で新しい意見を取り入れ、各自の課題に挑戦してほしい」と挨拶しました。

修了生11名の皆さん、今後のご活躍を期待します。





Vol.191 / 2022 MAR

< 高大接続教育実施報告 >

3月10日（木）子ども運動教育学科学科×仙台大学附属明成高校食文化創志科



仙台大学
子ども運動教育学科学科



仙台大学附属明成高校
食文化創志科



実施概要

日時：令和4年3月10日（木）
場所：食文化実践RLB1
タイトル：遊んでぼくらは人間になる
特別講師：仙台大学教授 賞雅さや子先生
参加者：食文化創志科2年生（90名）

授業内容

- (1) 保育教育の仕組みの説明
- (2) 保育免許について（資格等）
- (3) 施設の仕組みについて
- (4) 子どもの遊びについて
- (5) まとめ

授業の様子



- ・味わう
- ・触れる
- ・探索する
- ・感じる
- ・創造する
- ・動く
- ・話す
- ・見る
- ・聞く
- ・においをかぐ



あそびにはこうした活動がすべて含まれます。
終わりの始まりもない、大人への土台作りが
あそび、あそぶことです。

子どもの可能性を最大限に引き出そう！

遊ぶから、子どもは成長できる

子どもたちにとって遊びとは・・・？
「好きなこと」「やりたいこと」「夢中になること」
子どもの関心はどこにあるかわからない。
多方面から子ども一人一人にアプローチすることが保育には重要である。

「あそび」は子どもの「やってみたい」から始まる

あそびは、子どもの「やってみたい」という気持ちからスタートするものであって、決して「やりなさい」と命じられてするものではありません。遊びは、自発的なこと。

今後の取り組みについて

今回の特別授業は、“子ども”を理解することからスタートしました。どこに興味を示すかわからない好奇心旺盛な子どもたちに対してどんな食事を提供し、どんな食育につなげるか。を今後シリーズ化し授業を展開していきます。

学生が日本バドミントン学会で多数発表

3月6日（日）に日本バドミントン学会第5回大会がオンラインにて開催され、林直樹准教授（バドミントン部監督）と同研究室のゼミ生7名、バドミントン部アナリスト2名が学会発表を行いました。

午前中のシンポジウムでは林直樹准教授が登壇し、バドミントンのゲーム分析について発表を行い、午後の学生セッションにおいては、各々が発表を行いました。

学生セッションは全部で13演題ありましたが、そのうち9題を本学の学生が占めました。

同研究室では3年次にグループ研究をポスター発表、4年次に卒業論文を口頭発表しており、研究の成果を世に広く報告することを目的としています。

発表後に「卒業論文提出後も発表の準備でしかなかったし、今日も緊張したけれど、やりきれて良かった」「社会人になって営業として働くので、プレゼンで培ったことを活かせるようにこれからもがんばっていく」などの感想がありました。

部活動だけでなく研究を含めた学修においても、大学生活の『完走』を実感した歓喜にあふれた学会となりました。



発表者と演題は以下の通りです。

塩沼直希（体育4年）

『バドミントン・スマッシュにおけるシャトル速度と角速度の関係性』

舘田悠汰（体育4年）

『バドミントン・男子シングルスにおいてゲーム終盤にスマッシュを打つことの有効性』

山口将史（体育4年）

『バドミントン競技・男子シングルスにおけるスマッシュの重要性』

本間雄大（体育4年）

『バドミントン競技におけるハイバックハンドストロークに関する研究』

武藤大地（体育4年）

『バドミントン・男子シングルスにおけるスマッシュエースまでの時系列パターンの分析』

玉手郁奈（体育4年）

『バドミントン競技の混合ダブルスにおける男女のラリー参加からみた勝者-敗者間の比較』

前田陽向（体育4年）

『バドミントン・オーバーヘッドストロークにおける「ゼロポジション角度」と競技歴の関係』

須田翔大（スポーツ情報マスメディア3年）

『バドミントン競技のリアコートにおけるフォア側とバック側のスタッツ比較』

佐藤美咲（スポーツ情報マスメディア2年）

『バドミントン・女子シングルスにおけるロングサービスに対する返球の分析』

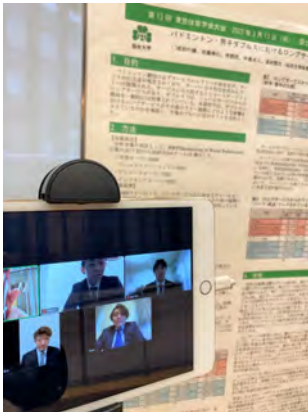
学生が東京体育学会第13回学会大会にオンラインで参加

3月13日、国士舘大学世田谷キャンパスにて東京体育学会第13回学会大会が行われました。先週の日本バドミントン学会に続き、林直樹研究室の3年生8名がポスター発表を行いました。最近では珍しく対面での開催となった学会でしたが、東京都が蔓延防止等重点措置地域であったため、学生の現地参加は断念し、Zoomにて繋いでポスター前での「責任着座」という形をとりました。本来であれば会場にて直接触れ合いご指導いただくのが一番ですが、Zoomでも多くの先生方が対応してくださり、質問やアドバイスをいただくことができました。

発表後に「他の大学の先生にアドバイスをいただけたことに感動した」「研究デザインの勉強になった」などの感想があった反面「この一連の作業を来年度は一人でやるのか」「早めに取り組まないと間に合わない」などの不安も同時に述べていました。

今回は8名のゼミ生を「バドミントングループ」と「共生グループ」に分けて、研究活動を行いました。「共生」とは学習指導要領においてもキーワードとなっているもので、広く「人と人」「人と自然」「国と国」というような「関係性」について学際的に考えていく分野として設定しています。今回は「東日本大震災に関連する共生」について考えましたが、今般の「戦争」についても議論していけるような形にできればと思います。

発表者と演題は以下のとおりです。



成田行磯、伴野匠（体育3年）、
佐藤倅心、中島光人（健康福祉3年）、
須田翔大（スポーツ情報マスメディア3年）
「バドミントン・男子ダブルスにおけるロングサービスの有効性」

大橋美紅、福士廉、谷津宏輝（体育3年）
「東日本大震災発災以降の公園の利用に関する考察」



川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol. 47

助手 高野 順平

今年の2月から川平ATルームでアスレティックトレーナーとして勤務し、普段は川平ATルームで仙台大学附属明成高校のアスリートのサポートをしております。私は、アメリカの大学でアスレティックトレーニングのカリキュラムを終了し、全米アスレティックトレーナーズ協会認定トレーナーの資格を取得した後、アメリカの大学で勤務しておりました。日本に帰国後はプロスポーツや病院などで勤務し、日米でのアスレティックトレーニングの違いやスポーツを取り巻く環境やシステムの違いなど、良い点・悪い点と色々感じるところがありました。アメリカでは大学だけでなく、多くの高校でも常勤のアスレティックトレーナーがおり、怪我の予防・評価・リハビリなど、学生アスリートのサポートをしております。スポーツでの怪我を100%予防することは難しいですが、学校は学生たちに少しでも安全な環境を提供しようとして努力しているのではないのでしょうか。日本でもアメリカと同じように学生スポーツは盛んですが、残念ながら安全な環境作りという点では、まだまだ課題は多いと思います。しかし、仙台大学附属明成高校には、高校レベルで複数のアスレティックトレーナーが常駐している、日本ではかなり稀な環境があります。この環境で今まで経験してきたことを活かし、日本のスポーツの環境、また、高校スポーツの環境にあったアスレティックトレーニング活動を目指し、学生たちのサポートをしていきたいと思います。また、私は国内外で色々な所に住んだ経験があるのですが、東北に来るのは今回が初めてで、新しい職場環境だけでなく生活環境にも早くなじめるよう頑張っていきたいと思います。よろしくお願い致します。

第二グラウンド芝生（暖地型・寒地型芝生）に肥料追加散布実験の状況

寒地型芝生、ペレニアルライグラスとトールフェスクに対して化成肥料カントリーホスカとネオターフを追加散布して効果を観察し、実験区C-2と実験区C-3を掲載しました。



写真 1. 試験区C全体、寒地型芝草区域
北側（左）：ペレニアルライグラス、
南側（右）：トールフェスク

試験区 C 肥料追加散布	
実験区：C-1 化成肥料（カントリーホスカ 36g/m ² ）	
実験区：C-2 化成肥料（ネオターフ 36g/m ² ）	
寒地型芝生：左側、ペレニアルライグラス	
実験区：C-3 化成肥料（カントリーホスカ 36g/m ² ）	
実験区：C-4 化成肥料（ネオターフ 36g/m ² ）	
寒地型芝生：右側、トールフェスク	
実験区 C-1、 カントリーホスカ ライグラス	実験区 C-3、 カントリーホスカ トールフェスク
実験区 C-2、 ネオターフ ライグラス	実験区 C-4、 ネオターフ トールフェスク

図 1. 試験区Cの説明、肥料散布
東側（上）：カントリーホスカ、
西側（下）：ネオターフ



写真 2. 実験区 C-2 近景（散布直後）
散布肥料：ネオターフ
寒地型芝生：ペレニアルライグラス

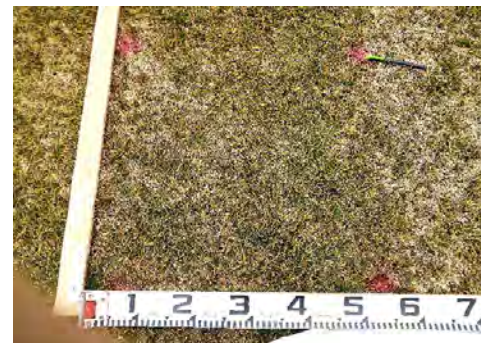


写真 3. 実験区 C-2、近景（3か月後）
散布肥料：ネオターフ
寒地型芝生：ペレニアルライグラス



写真 4. 実験区 C-2 接写（散布直後）
散布肥料：ネオターフ
寒地型芝生：ペレニアルライグラス



写真 5. 実験区 C-2 接写（3か月後）
散布肥料：ネオターフ
寒地型芝生：ペレニアルライグラス

ラグビー・アメリカンフットボール場の寒地型芝生はラグビーボールの南側（写真の右側）を境に北側にペレニアルライグラスを南側にトールフェスクを播種して育成している。その境界を跨いで、赤印のマークを中心にして1m四方の試験区 Cを4分割して、図 1の通りの組み合わせで緩効性チッソ肥料を散布し観察しました。ネオターフはチッソ、リンサン、カリ、クドの含有率は12-6-8-2でバランスよい内容で、微生物でゆっくり分解し、また肥料焼けが発生しにくい緩効性肥料です。カントリーホスカはチッソ、リンサン、カリ、クドの含有率は10-5-8-5で水に溶けにくく、化学分解あるいは微生物分解を受けて、ゆっくりと少しずつ溶ける緩効性肥料です。両方とも似通った性質です。今回は写真の精度が低く比較が困難ですが現地で実際に観察すると様子が分かります。

今後の課題として数回実験を繰り返して、散布時期の環境（温度、地温、水分量、経過時間など）を把握して効率良い散布を研究することです。



写真 6. 実験区 C-3 近景（散布直後）

散布肥料：カントリーホスカ

寒地型芝生：トールフェスク



写真 7. 実験区 C-3 近景（3か月後）

散布肥料：カントリーホスカ

寒地型芝生：トールフェスク



写真 8. 実験区 C-3 接写（散布直後）

散布肥料：カントリーホスカ

寒地型芝生：トールフェスク

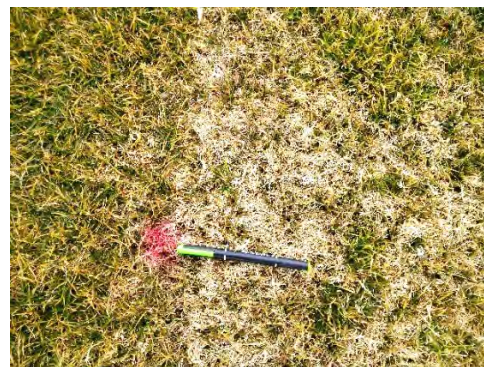


写真 9. 実験区 C-3 接写（3か月後）

散布肥料：カントリーホスカ

寒地型芝生：トールフェスク

（R4. 3. 21. 記）

退職される先生方からメッセージをお寄せ頂きました

今年度で退職される先生方から本学教職員や学生へむけて想いの込められたメッセージをお寄せいただきましたのでご紹介します。



教職員・学生・すべての関係者に感謝

教授 鈴木 省三

今から41年前の昭和56年、26歳の年、北海道の王子製紙（株）を退職し、仙台大学に入学しました。母校で学び・育てられそして生かされ、無事定年退職を迎えられたことを大変嬉しく思っております。今日までご指導いただきました関係各位、ともに切磋琢磨して大学づくりに邁進した教職員・学生の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

特に私の研究・教育・社会貢献活動の礎を築いて下さいました恩師の佐藤佑教授（運動生理学）、私の生涯の研究テーマで「狙った大会で最高のパフォーマンスを発揮するプログラムデザイン」の理論と実践を海外留学中にご指導いただいたDavid smith教授（カナダ・カルガリー大学）、さらにその理論を用いて実践・応用し、成果を上げたスポーツ現場の実践例を博士論文「Program design based on a mathematical model using rating of perceived exertion for an elite Japanese sprinter」の完成まで、特に数理モデルの計算式作成の理論と実践をご指導いただいた東北学院大学人間情報学生命情報領域の高橋彌穂教授、ボブスレー・スケルトンのオリンピックJuryとして15年間、世界選手権・3度のオリンピックを通してスポーツのフェアプレー・規範・敬意・仲間との友情等「スポーツの価値」と社会貢献活動についてご指導いただいたUeli Geissbuehler氏（スイス）の教えは、私の大学での授業・研究・部活動・社会貢献事業が継続できた「宝物」でありました。

現在、大学を取り巻く環境は内外とも大変厳しい状況ですが、教職員の底力を信じ、一枚岩になり難局を突破しながら一步一步前進するものと確信しています。

最後に皆様の益々のご多幸と大学の更なる発展を祈念しています。



仙台大学での12年間

教授 渡邊 康男

12年間の仙台大学での教員生活でした。教職関係、主に特別支援教育を担当いたしました。前半は特殊教育から特別支援教育へと大きな転換が緒についてばかりのところで、「特別支援とは」「発達障害って?」とか夢中になって授業をしていたように思います。教員採用試験の対策にも関わらせていただきました。

「先生、あのね〜」赴任して2年目の5月のある日の午後。3人で訪ねてきた学生が、お茶を飲みながら講義の愚痴や部活のことやら、ひとしきり話をすると、「また来ま〜す」と研究室をあとにした。その翌日、別の学生が「この部屋で勉強してもいいですか」と聞いてきた。机の上にノートを広げて何やら勉強する構えだ。

後で聞いてみると、いずれも教員を目指す4年生で、図書館や学食の隅で勉強しているということでした。それから、学生諸君との交流が始まりました。勉強するところがあればと研究室を解放したが、多くは休憩に立ち寄りコーヒーをすすっては愚痴を吐き出していきました。現在は多くが教員として活躍している先輩諸氏の若かりし頃のことです。

先生方や事務の方々の理解を得て、B棟2階に「教職支援コーナー」が許可され、学生たちの自主学習のスペースが設けられるようになった。今では教職支援室として教職関係の窓口となっています。これからも多くの学生諸君を支える場となっていくことを祈念します。

後半は教材のデジタル化に向けた取り組みと突然のon-lineの授業の開始に、旧式の頭脳が振り回され青色吐息でした。具体的に教室での授業のイメージの少ない学生さんにいかにしてイメージをさせられるか。難問でした。結局、on-line、リアルタイム方式でペンタブを利用して仮想の黒板を使っの授業に挑戦しました。

いつも授業で学生諸君に言っていた「頭は柔らかく?」実践は難しいものです。

仙台大学の益々のご発展をご祈念申し上げます。ありがとうございました。

「5年間お世話になった仙台大学を“卒業”するにあたって思うこと」

教授 佐々木 鉄男

テレビ局での実務経験を生かして学生の教育に当たるつもりで5年前仙台大学に来了。しかし、そのときすでに学生の関心事はテレビではなく、メディアとしてのインターネット、YouTube、そしてSNSだった。当時から卒論のテーマも「テレビの視聴率低下の原因」「インターネットが次のメディアの主流になりうるか」といったものが中心であった。テレビに携わっていた時代から薄々感じていたことでもあったが、学生はもっと先を行っていた。2005年にライブドアの堀江貴文と楽天の三木谷浩史が相次いで東京のキー局を手中に収めようとしたとき、ヒルズ族、IT長者からジャーナリズムの砦を守りぬかなければと本気で思っていた。あのときもし別の選択をしていたらテレビはその後どんな道を歩んだのだろうか。

2月24日、ロシアがウクライナに侵攻し世界に衝撃が走る。誰がどう見てもロシアに正義はなく、プーチンは戦争犯罪人だ。侵攻から1ヵ月、ウクライナのゼレンスキー大統領の日本の国会での演説が共感を呼んでいる。テレビで流れる戦闘と犠牲者の生々しい映像の多くはSNSを通して伝えられたものだ。映像は人々の心を揺り動かし、世界各地で戦争反対の声があがる。SNSはこれまでテレビや新聞が担ってきたメディアとしての役割を一定程度果たしているといえる。しかし一方で、やはり危険な一面も姿を現す。AIによって作成された偽のゼレンスキー大統領が「降伏」を呼びかける動画などいわゆるフェイクニュースだ。SNSとどう向き合うのか、課題は尽きない。ところで、ウクライナ侵攻は北京冬季五輪とパラリンピックの間にはじまり、パラリンピック開催中に拡大した。北京冬季五輪ではロシアは国家として参加できない「ROC」にも関わらず習近平はプーチンを開会式に呼んだ。パラリンピックではロシア選手と、進攻に加担しているベラルーシの選手の出場も見送られた。プーチンは平和の祭典としての五輪を冒とくした。スポーツに関係するすべての人々、組織はもっとロシアに抗議の声を上げるべきではないか。

4年前のちょうど今頃、妻と二人でロシアを旅していた。エルミタージュ美術館やサンクト・ペテルブルグの街を散策することがもうできないと思うと残念でならない。



充実と若返りの7年間

教授 田中 政孝

私は、警察を定年退職後、一般社団法人宮城県警備業協会勤務を経て仙台大学にお世話になりました。大学では現代武道学科に所属し、非常勤講師2年、特任講師5年の計7年間、主に社会の安全・安心に貢献する人材育成に関する実技系科目を担当してきました。また、警察官等の公安職系公務員の採用試験対策にも携わり、学科を超えて学生と交流を持つことが出来ました。はじめは大学の教員ということで戸惑いや不安もありましたが、日々の学生との触れ合いは、心身の躍動を生み、忘れかけていた熱血漢を呼び起こしてくれ、楽しく、充実した毎日を過ごすことが出来ました。

実は、私は警察人生の大半を警察学校や警察本部で射撃や逮捕術、教練、体力検定などの警察術科という実技指導を担当しておりました。大学に来て、学生とともに声を出し、汗を流し、向き合ううちに私の中に蘇るものがあつたのです。

勿論、新たな経験も多くありました。特に新型コロナウイルスの蔓延に伴うオンライン授業の導入は未知の経験でした。グーグルクラスルーム？オンデマンド？m e e t？などなど聞きなれない単語ばかりで、アナログ爺は右往左往でしたが、新しいものへの挑戦はとても新鮮でした。操作がわからなくなるたびに、若い先生方にご教授を頂きました。ご自分のこともあつたのに快く対応していたことには感謝しかありません。

嬉しかったことは、多くの後輩が誕生したことです。毎日、研究室で問題集を解いた学生、小論文で何回駄目だしされても挫けなかった学生、面接指導で泣きながら頑張った学生、3度目の挑戦で合格した卒業生など、夢を叶えてくれたことです。

多くの人々との出会いと経験、そして、学生との絆は私の宝物であり、若返りの妙薬でした。まさに、「若さとは心の状態である」ことを実感し、充実した年間でした。

最後に、仙台大学の益々のご繁栄と教職員皆様のご健勝をご祈念申し上げます。ありがとうございました。

<仙台大学学術会運営委員会>